

福井県の現状データ集

目次

人口

- 1 総人口
 - (1) 総人口の将来見通し ……2
 - (2) 総人口の推移 ……4
 - (3) 年齢別階級人口の比較 ……5
 - (4) 人口増減の推移 ……6
- 2 自然増減
 - (1) 出生数・死亡数 ……7
 - (2) 出生数・合計特殊出生率 ……8
 - (3) 平均初婚年齢・出産年齢 ……9
 - (4) 未婚率 ……10
 - (5) 夫婦の育児・家事、仕事時間 ……11
 - (6) 育児休業の取得状況 ……12
 - (7) 核家族世帯と三世帯世帯の比較 ……13
 - (8) 女性の就労と出生率 ……14
 - (9) 女性の労働力率 ……15
- 3 社会増減
 - (1) 転入者・転出者数の推移 ……16
 - (2) 年齢階級別の県外移動 ……17
 - (3) 地域別の県外移動 ……18
 - (4) U I ターンの状況 ……19
 - (5) 嶺北、嶺南別高校生の進学先 ……20
 - (6) 専修学校の進学分野 ……21
 - (7) 県内出身若者の県内定着状況 ……22
- 4 県内市町
 - (1) 市町別社会増減 ……23
 - (2) 市町別将来推計人口 ……25

県民生活

- 1 暮らし
 - (1) 総世帯数 ……26
 - (2) 三世帯世帯割合 ……27
 - (3) 一人暮らし高齢者の割合 ……28
 - (4) 世帯収入 ……29
 - (5) 労働力率 ……30
 - (6) 外国人住民数 ……31
 - (7) 高齢化集落数・割合 ……32
 - (8) バス・鉄道利用者 ……33
 - (9) 自主防災組織・消防団員 ……35
 - (10) 交通事故件数 ……36
 - (11) 刑法犯認知件数 ……37
- 2 子育て・教育
 - (1) 保育所等の入所率 ……38
 - (2) 児童・生徒数 ……39
 - (3) 教員数 ……41
 - (4) 学力・体力全国順位 ……42
 - (5) 不登校、いじめの認知件数 ……44
 - (6) 中学・高校生の進学率 ……46
 - (7) 県内大学生数、地元就職率 ……47
- 3 医療・福祉・健康
 - (1) 医療費 ……48
 - (2) 医師数 ……49
 - (3) 要介護認定者数・認定率 ……50
 - (4) 認知症高齢者 ……51
 - (5) 介護給付費・介護職員数 ……52
 - (6) 平均寿命 ……53
 - (7) 主要死因別死亡割合 ……54
 - (8) がん検診受診率 ……55
 - (9) 運動習慣 ……56
 - (10) スポーツ実施率・クラブ数 ……57

産業・交流

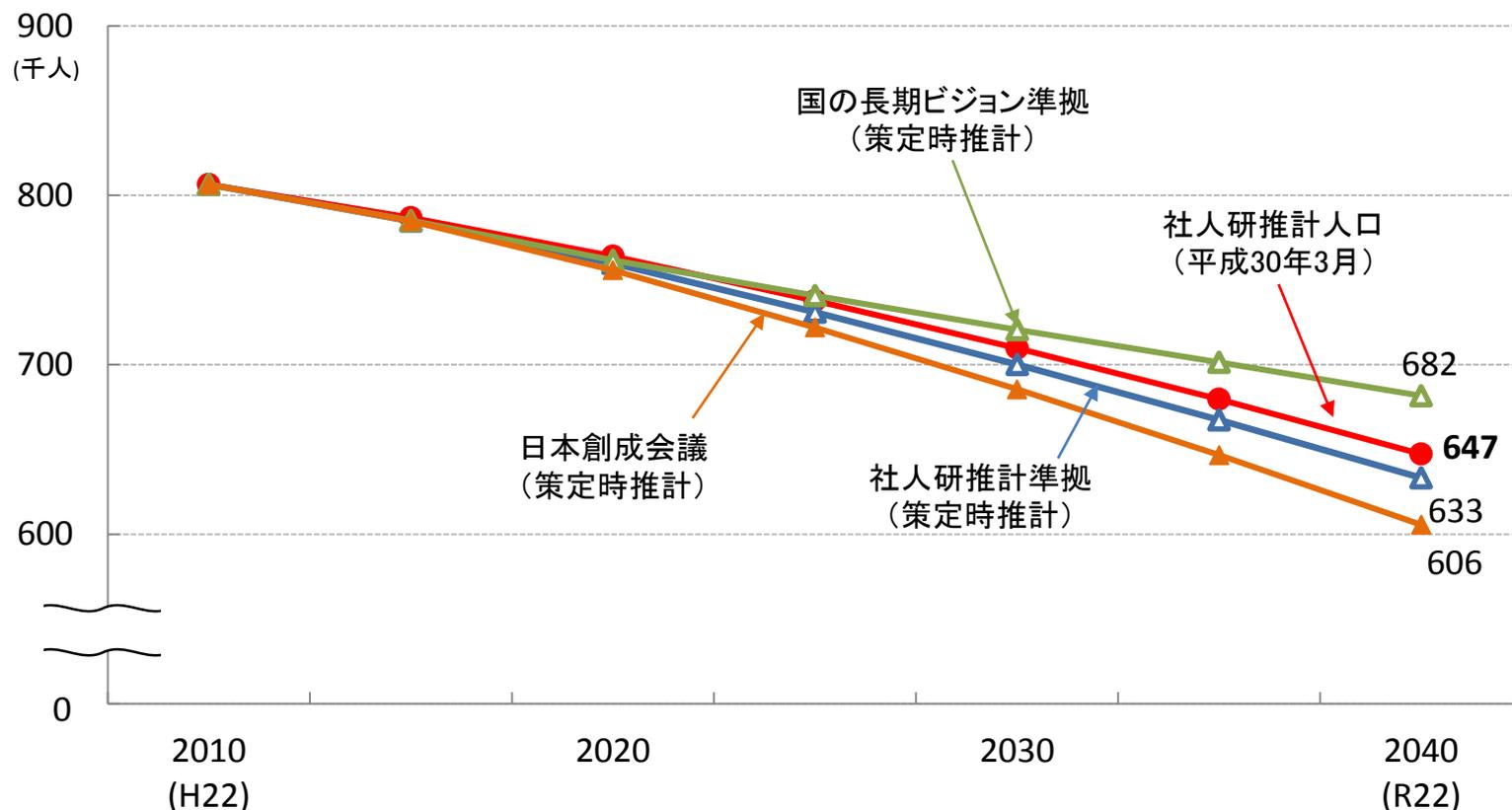
- 1 県内産業
 - (1) 経済成長率 ……58
 - (2) 一人当たり県民所得 ……59
 - (3) 産業構造 ……60
 - (4) 有効求人倍率 ……62
 - (5) 開廃業率 ……63
 - (6) 海外進出の状況 ……64
 - (7) 米・園芸の産出額等 ……65
 - (8) 農地の集積 ……66
 - (9) 規模別経営体数等 ……67
 - (10) 県産材生産量 ……68
 - (11) 漁業生産量 ……69
- 2 交流
 - (1) 観光客入込数・消費額 ……70
 - (2) 外国人宿泊者数 ……71
 - (3) 文化施設入館者数 ……72

社会基盤

- 1 環境
 - (1) 気候変動 ……73
 - (2) 温室効果ガス ……74
 - (3) 再生可能エネルギー ……75
 - (4) ごみ排出量・リサイクル率 ……76
- 2 県土・行政
 - (1) 福井駅周辺の再開発 ……77
 - (2) 高速道路の変遷 ……78
 - (3) 敦賀港の変遷 ……79
 - (4) インフラ老朽化 ……80
 - (5) 県税収入・県債残高 ……81
 - (6) 県職員数 ……82

- 2013年の国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の本県人口は63.3万人まで減少する見込み
- 2015年に策定した「ふくい創生・人口減少対策戦略」（創生戦略）に基づく対策を実施した結果、最新の推計では、前回より1.4万人改善した64.7万人となる見通し

総人口の推計結果



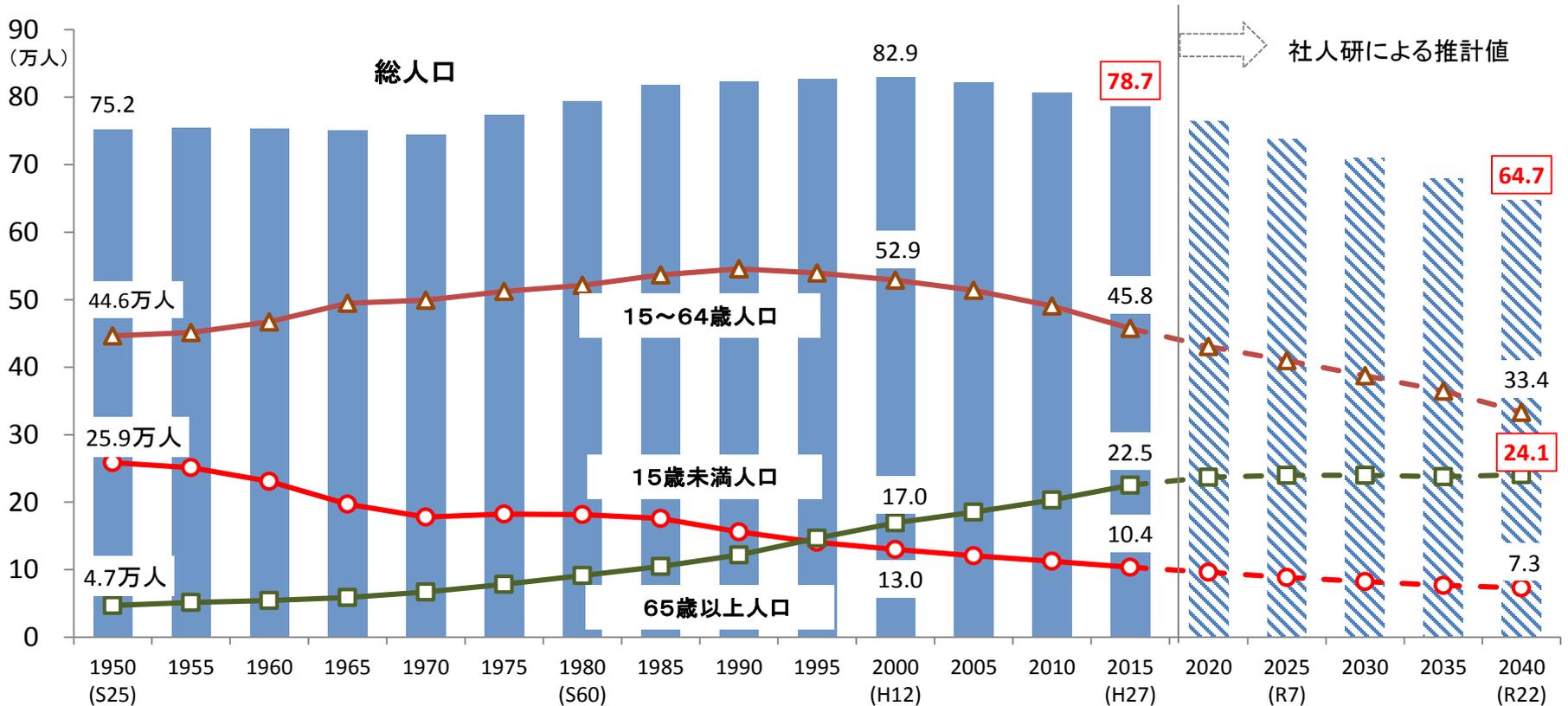
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」、
日本創成会議「全国市区町村別「20～39歳女性」の将来推計人口」

【推計にあたっての条件設定】

	条件		2040年人口
社人研推計に準拠	出生率	出生率が1.5程度(現状と同水準)で推移	633千人
	社会減	2005～2010年の転出超過割合が2020年までに0.5倍に縮小し、その後同水準で推移	
日本創成会議推計	出生率	社人研推計と同じ	606千人
	社会減	2010～2015年の全国の移動総数が現在と同水準で推移	
国の長期ビジョン準拠	出生率	2030年1.80(国民希望出生率) 2040年2.07(人口置換水準)	682千人
	社会減	2020年に東京圏の転出・転入を均衡(概ね地方の転出・転入も均衡)	

- 福井県の人口は、2000年の82.9万人がピーク。近年の人口減少対策により、将来人口予測は改善が図られたが、2040年には64.7万人（▲22%）の予測（当初予測は、63.3万人）
- 65歳以上人口は2040年頃にピーク（24.1万人、高齢化率37.2%）を迎える
- 15歳未満人口、15～64歳人口は一貫して減少

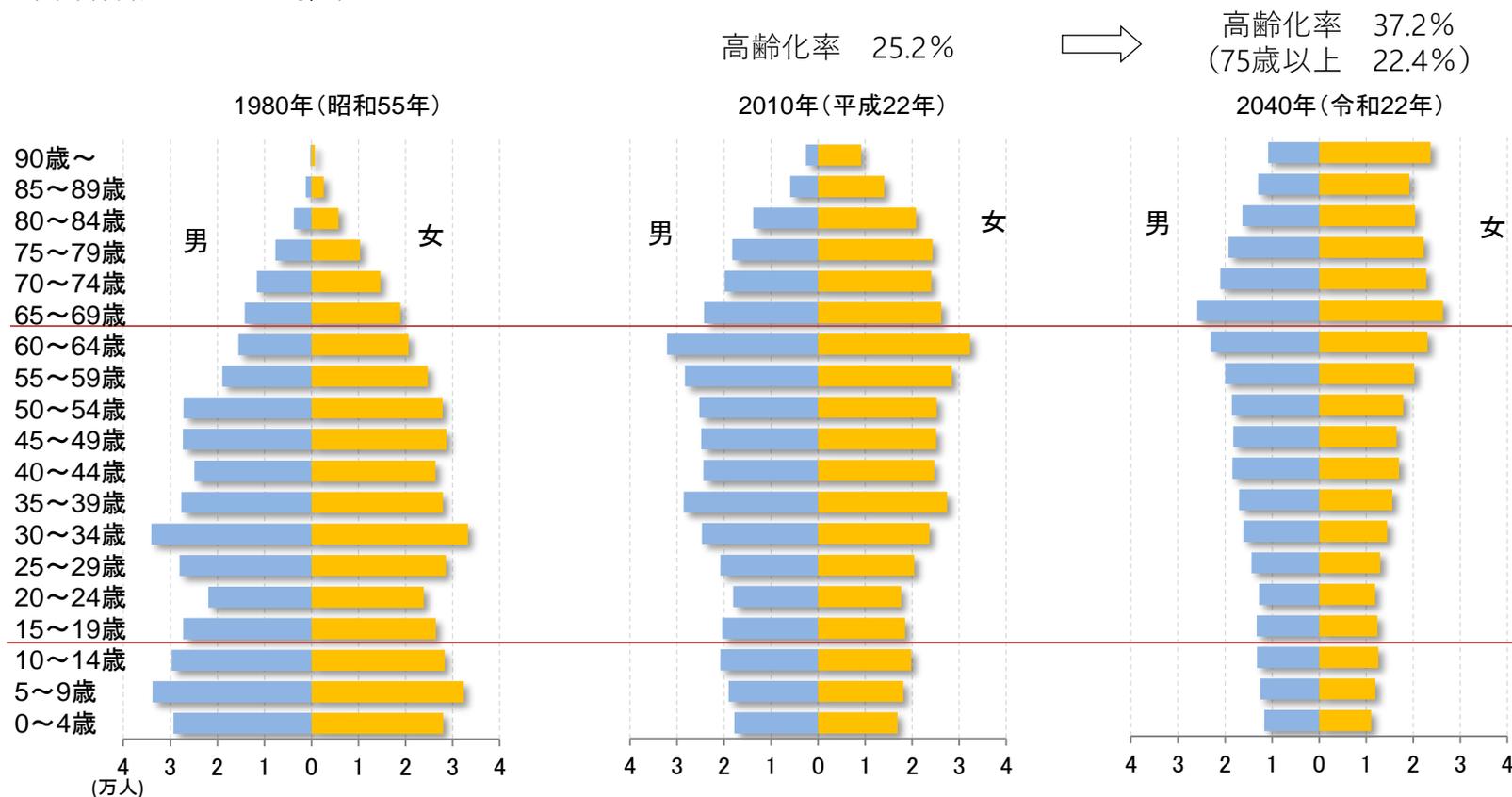
人口推移（福井県）



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口（2018年推計）」

- 1980年は65歳未満の人口が多いピラミッド型だったが、2040年には65歳以上人口が多い逆ピラミッド型の人口構成になる見込み
- 本県の高齢化率は2010年に25%だったが、2040年には37%まで上昇。75歳以上をみても2割を超える

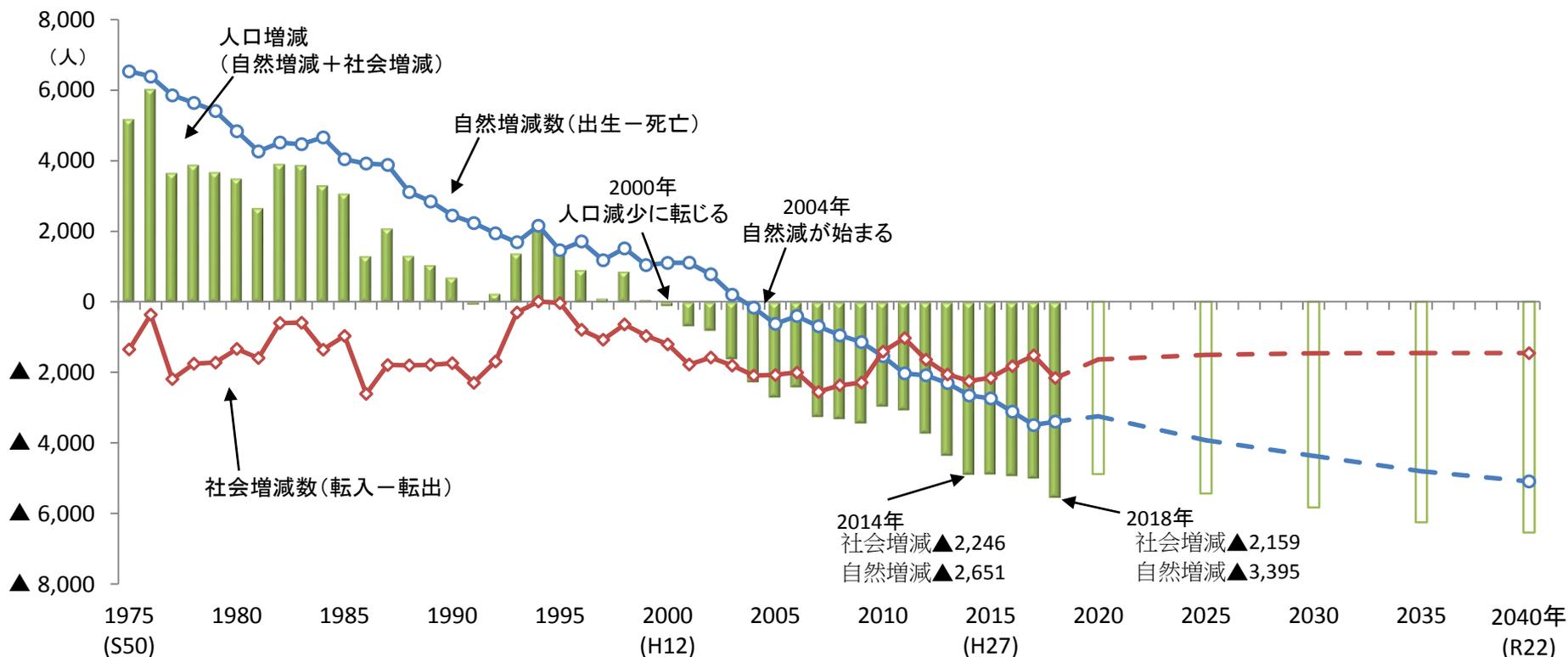
年齢階級別人口の推移



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」

- 2000年以降、自然増加数が社会減少数を下回り、人口減少に転じた。さらに、2004年からは自然減となり、人口の減少幅が拡大傾向
- 2015年の創生戦略の策定以降、社会減は3年連続改善していたが、2018年に悪化

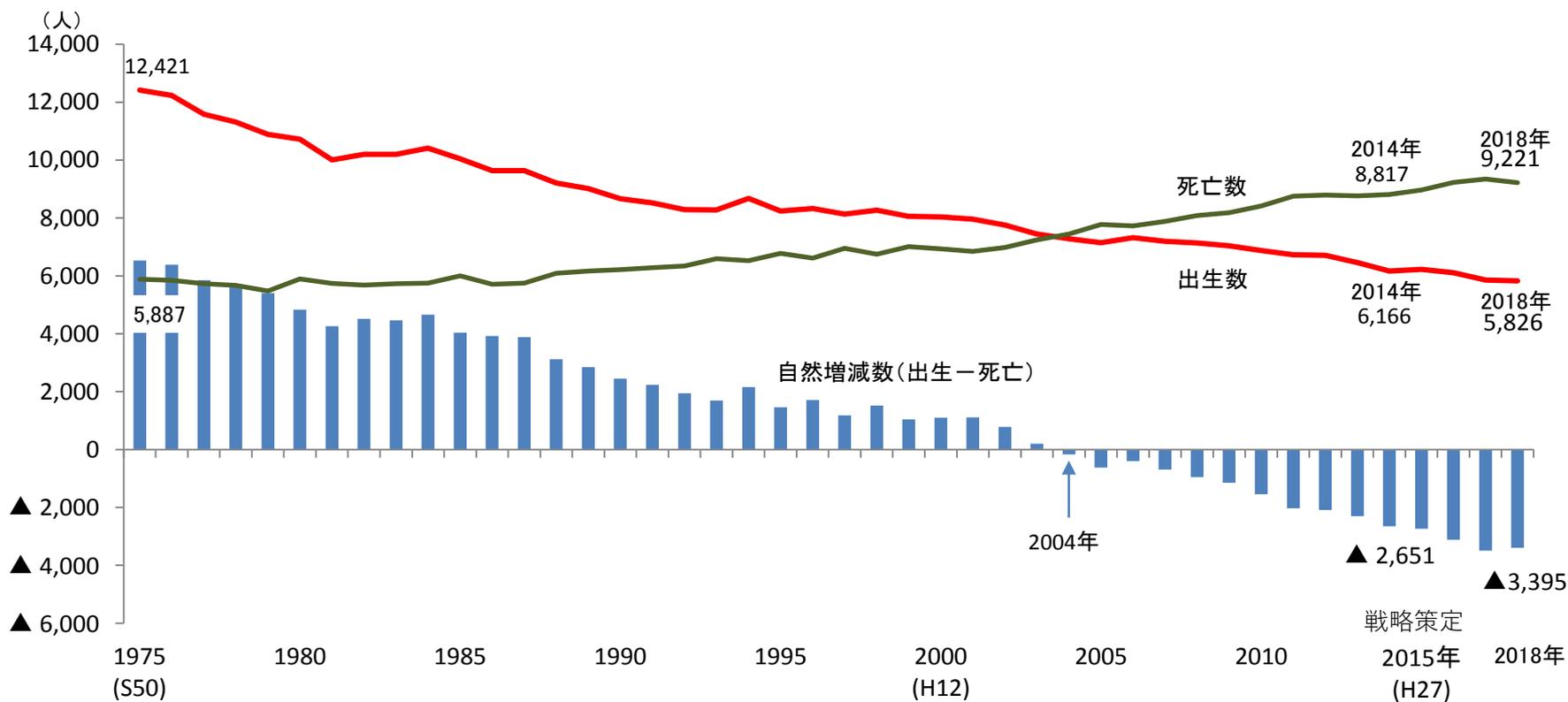
人口増減の推移



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」

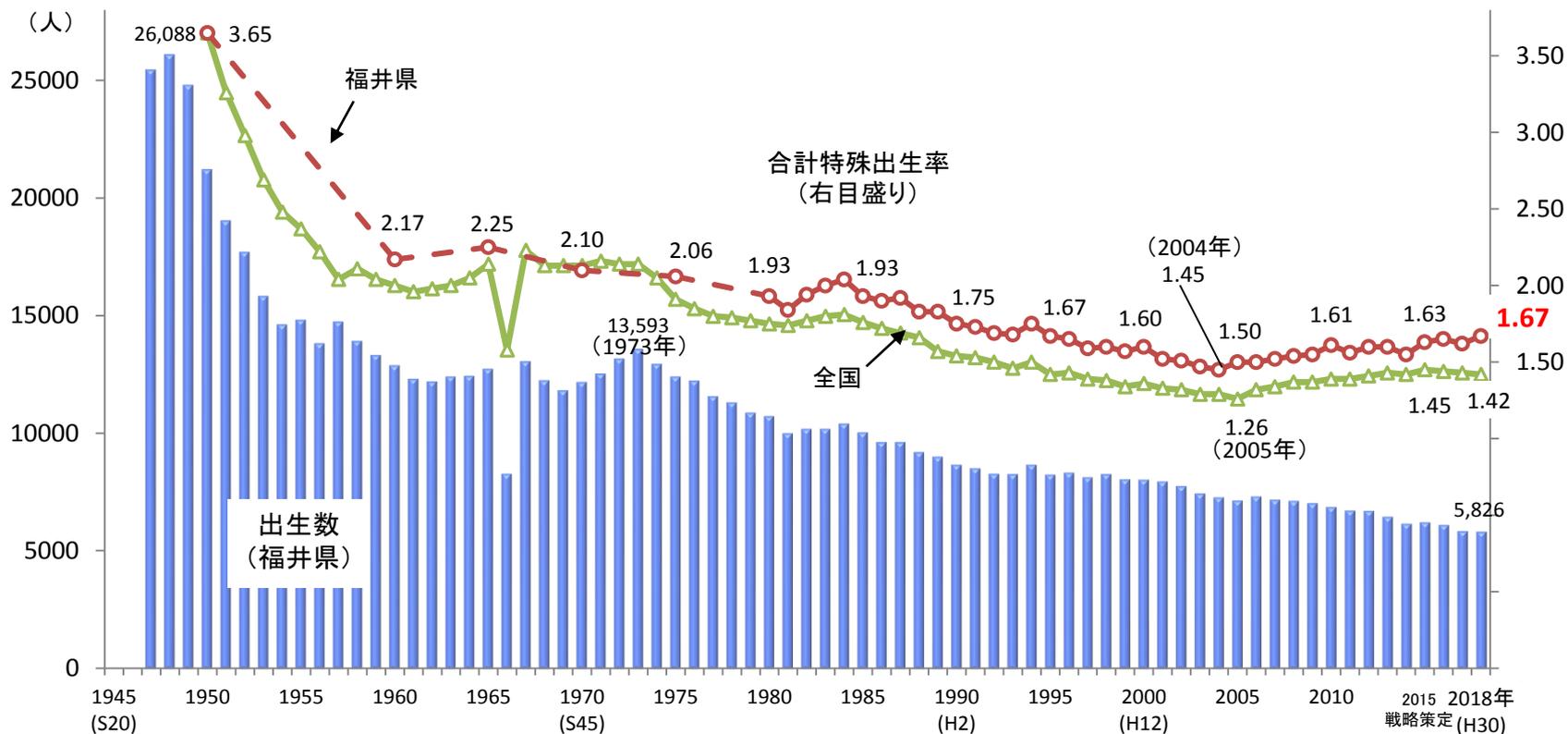
- 出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、2004年以降は自然減が継続
- 2017年以降、出生数が6千人を下回るなど、創生戦略の策定以降も自然減拡大の傾向は変わらず

自然増減の推移



- 本県の出生数は第2次ベビーブームの1973年以降、ほぼ一貫して減少
- 本県の合計特殊出生率は全国を上回る水準で推移し、2004年を底に上昇傾向にあるが、出生数は毎年減少

出生数、合計特殊出生率の推移

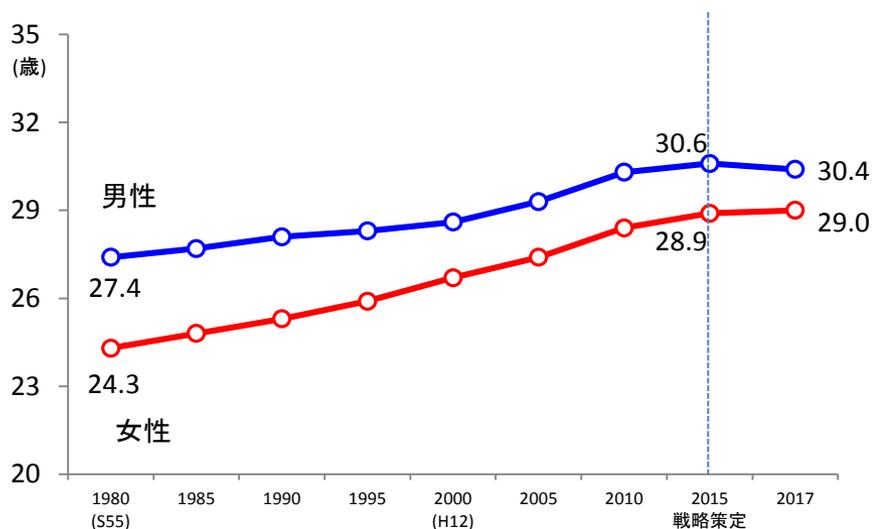


出典：厚生労働省「人口動態統計調査」

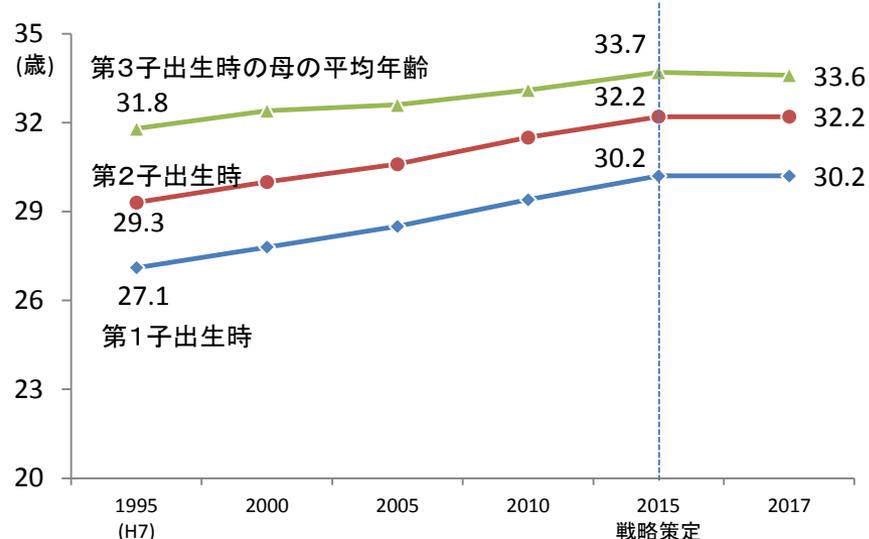
- 創生戦略の策定当時、本県の男女とも晩婚化が進行中。女性の平均出産年齢も上昇していたが、結婚から出産までの期間はほぼ一定（約1年）
- 最新の統計調査によると、男女とも初婚年齢や平均出産年齢が概ね横ばいになりつつある状況

男女別平均初婚年齢と女性の平均出産年齢の推移

①男女別平均初婚年齢



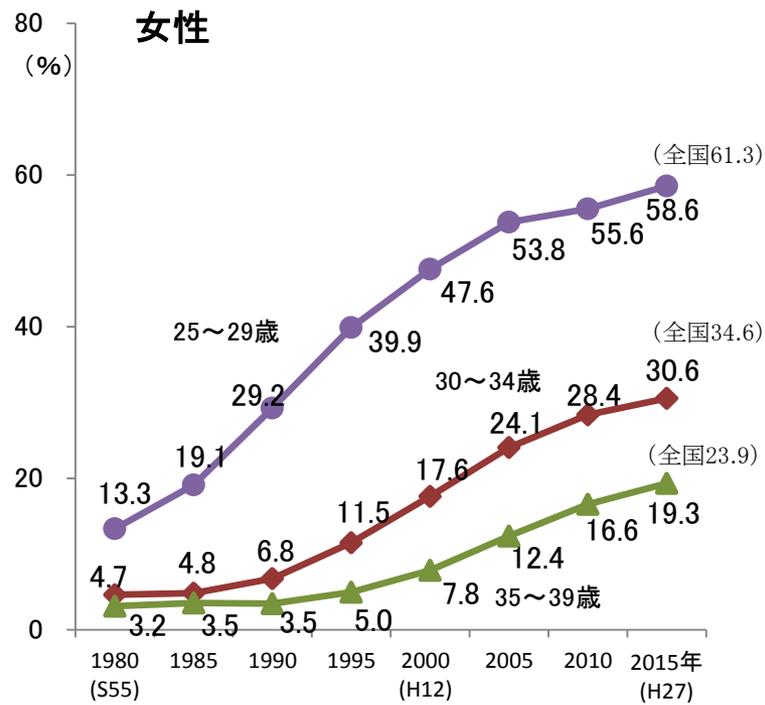
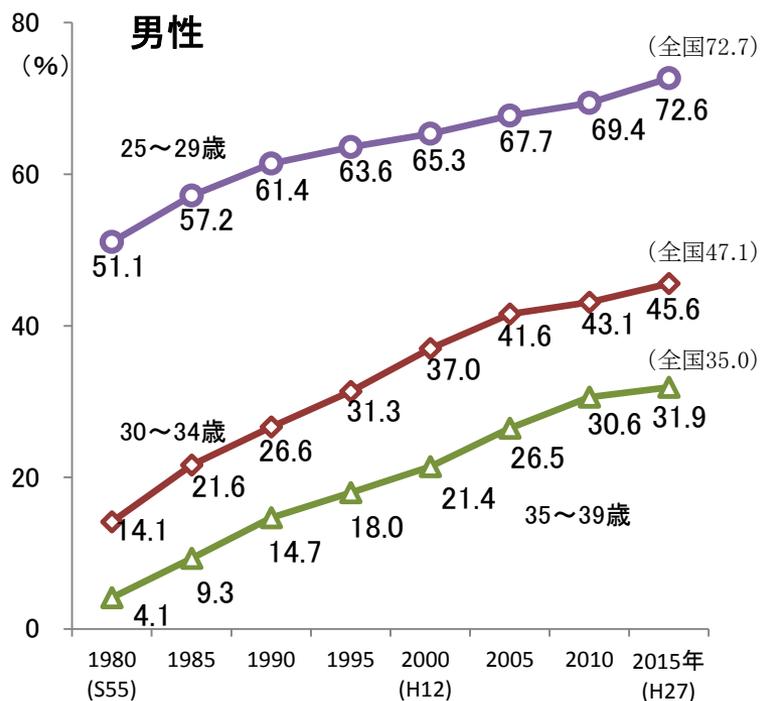
②女性の平均出産年齢の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計調査」

- 創生戦略の策定当時、本県の男女の非婚化が進行しており、35～39歳の男性約3人に1人、女性の6人に1人が未婚
- 引き続き、いずれの年代も全国の未婚率を下回るものの、若い世代では未婚率の上昇幅が大きく、全国との差が縮まる動き（2015年の25～29歳男性未婚率：福井県72.6%、全国72.7%）

男女別年齢別未婚率の推移



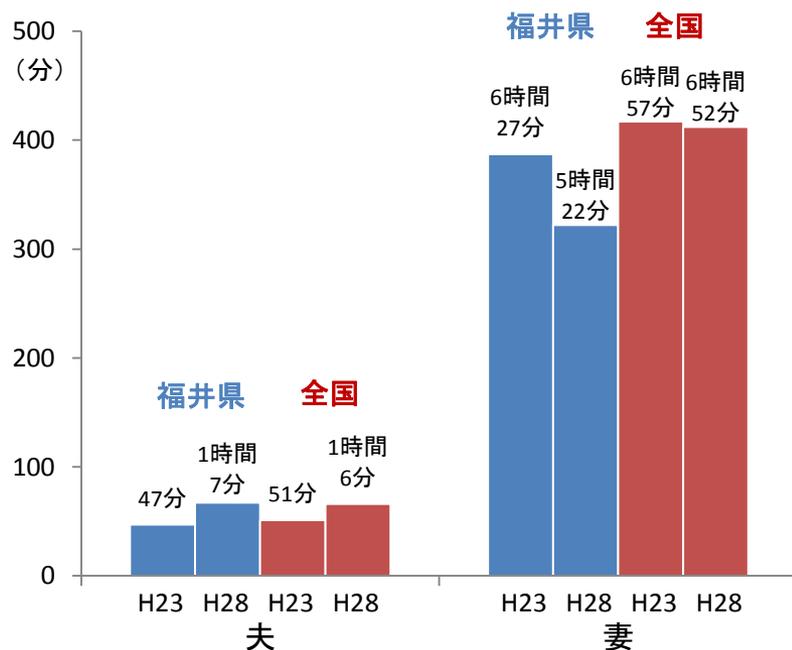
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
婚姻数(組)	4,017	3,705	3,727	3,634	3,744	3,706	3,481	3,453	3,381	3,274

出典：国勢調査、厚生労働省「人口動態統計調査」

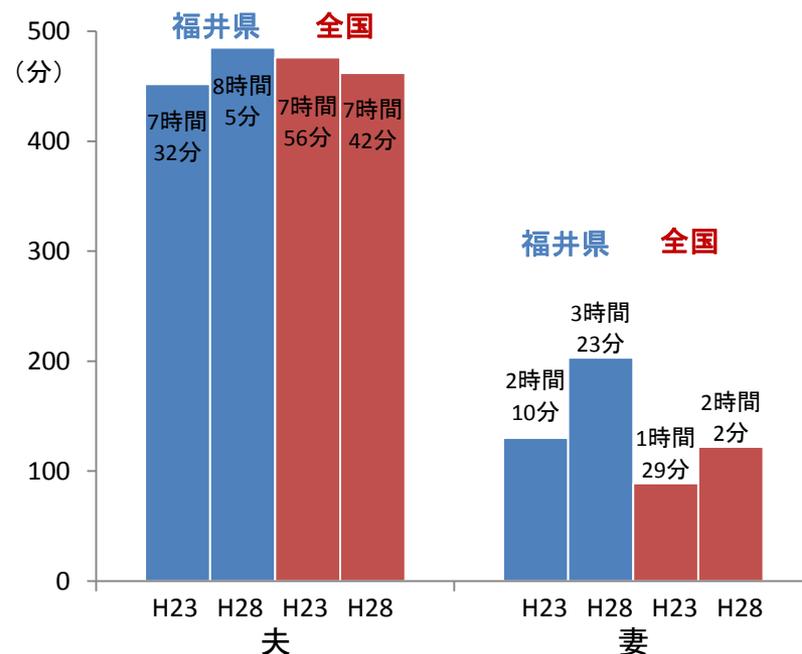
- 本県の夫の育児・家事時間は、全国同様、妻に比べて非常に短い
- 5年前と比較して男女とも仕事時間が増加する中、男性の育児・家事参加が進む傾向がみられる

夫婦の育児・家事、仕事時間（1日あたり）

①育児・家事時間



②仕事時間

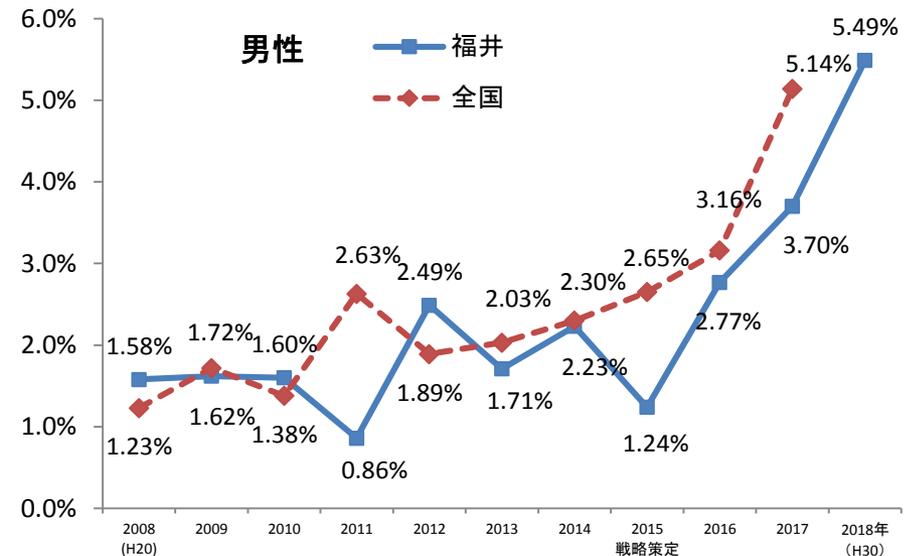
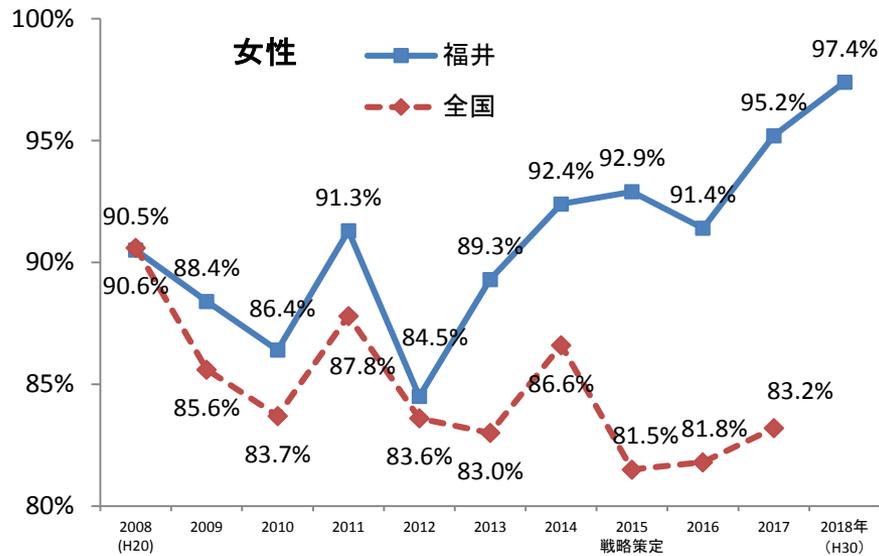


出典：総務省統計局「社会生活基本調査」(H28)

○本県の女性は全国に比べて育児休業の取得割合が高い

○近年、男性の育児休業の取得が進んでいるものの全国に比べて低い水準にある

育児休業の取得状況

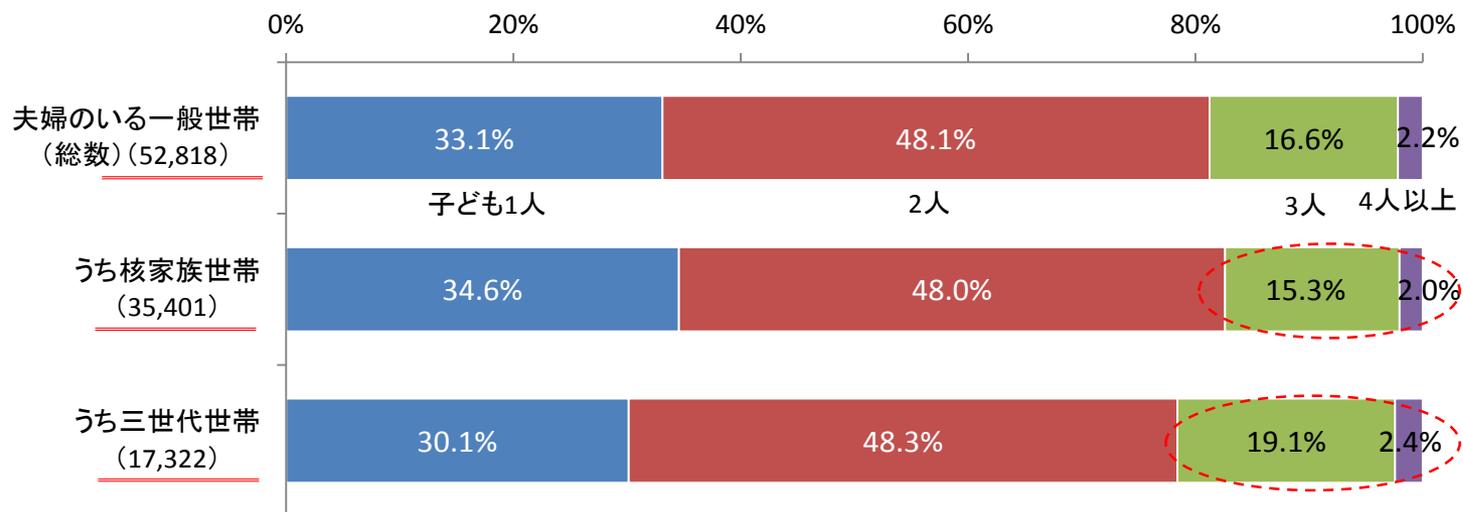


出典：福井県「勤労者就業環境基礎調査」、厚生労働省「雇用均等基本調査」

○子どもが3人以上いる世帯の割合は、核家族世帯が17.3%に対し、三世代世帯は21.5%

○家族形態別の子どもの数は、前回から大きな変動はない

家族形態別、子どもの数の割合



※()内数は世帯数

※夫婦のいる一般世帯は、同居する最年長の子どもが18歳未満の世帯としている。

※子どものいない世帯、最年長の子どもが18歳以上の世帯は対象外としている。

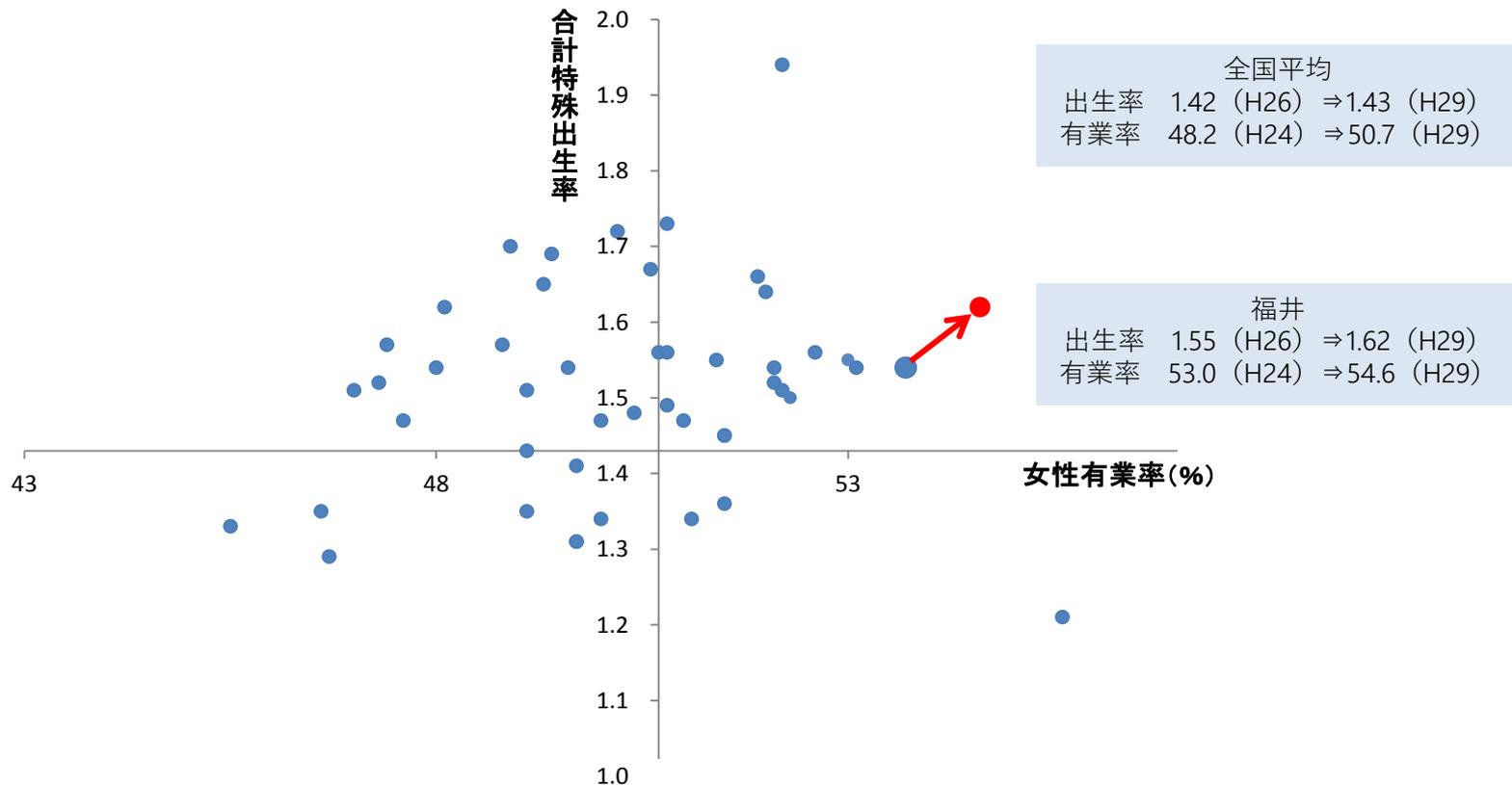
※子どもの数は同居している子どもの数

※夫婦のいる一般世帯には、核家族、三世代世帯以外の世帯があるため、核家族、三世代世帯の世帯合計は、総数と一致しない。

出典：国勢調査（H27）を用いた福井県独自集計

- 本県は、女性の有業率と合計特殊出生率ともに高いレベルで両立
- 近年さらに、出生率、女性の有業率とも伸びており、仕事と子育ての両立支援に対するニーズの増加・多様化が想定される

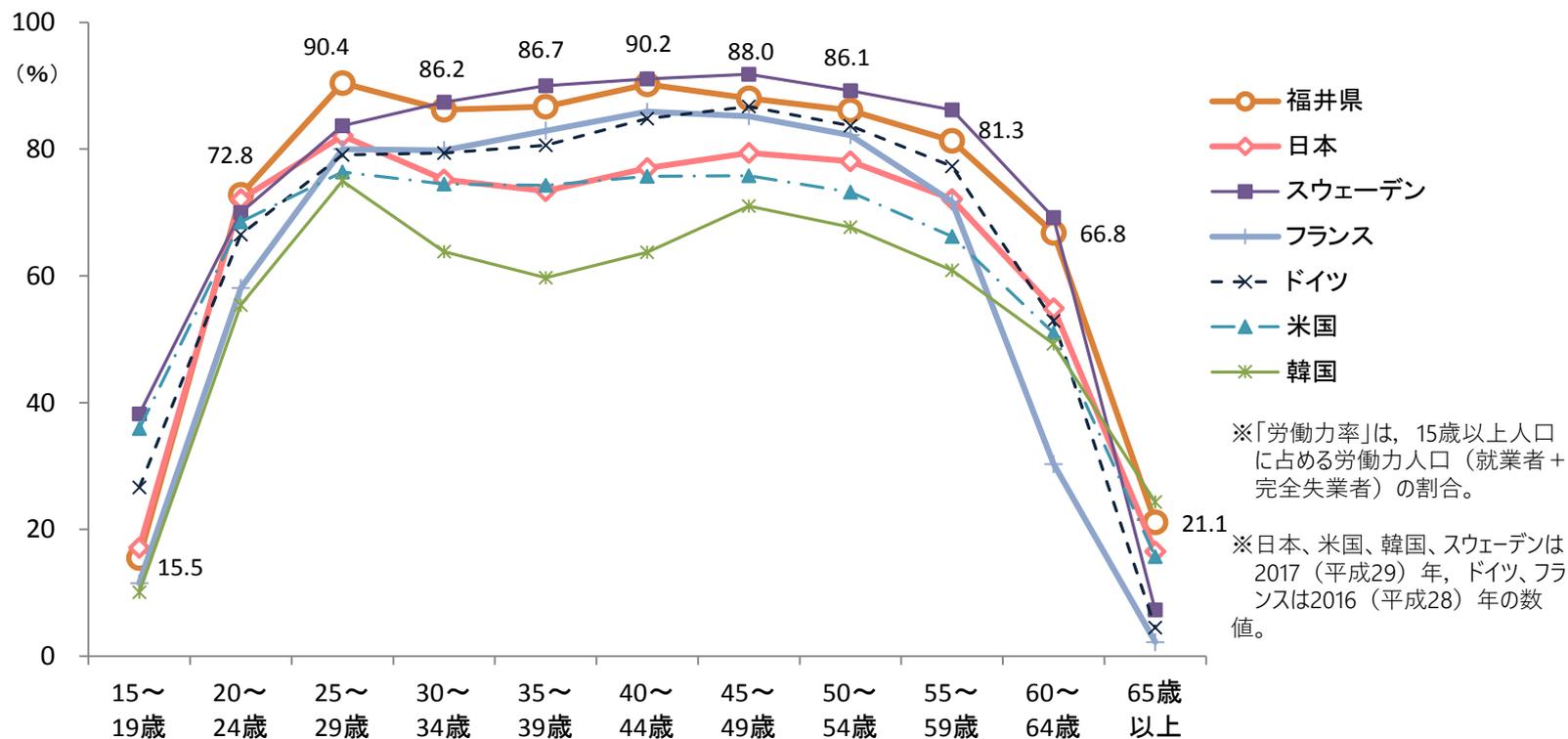
女性の有業率と合計特殊出生率



○本県女性の労働力率は、出産・育児の時期となる30代の落ち込みが少なく、欧州に近く、女性が出産しても仕事を継続する傾向にある

○5年前と比較して、概ね全ての年代で労働力率が上昇

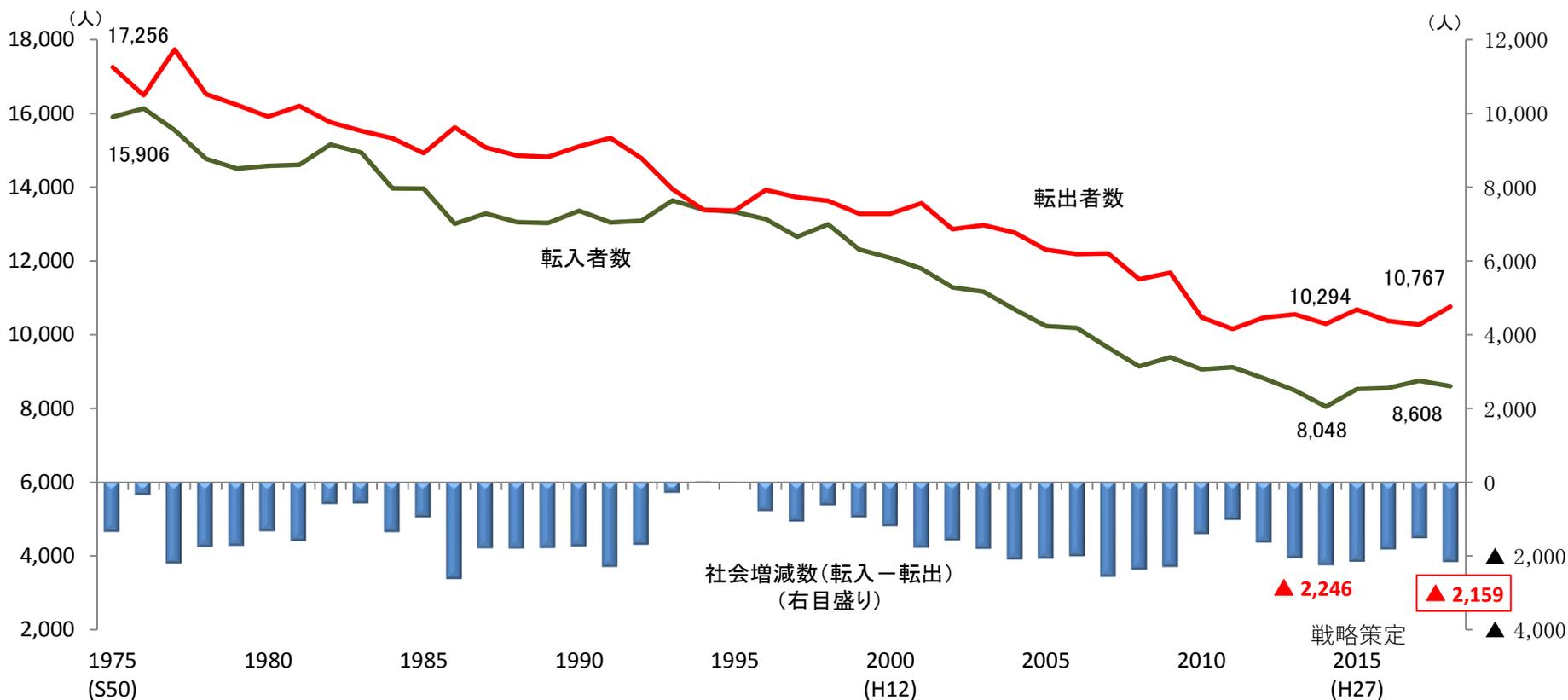
女性の年齢別労働力率の国際比較



出典：内閣府「男女共同参画白書 平成30年版」、福井県「就業実態調査」

- 本県は、概ね転出超過（社会減）の状況にあり、2014年まで転入者、転出者ともに減少傾向
- 創生戦略の策定以降、3年連続で社会減が改善。2018年には、転入者数が引き続き高い水準を維持した一方、転出者が増加し4年ぶりに社会減が拡大

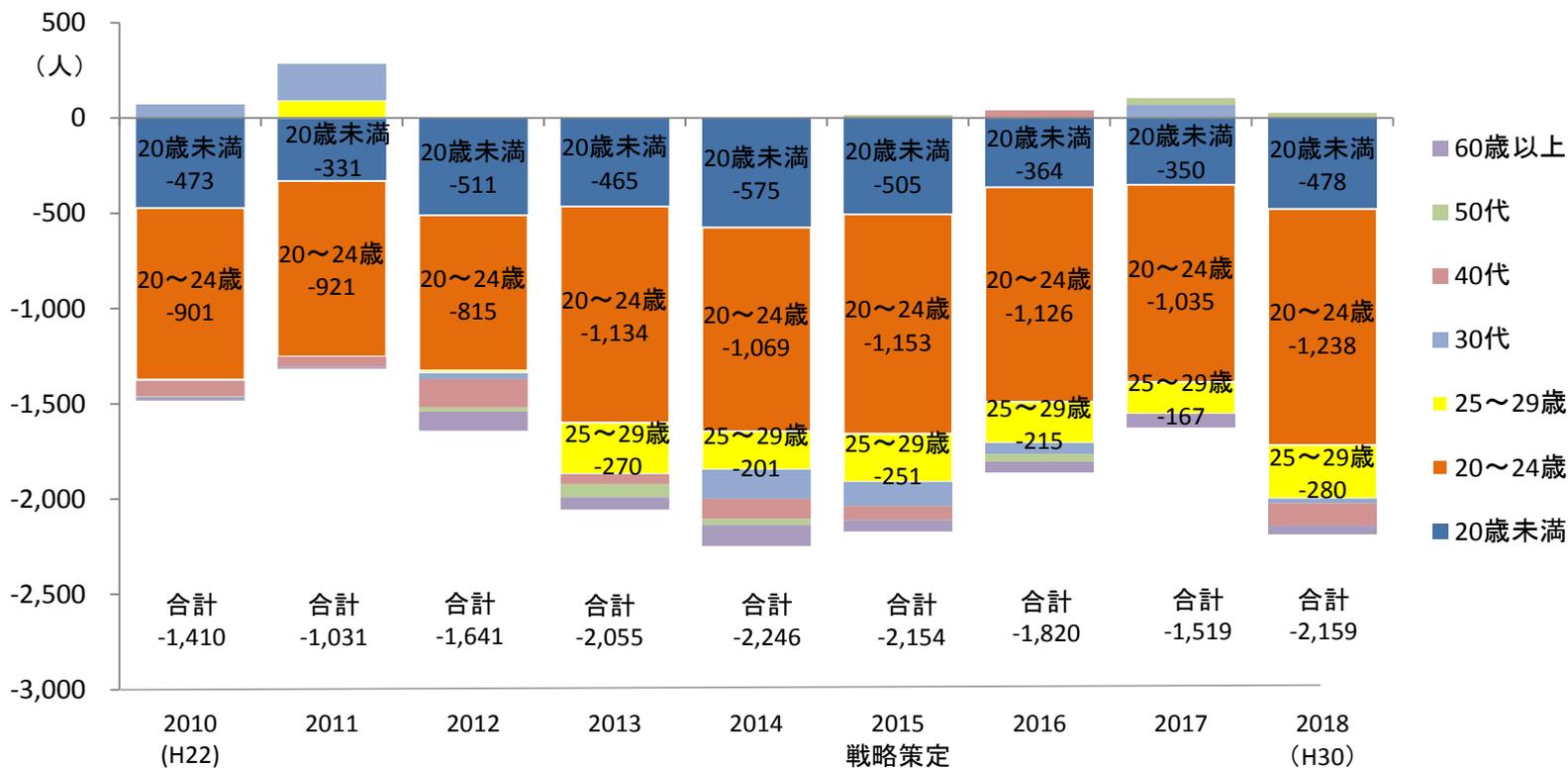
社会増減の推移



○大学進学・就職時の15～24歳の県外への転出が多く、社会減全体のおよそ8割を占める

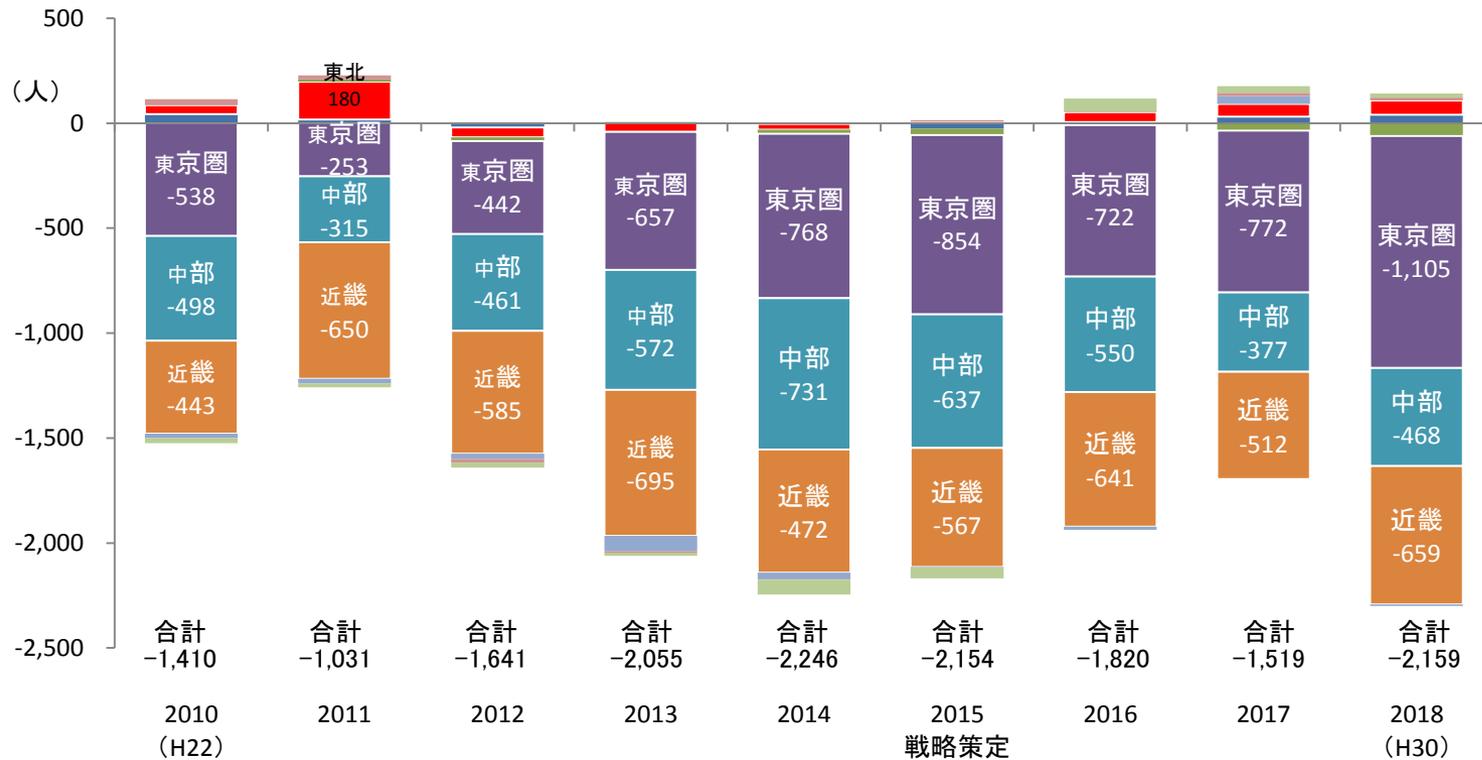
○社会減が拡大した2018年には、特に20歳代前半の転出超過が顕著であり、県内大学生の定着やUターン就職の促進策の強化が求められる

年齢階級別の人口純増数の推移



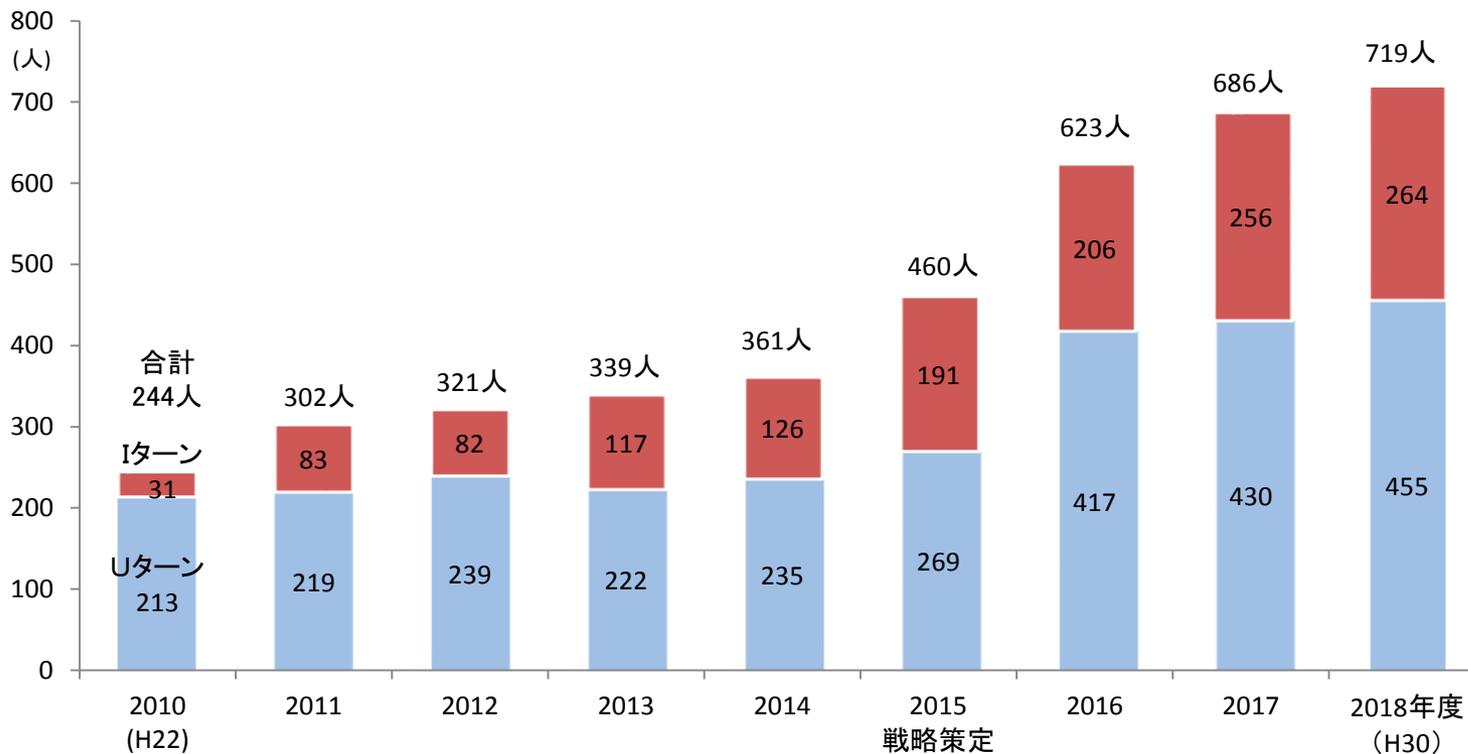
- 東京圏、名古屋圏、大阪圏の三大都市圏と北陸への転出が全体の大部分を占める
- 2018年には本県から東京圏への人口移動が加速。国全体でも東京圏の転入超過数は、2014年の10.9万人から13.6万人に拡大。東京五輪開催や大企業の人手不足による求人増加等の影響と考えられる

地域ブロック別の人口純増数の推移



- 県・市町の支援による本県へのUIターン者数は近年増加傾向にあり、Iターン者数が大きく増加している
- 創生戦略の策定以降、2019年度の目標550人を2016年度に達成するなど、市町と一体となったUIターン促進策の成果が表れている

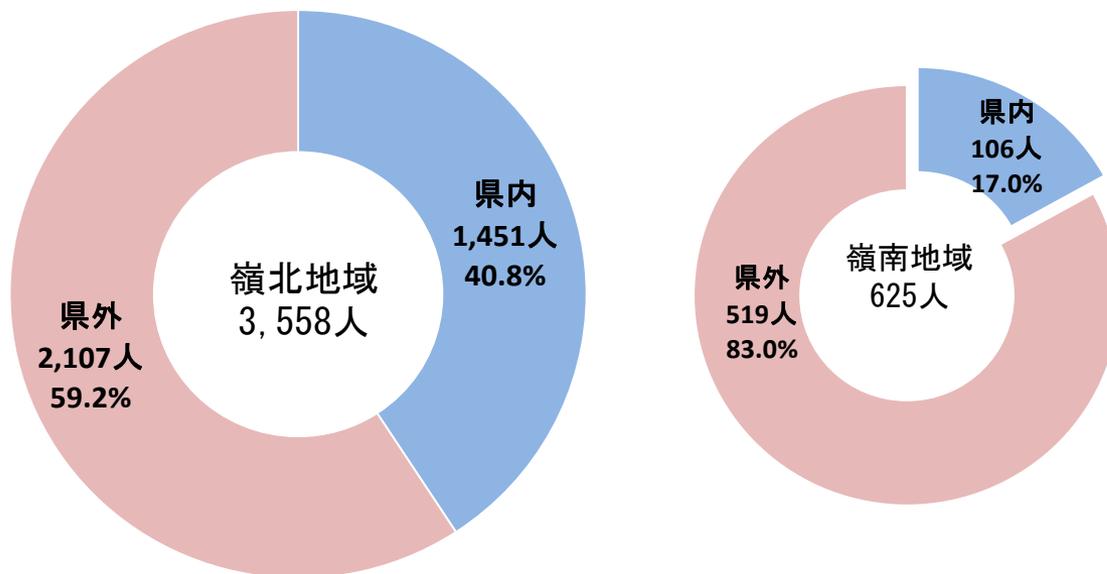
UIターン者数の推移



○県内高校生の県外大学等への進学率は低下傾向

○嶺南地域の高校生は、約8割が県外大学・短大に進学しており、引き続き県外進学率が高い状況

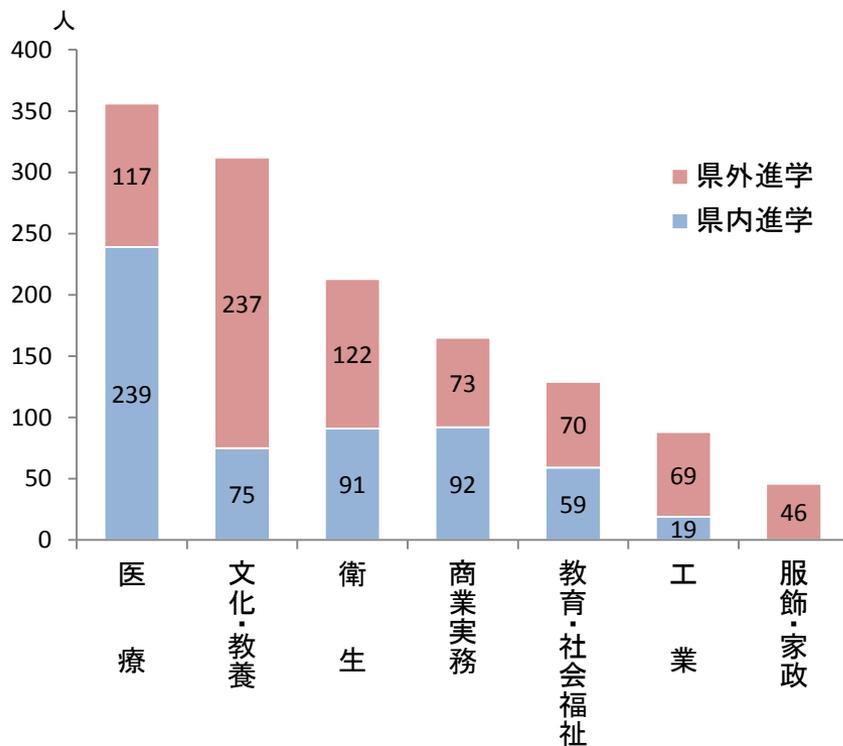
県内高校生の大学・短大への進学状況（嶺北、嶺南）



	2000年	2005年	2010年	2015年	2018年
県外進学	3,139人 (70.7%)	3,068人 (67.8%)	2,738人 (63.1%)	2,621人 (63.2%)	2,626人 (62.8%)
県内進学	1,299人 (29.3%)	1,457人 (32.2%)	1,599人 (36.9%)	1,526人 (36.8%)	1,557人 (37.2%)

- 県外の専修学校への進学割合は、「文化・教養」、「衛生」分野が多い
- 県内の専修学校では、「医療」、「商業実務」分野以外の充足率が低位にあり、県内進学を促進する余地を残す

県内高校生の専修学校への進学状況



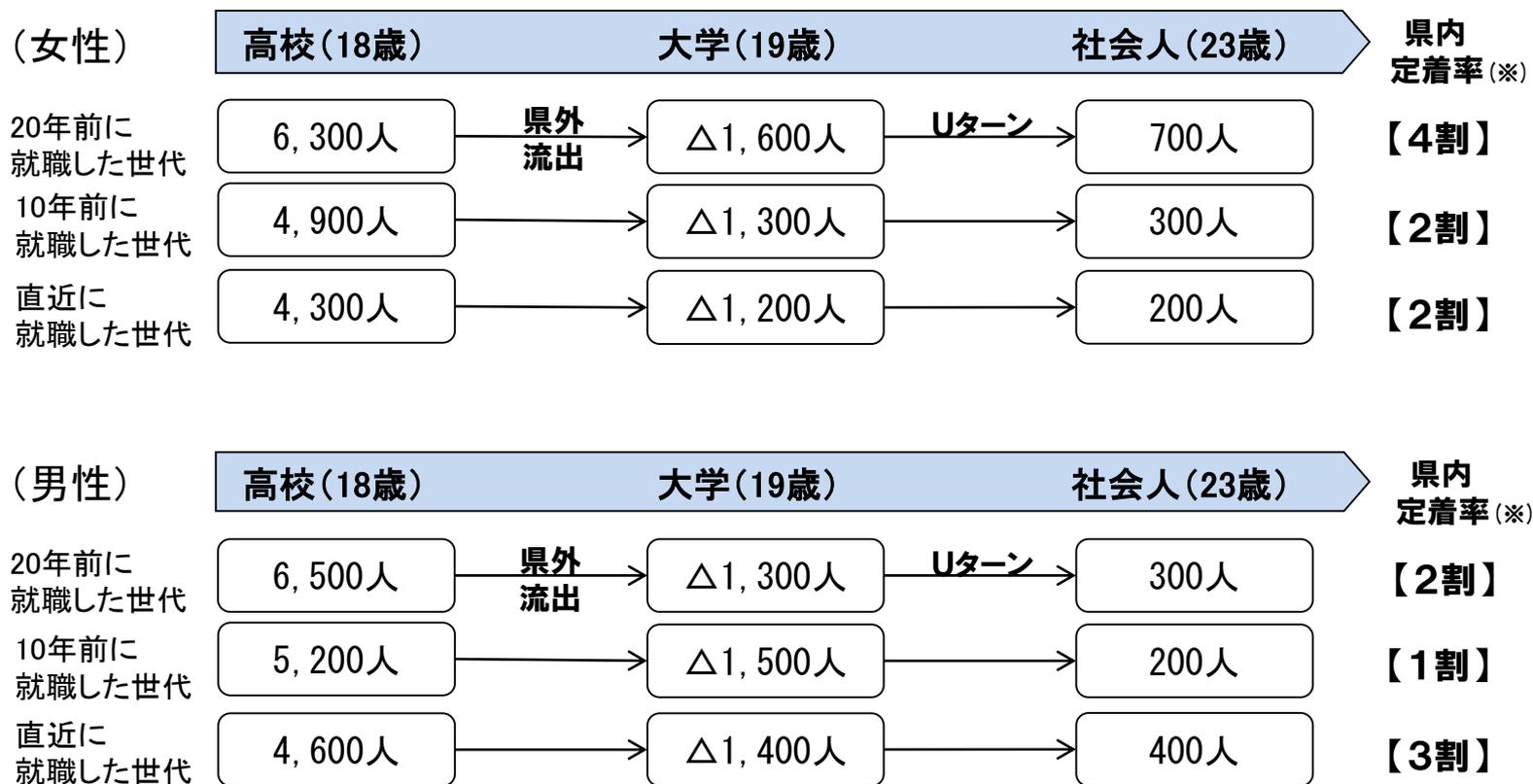
(県内専修学校における充足率等)

分野	定員	実員	充足率
医療	490人	360人	73.5%
文化・教養	460人	166人	36.1%
衛生	755人	230人	30.5%
商業実務	480人	343人	71.5%
教育・社会福祉	570人	210人	36.8%
工業	170人	15人	8.8%
服飾・家政	155人	13人	8.4%

出典：福井県調べ

- 20年前は、高校卒業時に県外転出した女性のうち約4割がUターンしていたが、10年前から2割に低下
- 男性では、10年前にUターン率が1割まで低下していたが、現在、3割程度に回復

図表3-7 若者の県内定着率の比較（20年前、10年前、現在）



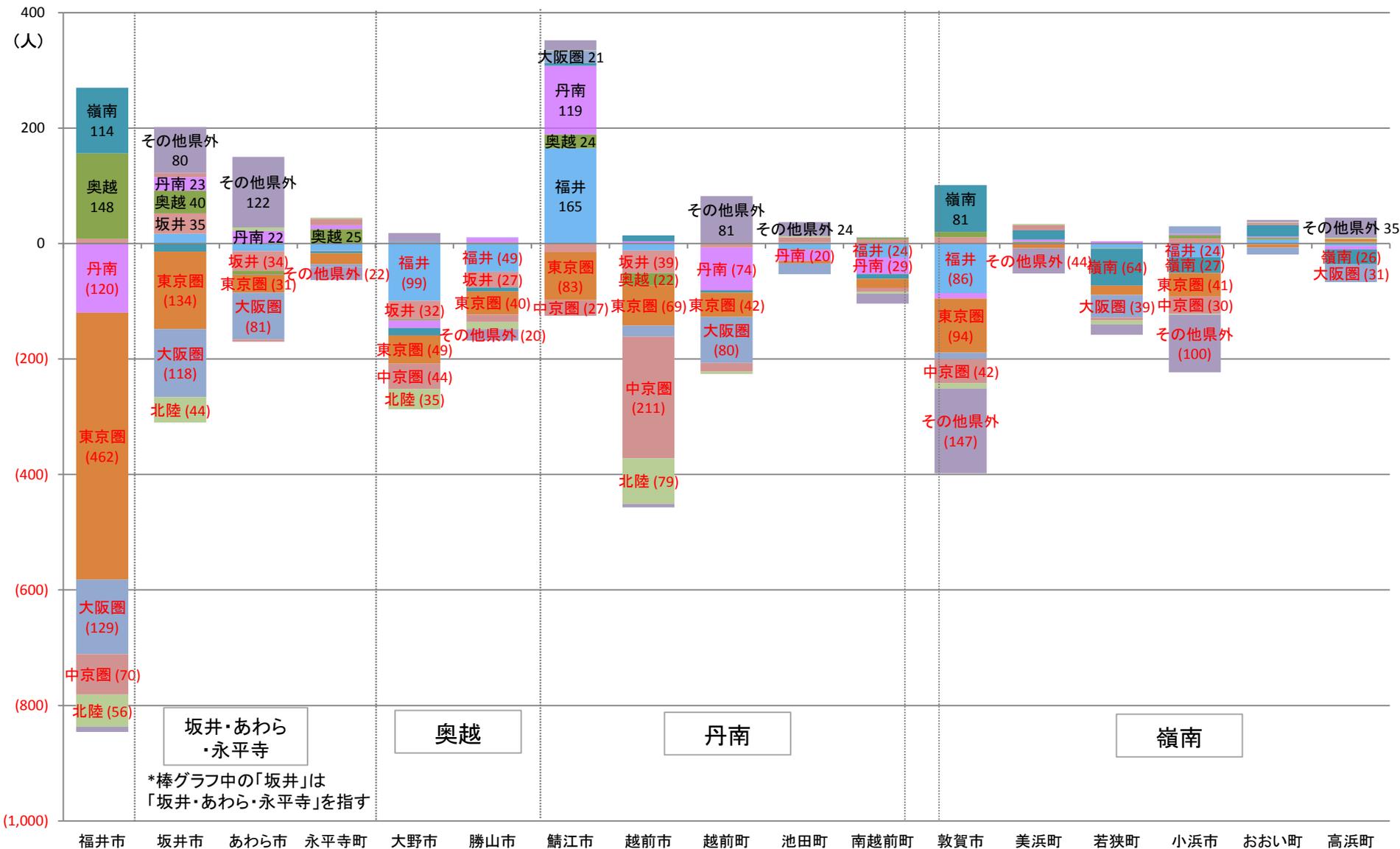
○鯖江市のみ社会増を継続。ただし、県外への移動状況をみると、改善はみられるものの、引き続き、すべての市町において転出超過

○県内の市町間の移動では、福井市、鯖江市、坂井市に流入する傾向

県内市町の世界移動の状況

	前期戦略策定前の社会移動※ (H24～26平均)				前期戦略策定後の社会移動 (H27～29平均)				前期戦略策定前と策定後の 社会移動の差			
	A (転入者数－転出者数)				B (転入者数－転出者数)				B－A			
	計 (人)	人口当たりの 社会増減率	県外 移動	県内 移動	計 (人)	人口当たりの 社会増減率	県外 移動	県内 移動	計 (人)	県外 移動	県内 移動	
福井市	▲ 185	-0.1%	▲ 602	417	▲ 191	-0.1%	▲ 547	356	▲ 6	56	▲ 62	福井市
敦賀市	▲ 344	-0.5%	▲ 371	27	▲ 260	-0.4%	▲ 270	10	83	101	▲ 17	敦賀市
小浜市	▲ 160	-0.5%	▲ 151	▲ 9	▲ 110	-0.4%	▲ 141	31	49	9	40	小浜市
大野市	▲ 186	-0.5%	▲ 80	▲ 106	▲ 181	-0.5%	▲ 95	▲ 85	6	▲ 15	21	大野市
勝山市	▲ 172	-0.7%	▲ 64	▲ 108	▲ 156	-0.6%	▲ 60	▲ 96	16	4	12	勝山市
鯖江市	85	0.1%	▲ 121	206	127	0.2%	▲ 69	196	42	52	▲ 10	鯖江市
あわら市	▲ 107	-0.4%	▲ 21	▲ 86	▲ 108	-0.4%	▲ 60	▲ 48	▲ 1	▲ 39	38	あわら市
越前市	▲ 212	-0.3%	▲ 155	▲ 57	▲ 244	-0.3%	▲ 121	▲ 123	▲ 32	34	▲ 66	越前市
坂井市	▲ 118	-0.1%	▲ 156	38	▲ 131	-0.1%	▲ 211	80	▲ 12	▲ 55	42	坂井市
永平寺町	▲ 56	-0.3%	▲ 23	▲ 32	▲ 88	-0.5%	▲ 58	▲ 30	▲ 32	▲ 35	3	永平寺町
池田町	▲ 57	-1.9%	▲ 8	▲ 49	▲ 35	-1.3%	▲ 0	▲ 35	22	8	15	池田町
南越前町	▲ 78	-0.7%	▲ 14	▲ 64	▲ 55	-0.5%	▲ 13	▲ 41	23	1	23	南越前町
越前町	▲ 166	-0.7%	▲ 50	▲ 116	▲ 151	-0.7%	▲ 50	▲ 101	15	0	15	越前町
美浜町	▲ 92	-0.9%	▲ 49	▲ 43	▲ 47	-0.5%	▲ 35	▲ 12	45	14	31	美浜町
高浜町	▲ 55	-0.5%	▲ 47	▲ 7	▲ 43	-0.4%	▲ 23	▲ 20	12	24	▲ 12	高浜町
おおい町	▲ 31	-0.4%	▲ 23	▲ 7	▲ 65	-0.8%	▲ 30	▲ 35	▲ 34	▲ 7	▲ 27	おおい町
若狭町	▲ 49	-0.3%	▲ 45	▲ 3	▲ 94	-0.6%	▲ 46	▲ 48	▲ 46	▲ 1	▲ 45	若狭町
県計	▲ 1,981	-0.2%	▲ 1,981		▲ 1,831	-0.2%	▲ 1,831		150	150		県計

市町別・転出先別 転入超過数の状況 (2018年)



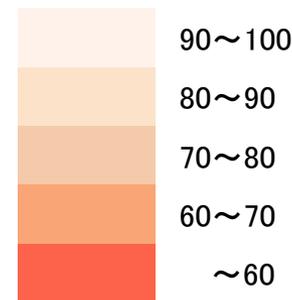
*棒グラフ中の「坂井」は「坂井・あわら・永平寺」を指す

- 鯖江市は2025年まで人口増加の見通し。2035年以降、全市町が人口減少に移行
- 奥越地域および町部の人口減少の度合いが大きい。特に池田町では、2045年に現状の5割を下回る見通し

2015年の総人口を100とした時の市町の総人口指数

	2015年を100とした指数		
	2025年	2035年	2045年
福井県	93.8	86.4	78.1
福井市	97.9	93.8	88.1
敦賀市	93.5	85.9	77.1
小浜市	88.8	78.0	67.3
大野市	86.3	72.8	59.6
勝山市	88.6	76.7	64.6
鯖江市	100.3	97.9	93.6
あわら市	89.6	78.6	67.2
越前市	90.3	79.8	69.0
坂井市	94.5	87.7	79.5

	2015年を100とした指数		
	2025年	2035年	2045年
永平寺町	91.1	81.4	72.0
池田町	75.9	58.0	43.1
南越前町	85.4	71.8	58.6
越前町	85.0	70.5	56.3
美浜町	86.3	72.8	59.9
高浜町	89.6	78.7	67.3
おおい町	84.7	70.9	58.0
若狭町	89.1	78.6	68.2

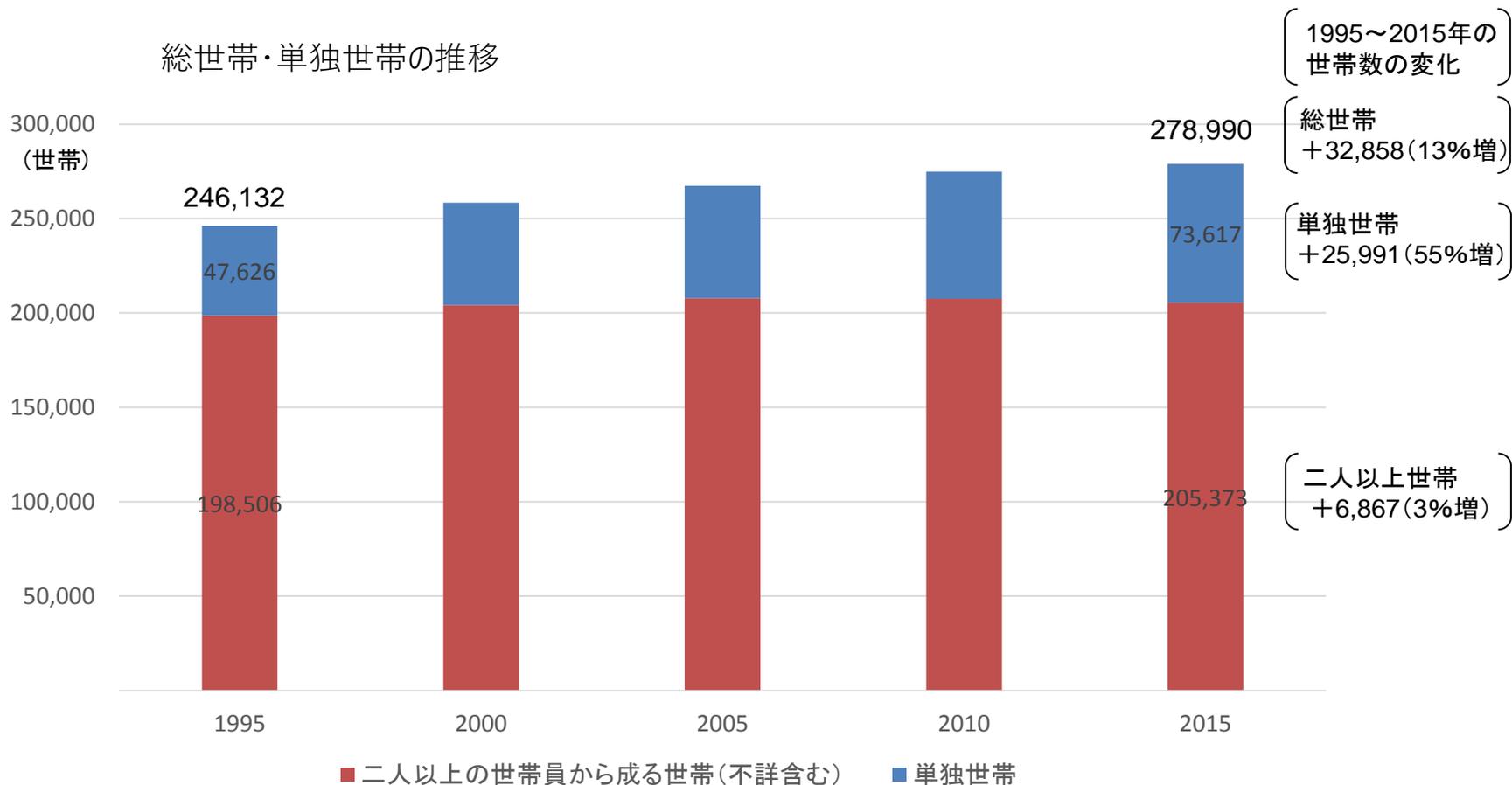


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年推計）」

○本県の世帯数は、人口減少の中でも年々増加

○20年（1995～2015年）で、約3.3万世帯増加しており、そのうち約2.6万世帯（増加分の約8割）が単独世帯の増加

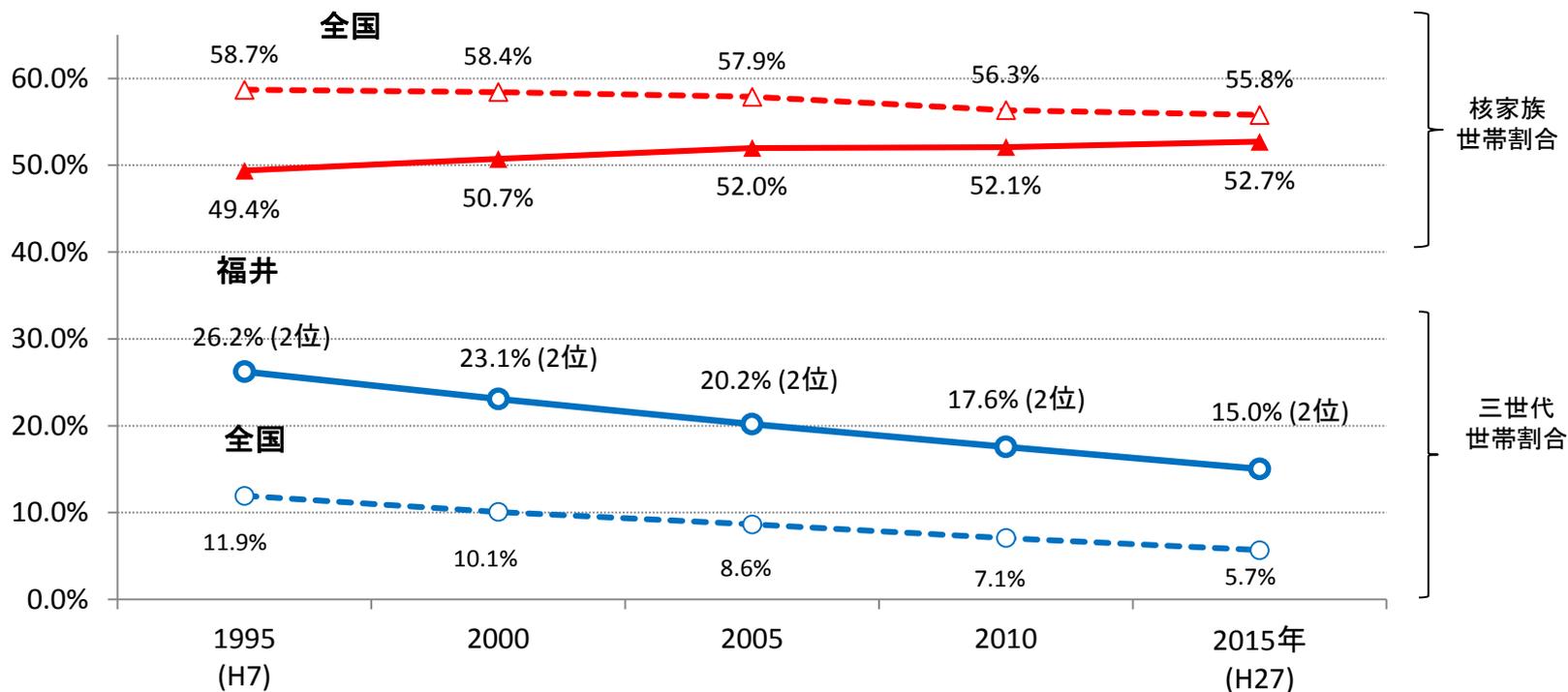
総世帯・単独世帯の推移



○本県の三世代世帯割合は、全国2位の水準にあるものの一貫して低下

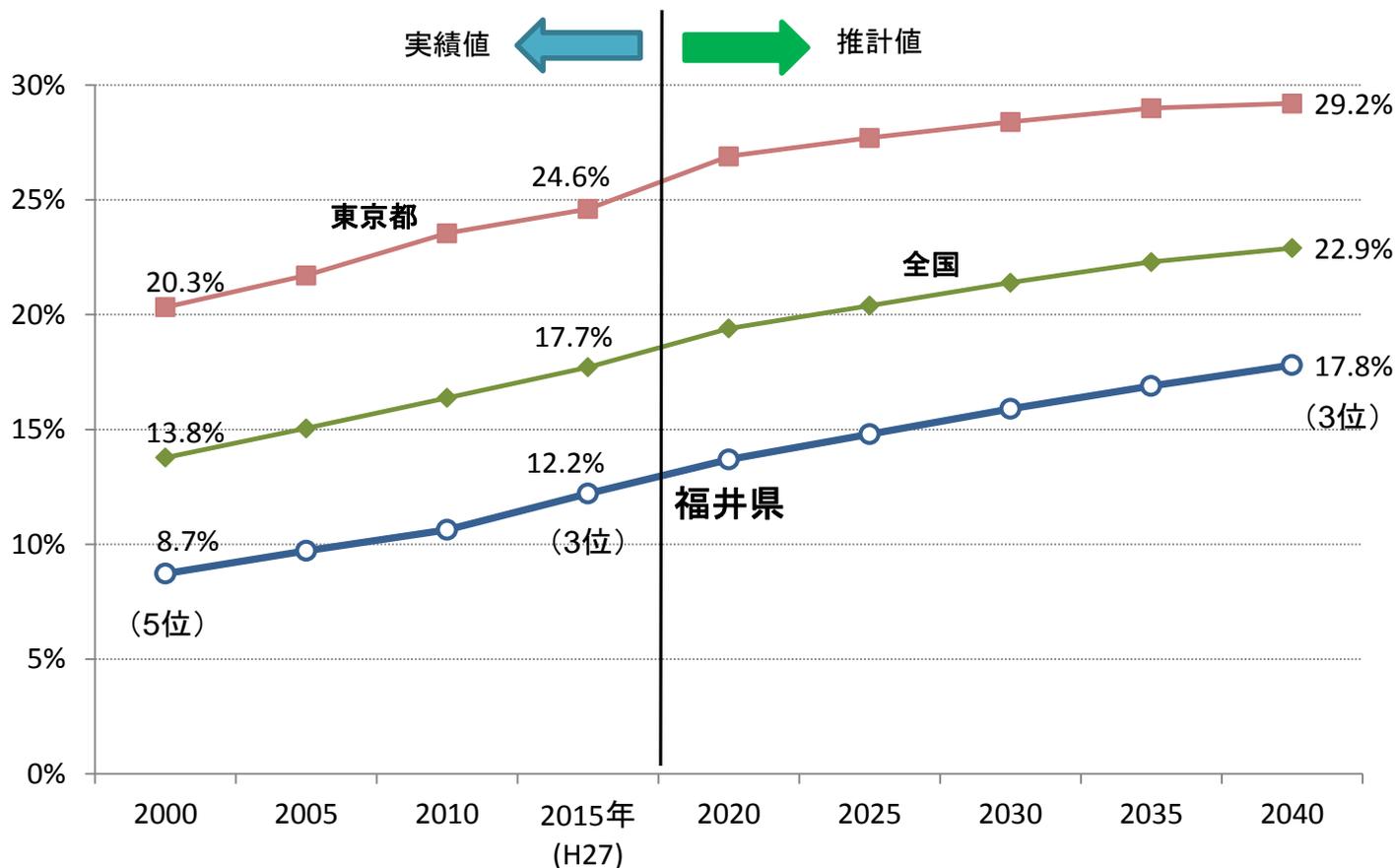
○一方、核家族世帯の割合は徐々に上昇

三世代世帯割合の推移、核家族世帯の割合の推移



○本県の一人暮らし高齢者割合は、全国に比べて低いが、一貫して上昇

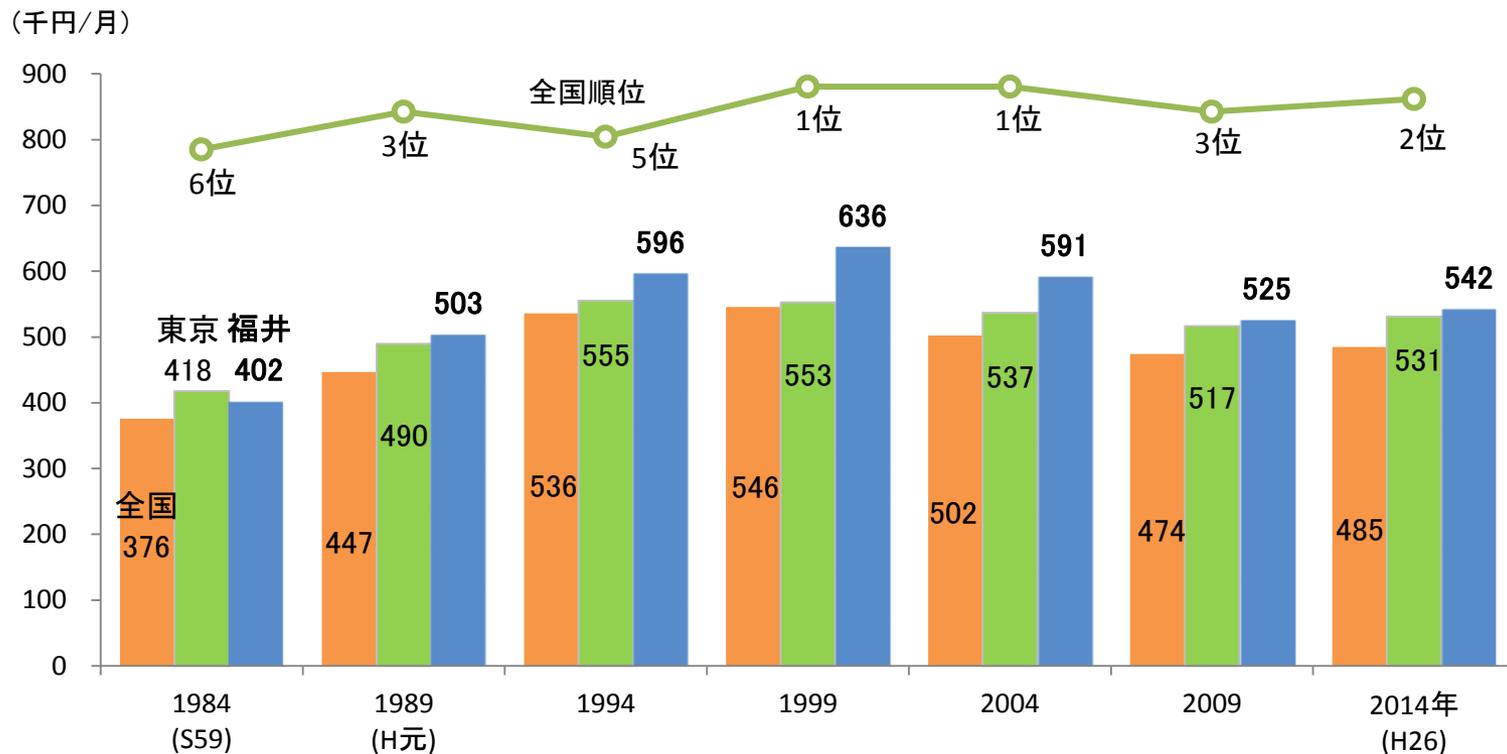
一人暮らしの高齢者割合の推移



1人暮らし高齢者割合：65歳以上単独世帯数÷65歳以上人口

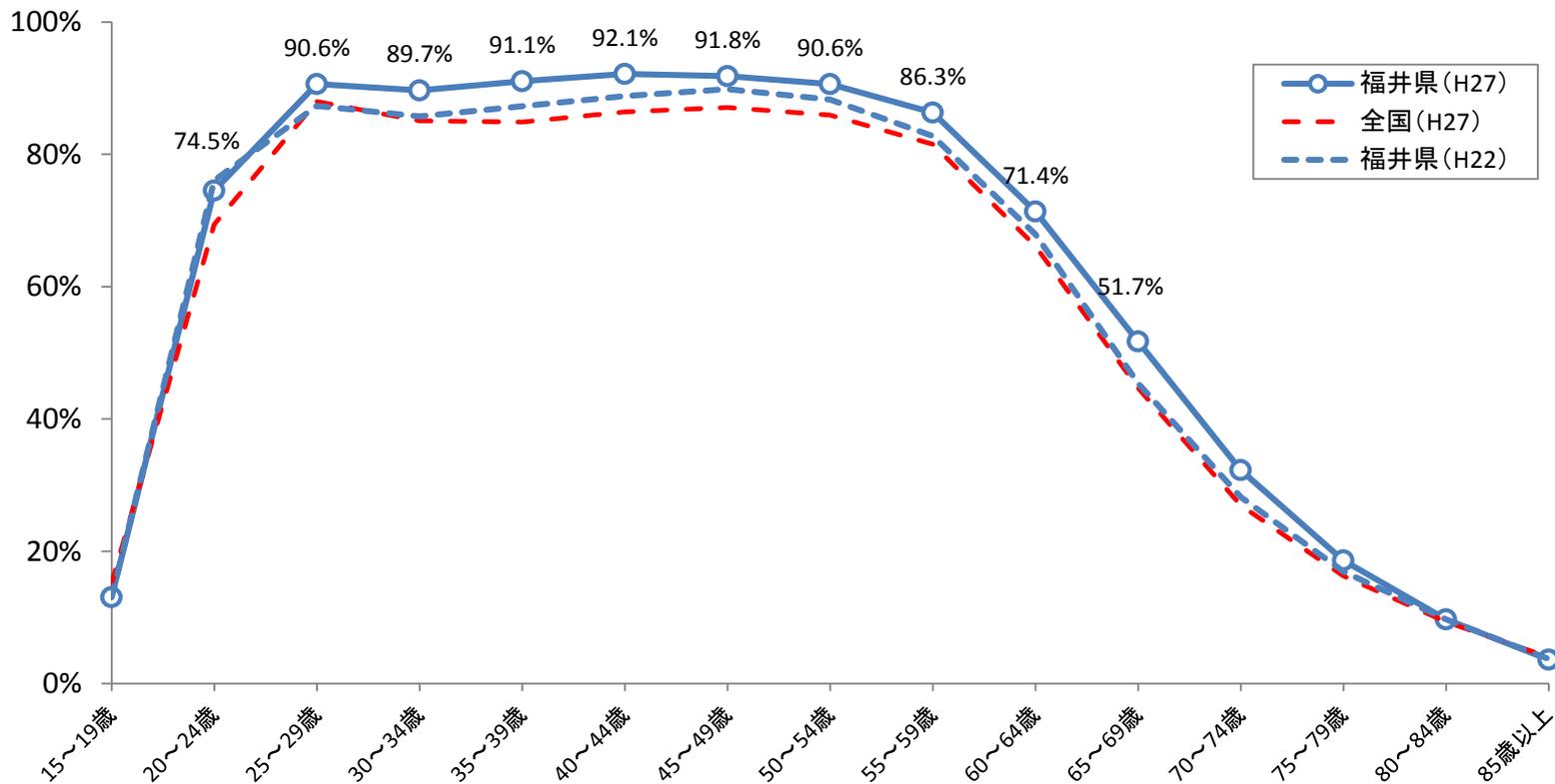
○本県の世帯収入は、東京を上回り、全国上位に位置しているが、その差は縮小傾向にある

世帯収入の推移



○本県の労働力率は、20～69歳の各年代で全国の値を2～7ポイント上回っている

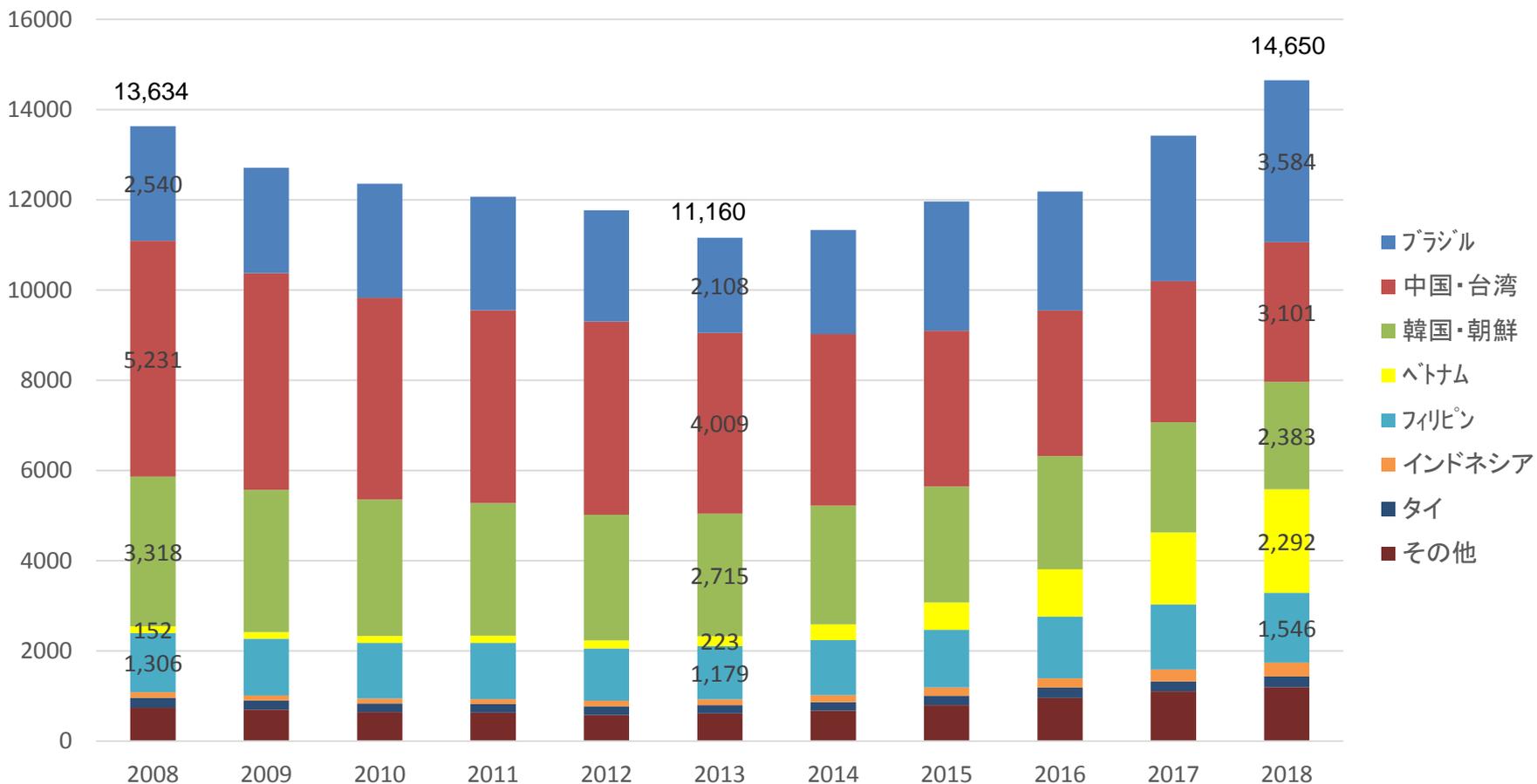
年齢階級別労働力率比較 (2015)



○2018年の本県の外国人住民数は、5年連続増加

○国籍別では、ベトナムの増加数が多い

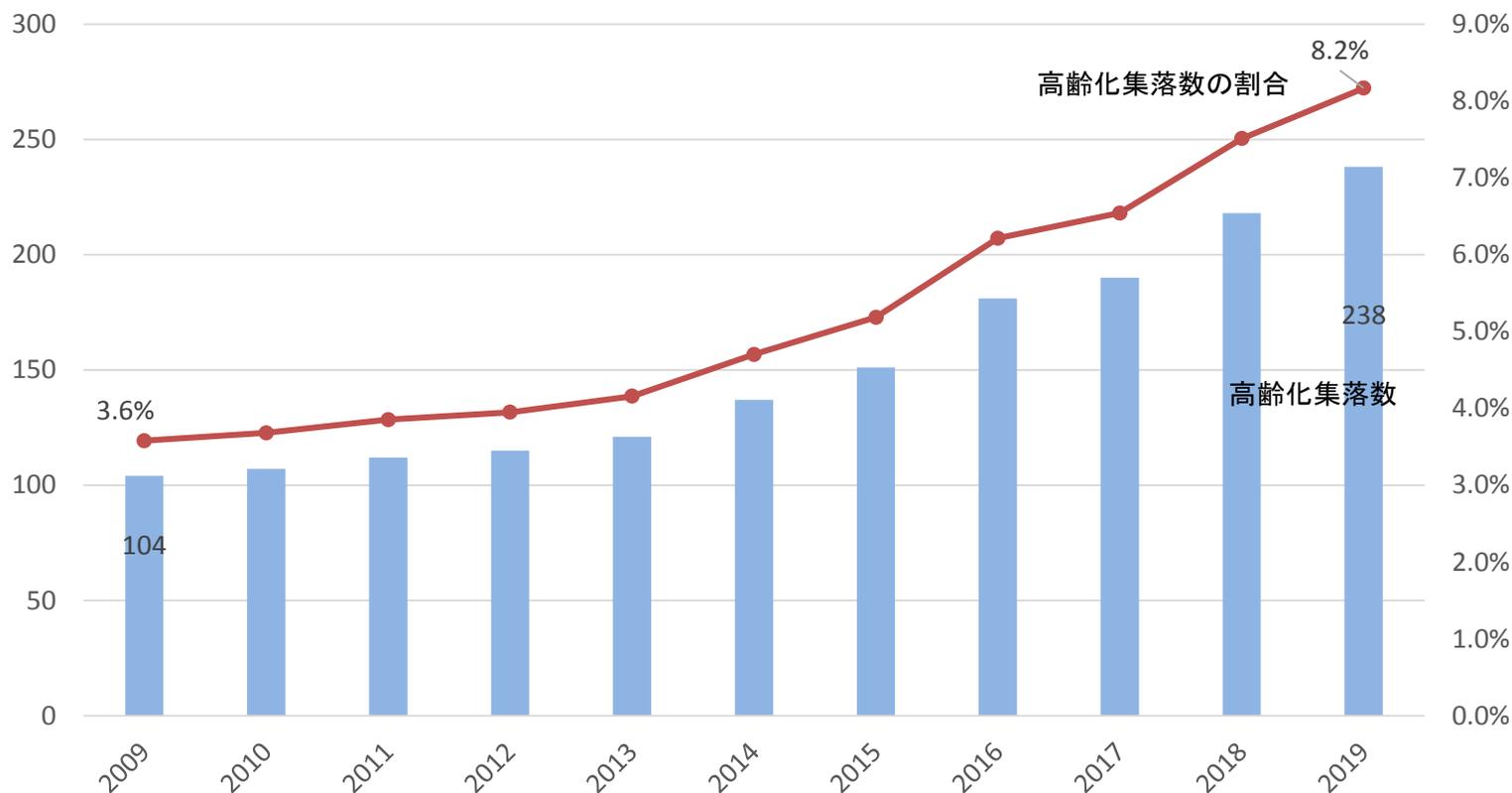
国籍別外国人住民数の推移



出典：福井県内外国人住民数の概況

○高齢化集落数は、2009年の104集落から、2019年には238集落となり、ここ10年で倍増

高齢化集落数および
全集落数に占める高齢化集落数の割合



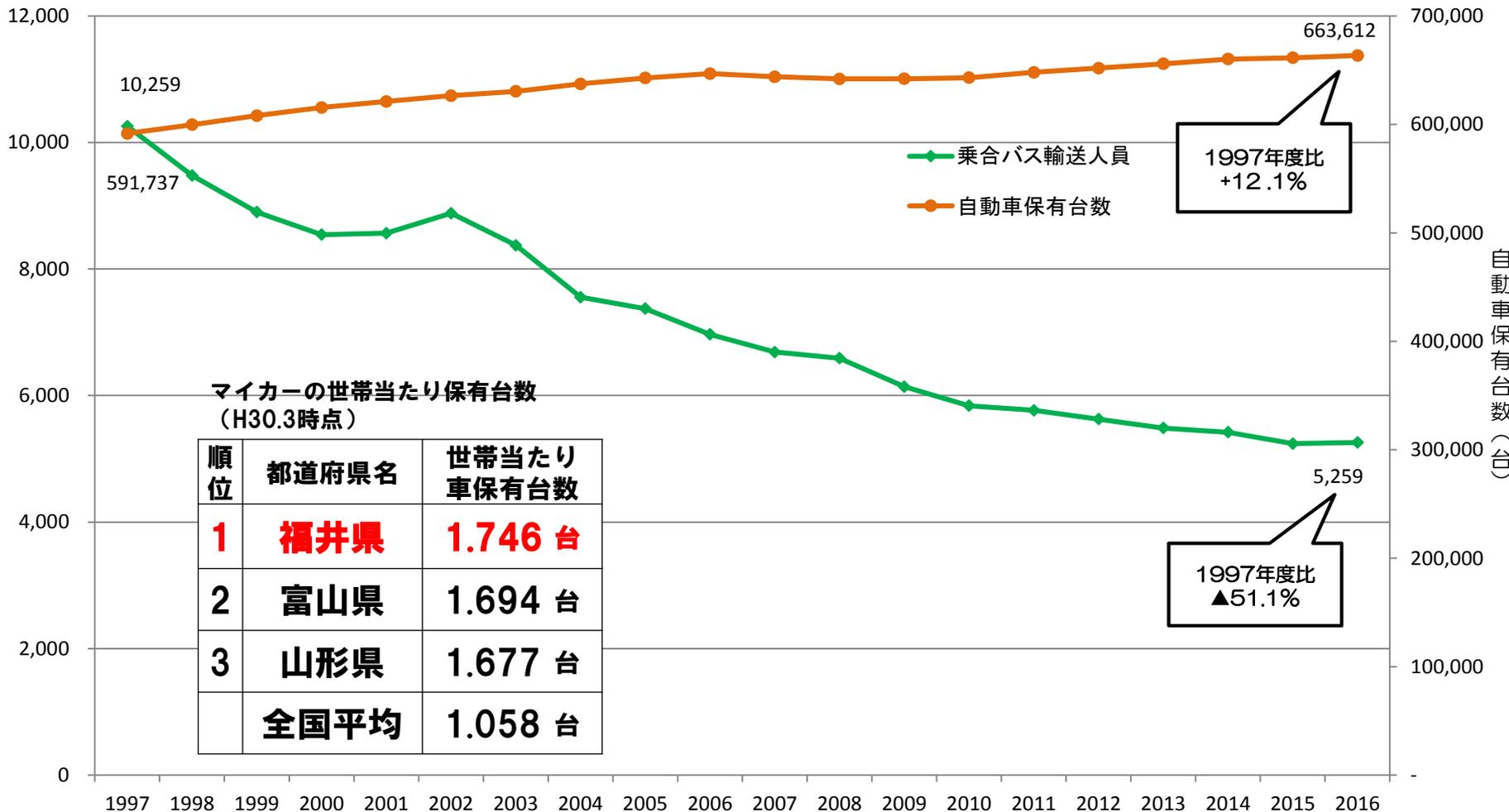
※高齢者集落数

65歳以上の高齢者が住民の半数以上を占める集落

出典：福井県調べ

○自家用車の保有台数が増加する一方、乗合バスの輸送人員は20年で半減

福井県内の乗合バス輸送人員と自動車保有台数

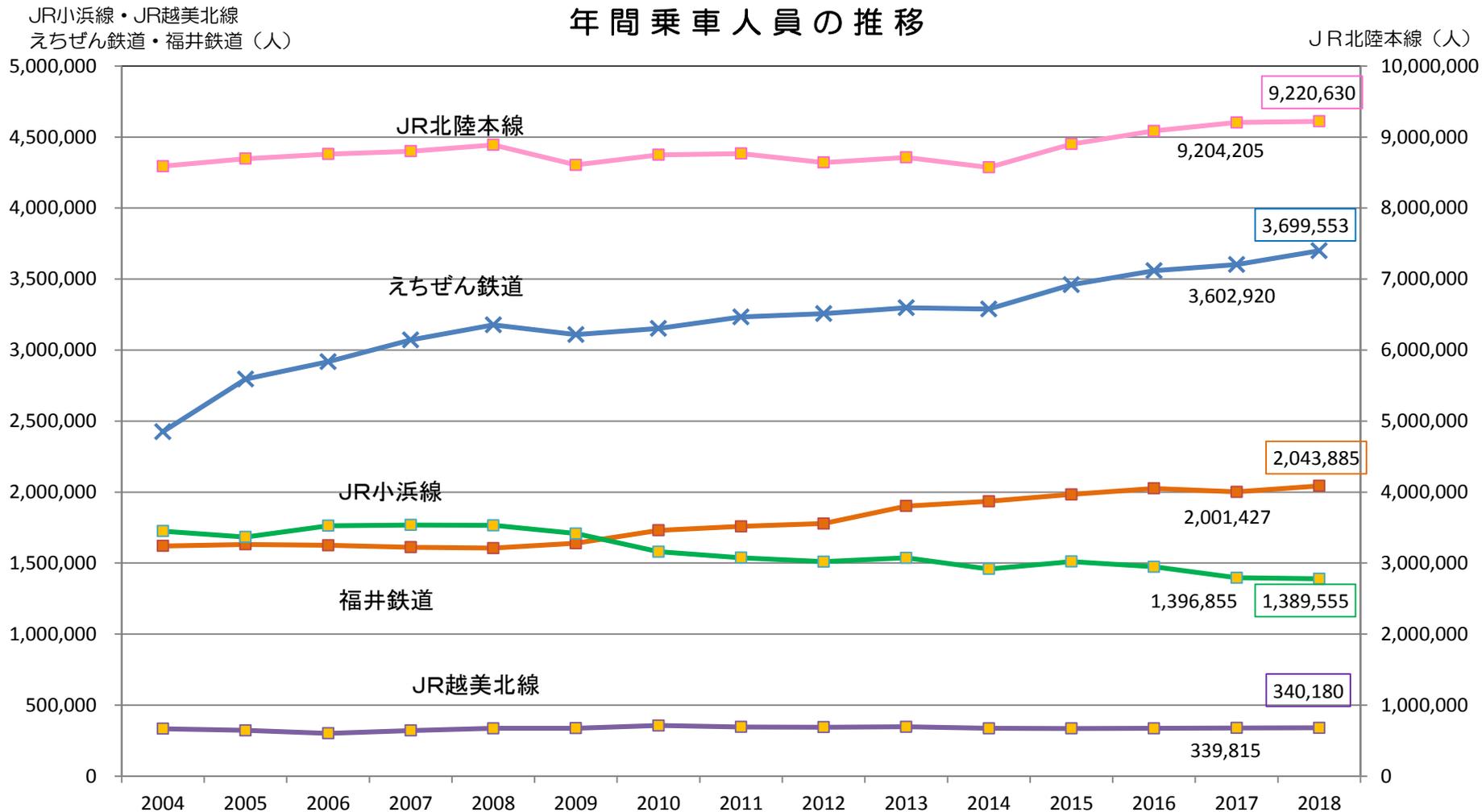


マイカーの世帯当たり保有台数 (H30.3時点)

順位	都道府県名	世帯当たり車保有台数
1	福井県	1.746 台
2	富山県	1.694 台
3	山形県	1.677 台
	全国平均	1.058 台

出典： 福井県総合政策部政策統計情報課HP「自動車保有台数」「自動車輸送人員」
自動車検査登録情報協会「自家用乗用車の世帯普及台数」

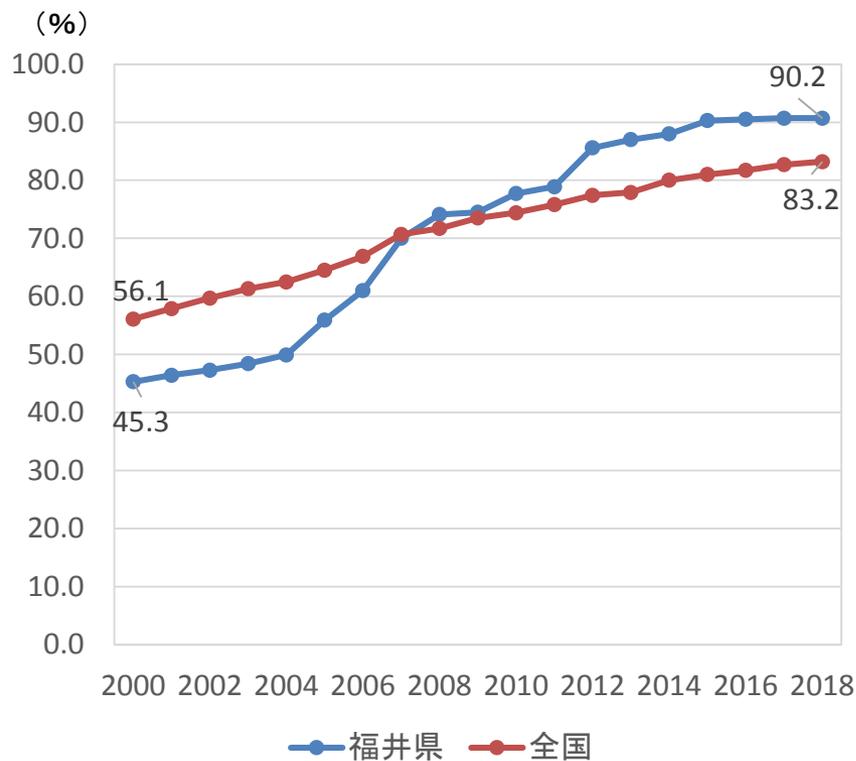
○ J R 小浜線を除けば、県内地域鉄道の乗車人員は増加傾向



出典
 福井鉄道・えちぜん鉄道：各社資料
 JR：H16～H29福井県統計年鑑1日平均乗車人数×365で算出

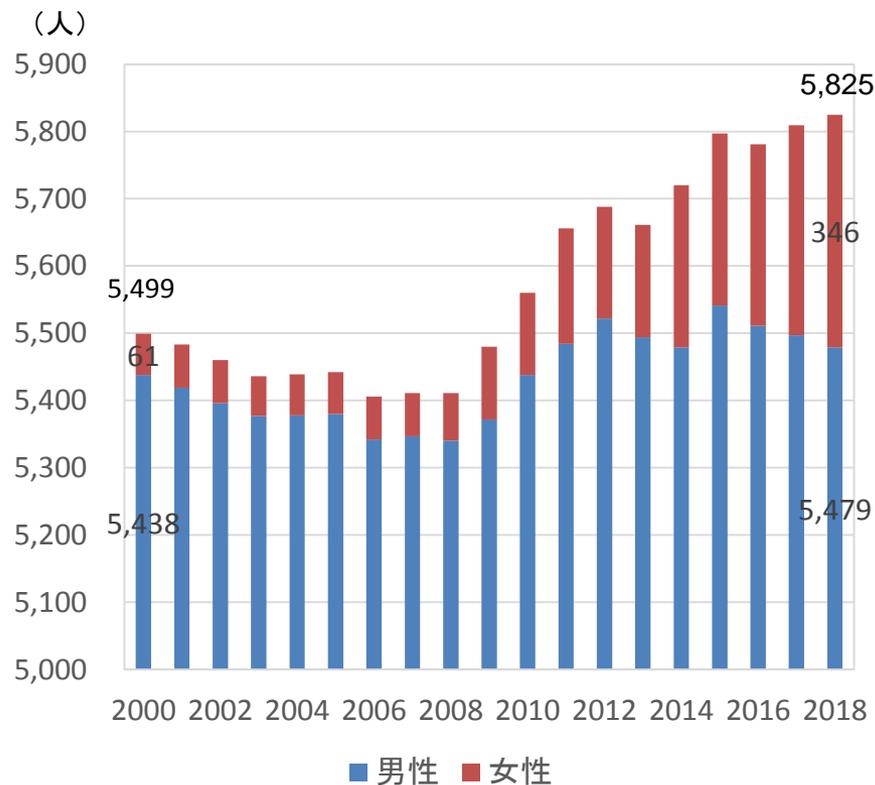
- 2008年以降、本県の自主防災組織率は全国平均を上回り、2018年は全国18位
- 消防団員数も増加傾向へ転じており、特に、女性消防団員数が大きく増加

自主防災組織率



出典：防災白書

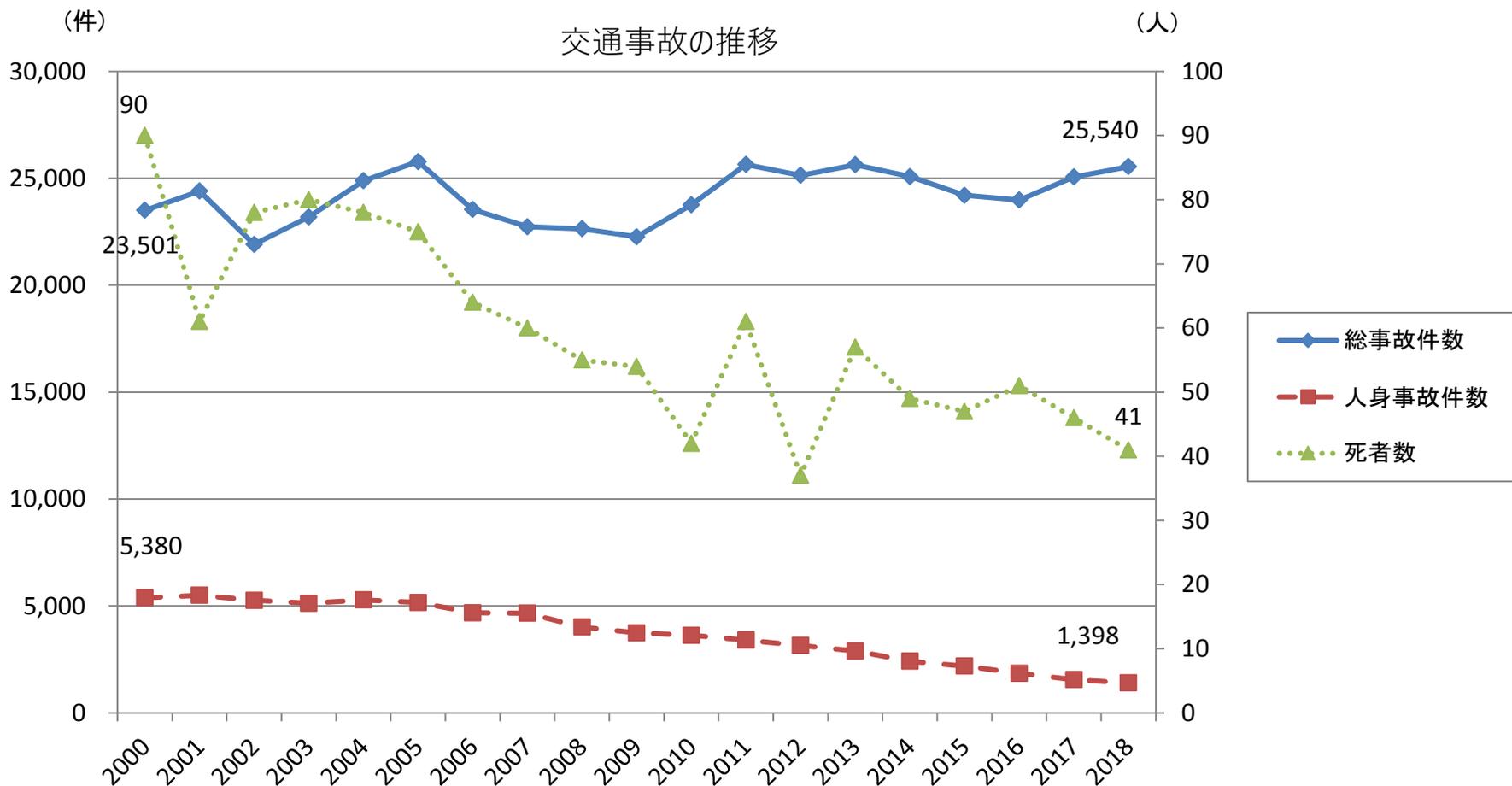
消防団員数



出典：福井県消防防災年報

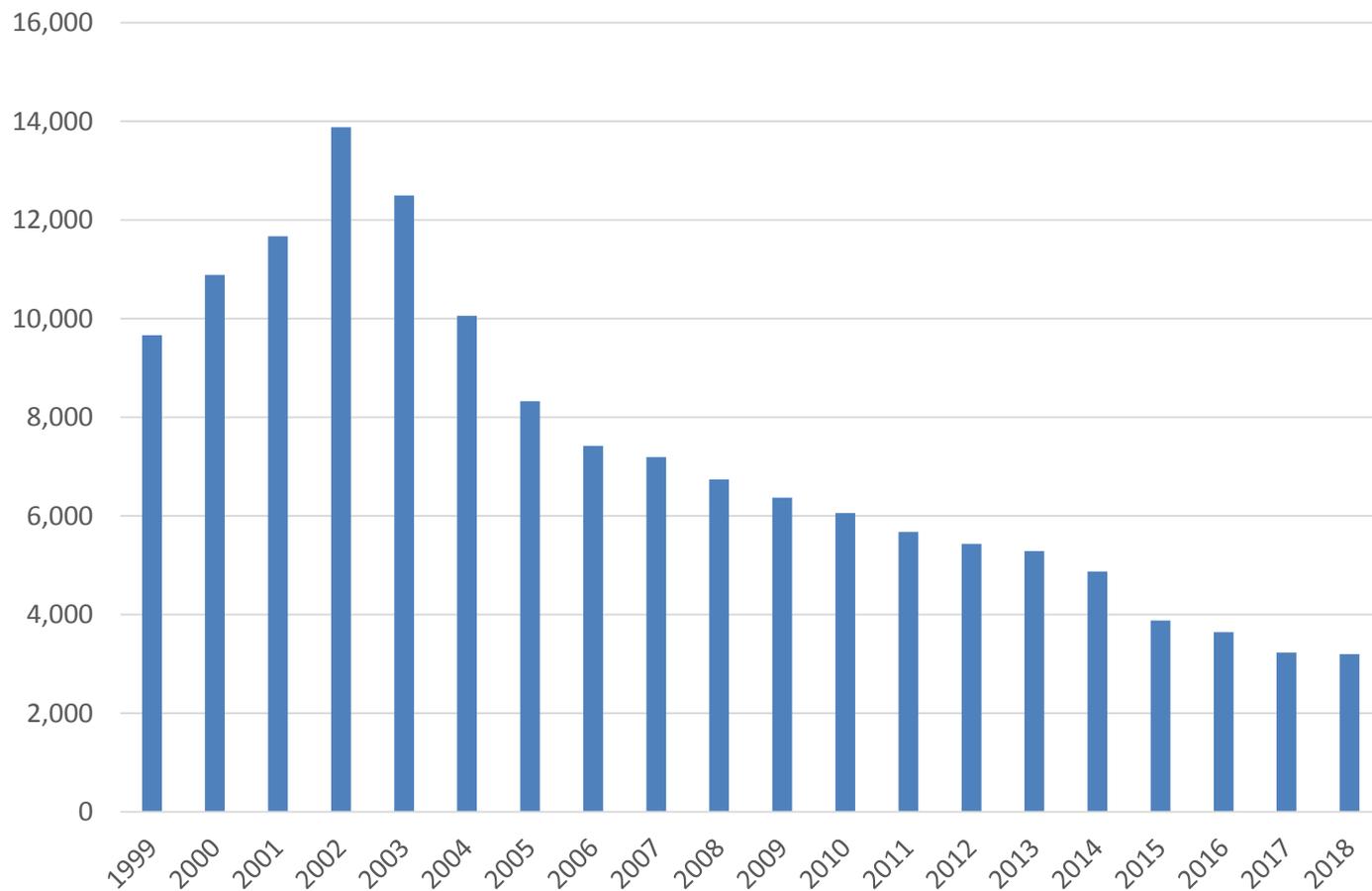
○総事故件数は、2011年からはほぼ横ばい。

○2000年に比べ、人身事故件数は1 / 4、死者数は1 / 2 に減少



○刑法犯認知件数は、2003年以降16年連続で減少

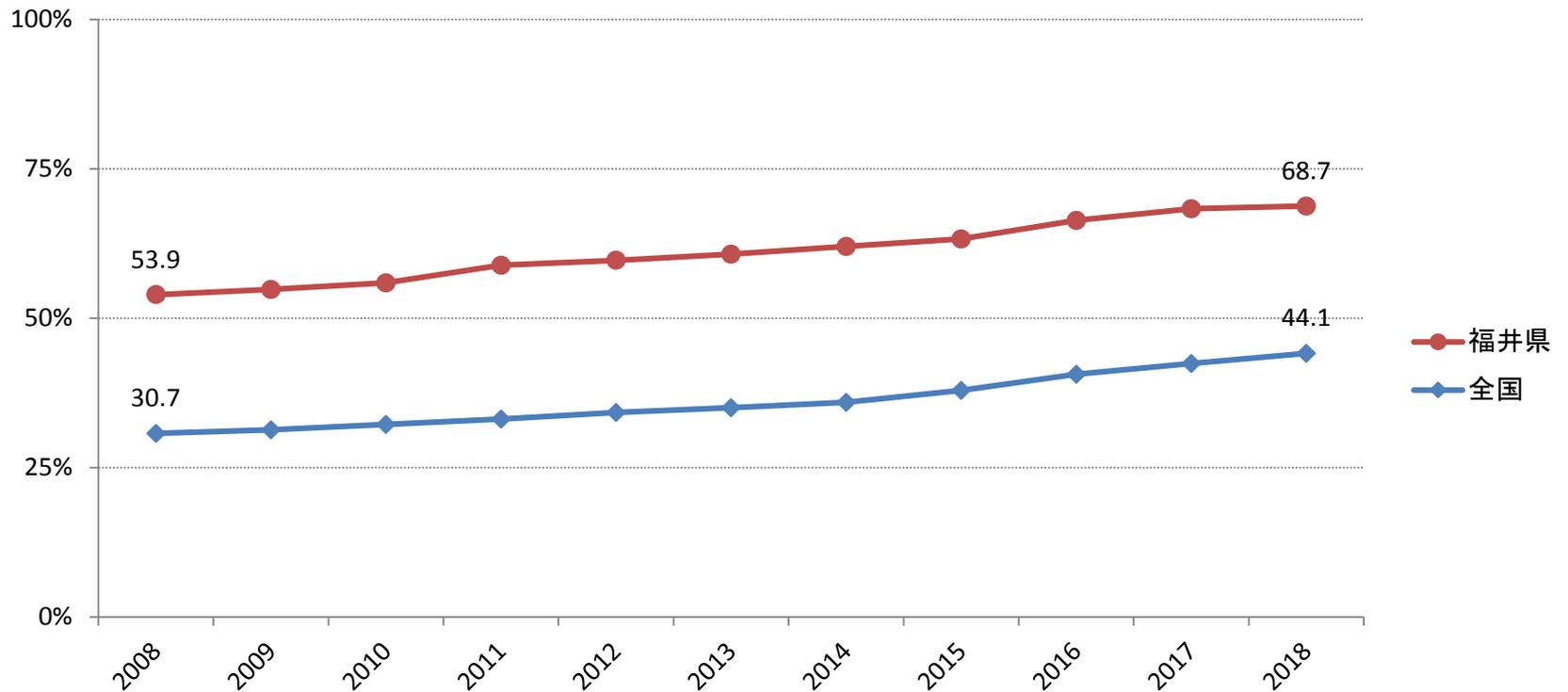
刑法犯認知件数の推移



出典：福井県警察調べ

○本県の保育所等の入所率は、約7割と全国平均を大きく上回る

保育所等入所率の推移（0～5歳）

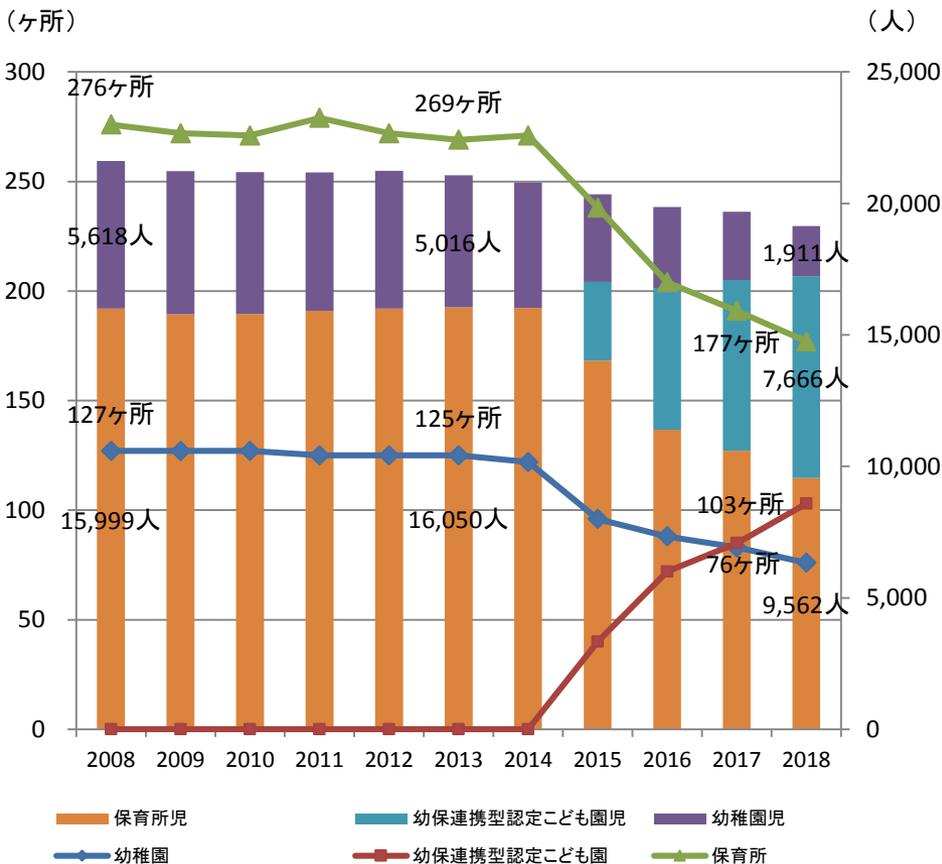


※保育所等：保育所、幼保連携型認定こども園、地域型保育事業所

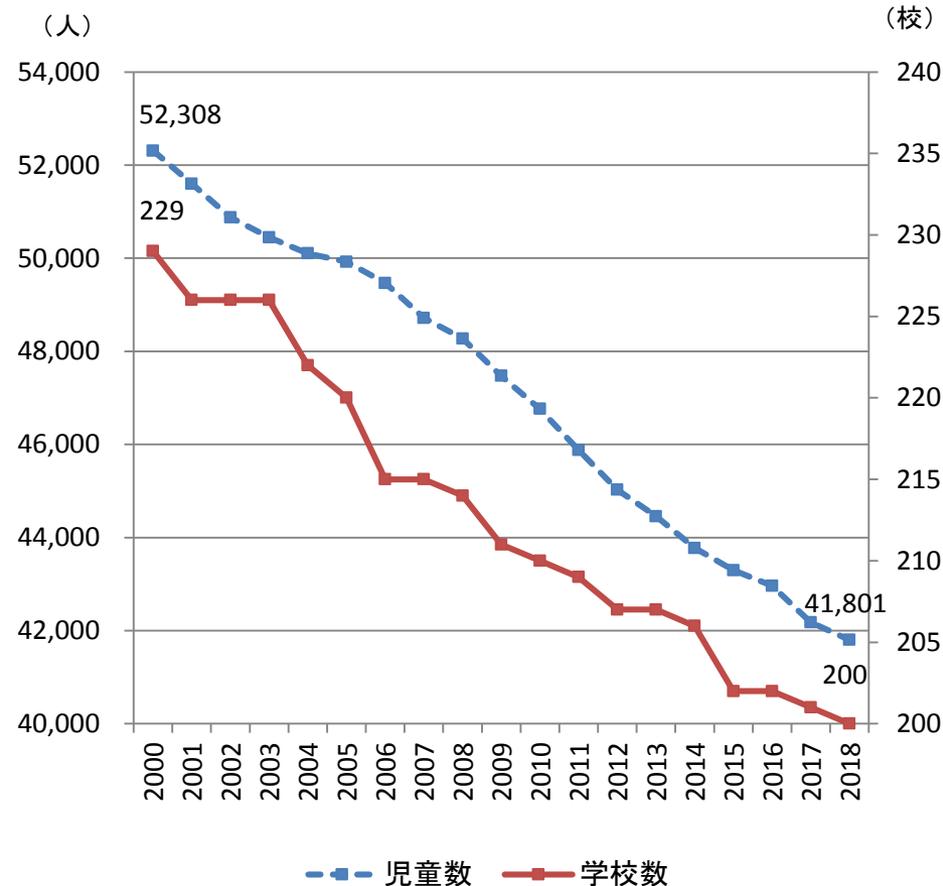
○幼稚園・保育所の児童数は減少し、認定こども園児が増加

○小学校の児童数は減少が続く。学校数も合わせて減少

幼稚園・保育所の児童数（3歳以上）



小学校の数と児童数の推移

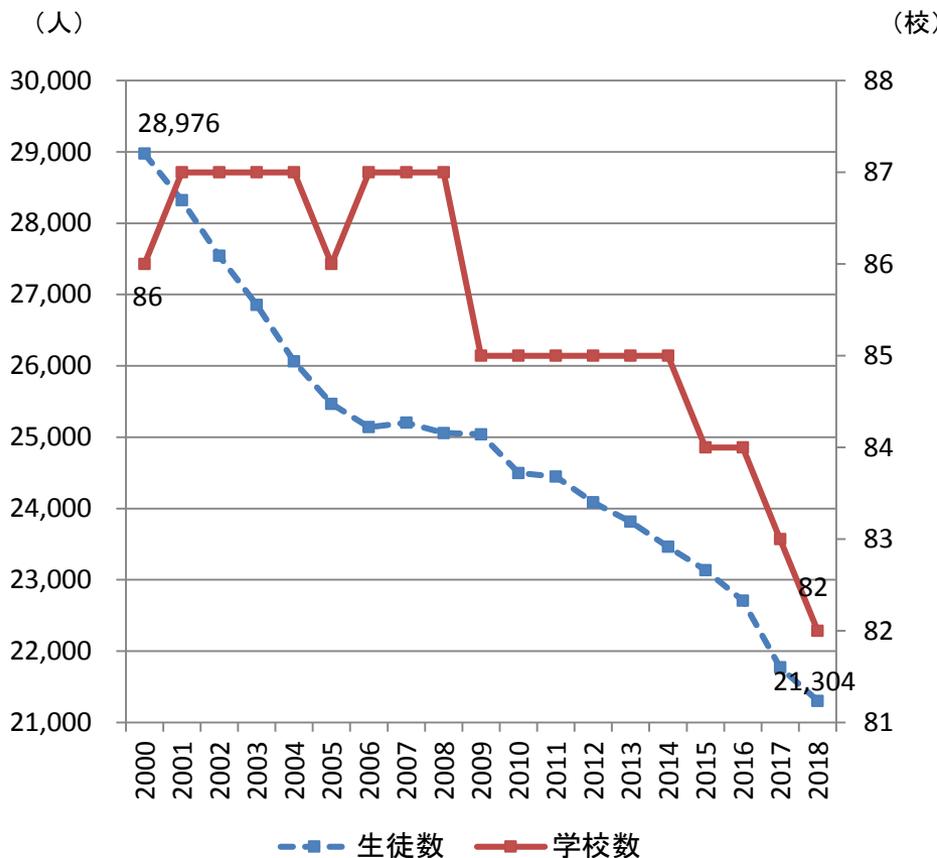


出典：文部科学省「学校基本調査」、厚生労働省「福祉行政報告例」

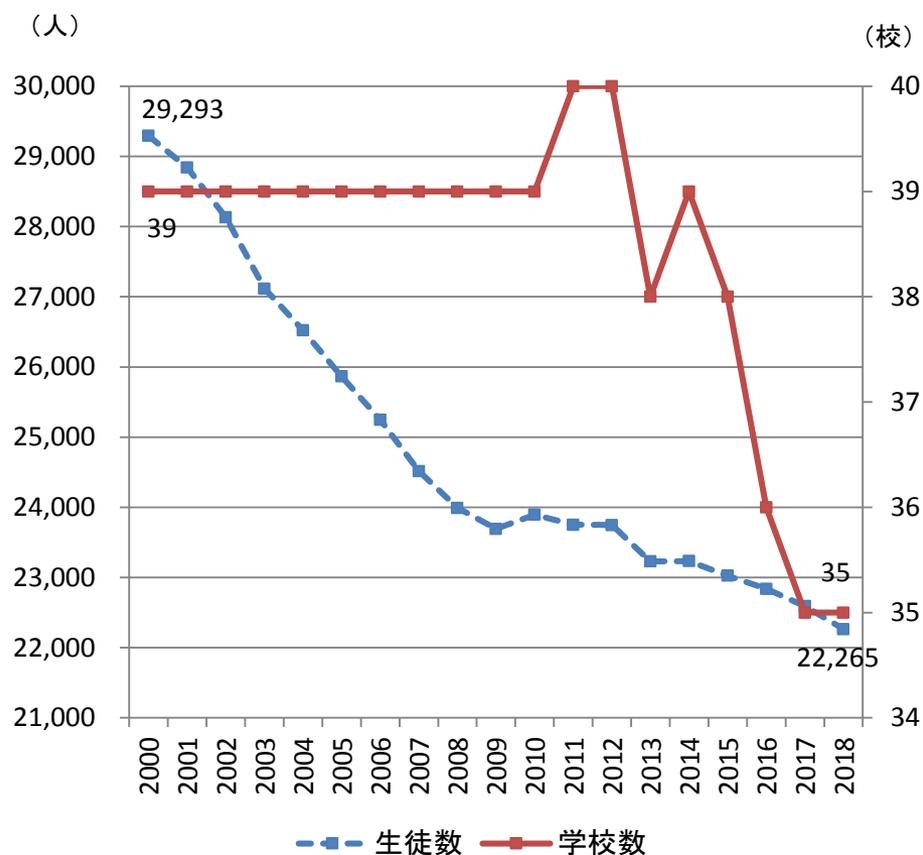
出典：学校基本調査

○中学校・高等学校の生徒数、学校数も減少

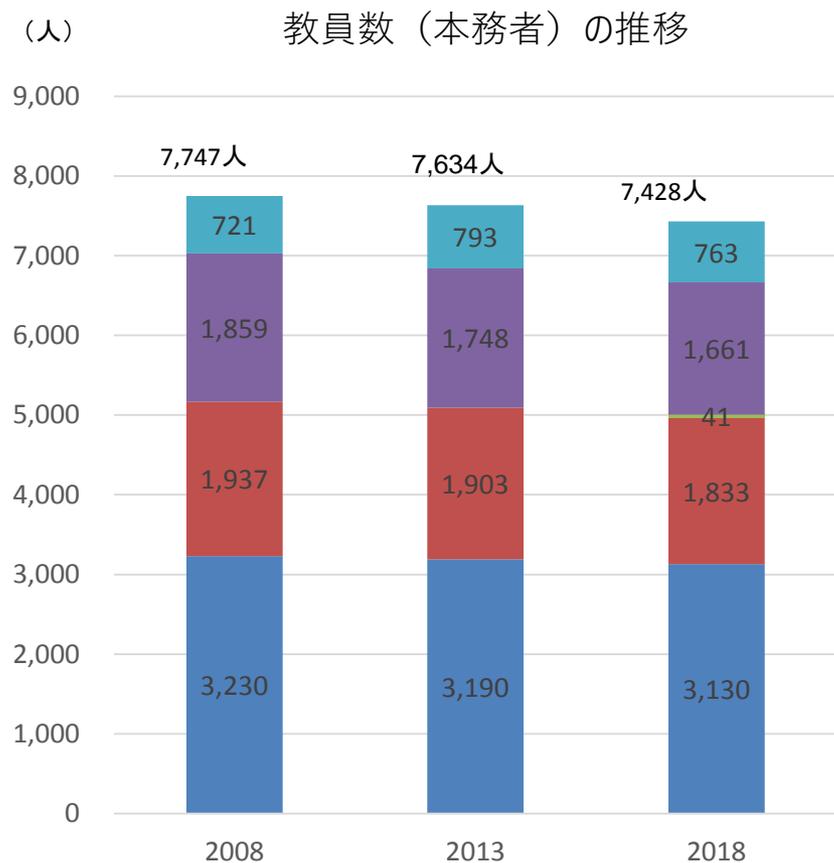
中学校の数と生徒数の推移



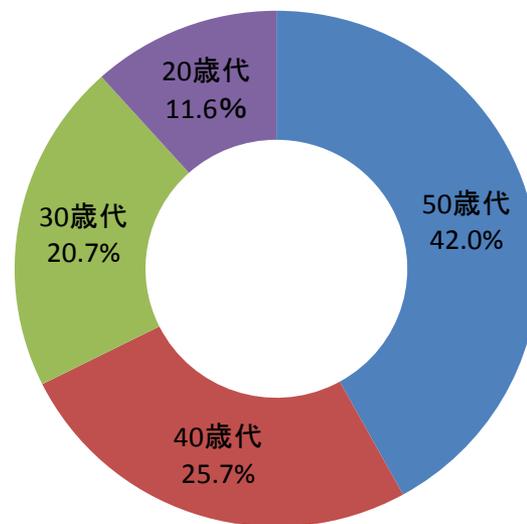
高等学校の数と生徒数の推移



○教員の年齢構成は高く、今後10年で約4割の教員が定年退職を迎える



公立学校教員年齢別構成
(2018年4月)



○2007年度の調査開始以来、全国トップクラスの学力を維持

小学校総合順位

	2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
1位	秋田	石川	石川	石川	秋田 石川							
2位	福井	石川	秋田	秋田	秋田							
3位	香川	青森	青森	青森	石川	石川	石川	福井	福井	福井	福井	福井
4位	青森	富山	広島	京都	青森	青森	青森	青森	広島	愛媛	富山	青森 富山
5位	富山	東京	石川	広島	富山	香川	富山	富山	富山	富山	東京 広島	

中学校総合順位

	2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
1位	福井	福井	福井	福井	秋田	秋田	福井	福井	福井	福井	福井	福井
2位	富山	秋田	秋田	秋田	福井	福井	秋田	秋田	秋田	石川	石川	石川 秋田
3位	秋田	富山	富山	富山	富山	石川	富山	石川	石川	秋田	秋田	
4位	石川	岐阜	石川	岐阜	石川	岐阜	石川	富山	富山	富山	富山	富山
5位	岐阜	石川	岐阜	石川	群馬	富山	静岡	岐阜	静岡	愛媛	静岡	東京・静岡

○体力についても、2008年度の調査開始以来、全国トップクラスを維持

小学校男子（5年生）

順位	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1位	福井	大分								
2位	秋田	秋田	秋田	茨城	新潟	新潟	茨城	茨城	茨城	福井
3位	新潟	新潟	新潟	秋田	茨城	茨城	新潟	秋田	石川	石川
4位	茨城	茨城	千葉	新潟	秋田	石川	石川	広島	秋田	茨城
5位	千葉	千葉	茨城	石川	石川	秋田	秋田	石川	大分	広島

小学校女子（5年生）

順位	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1位	福井									
2位	秋田	秋田	秋田	茨城						
3位	新潟	茨城	茨城	秋田	秋田	新潟	新潟	秋田	秋田	大分
4位	茨城	新潟	新潟	新潟	新潟	秋田	秋田	新潟	新潟	新潟
5位	千葉	千葉	千葉	千葉	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	秋田

中学校男子（2年生）

順位	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1位	千葉	茨城	福井	茨城	茨城	福井	福井	茨城	福井	福井
2位	福井	秋田	秋田	新潟	福井	茨城	茨城	福井	茨城	茨城
3位	秋田	福井	千葉	福井	新潟	新潟	新潟	新潟	石川	新潟
4位	茨城	千葉	新潟	岩手	秋田	埼玉	石川	石川	新潟	石川
5位	新潟	新潟	茨城	秋田	千葉	千葉	千葉	埼玉	埼玉	埼玉

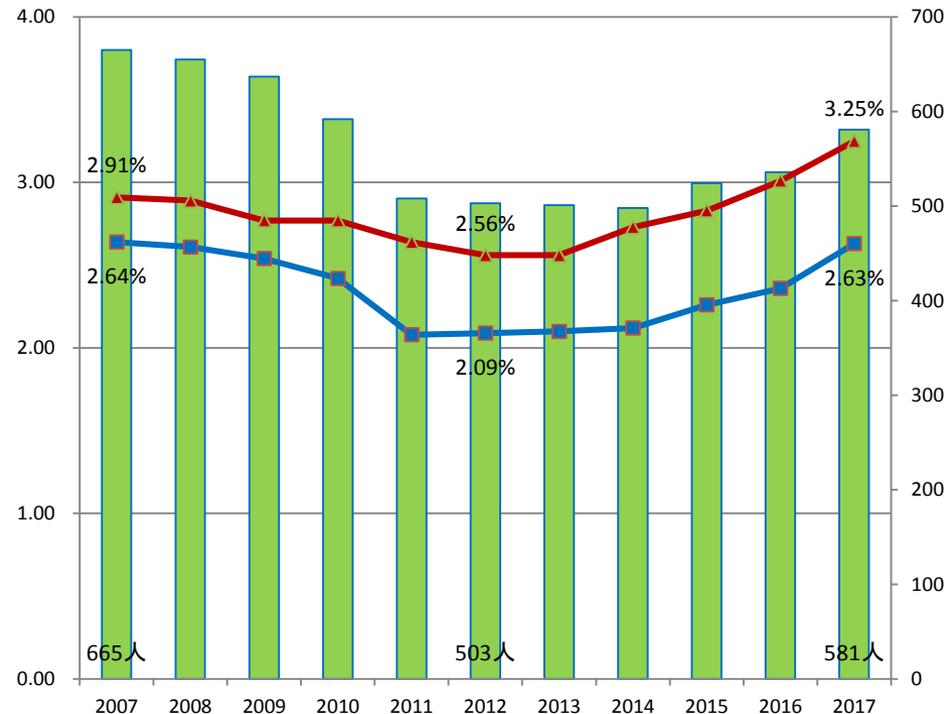
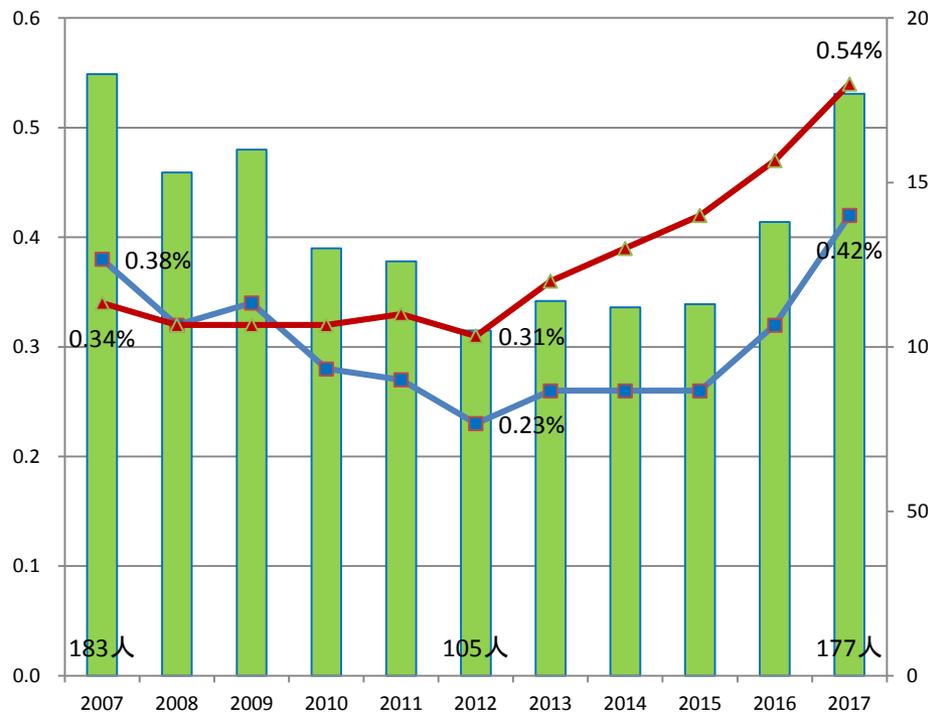
中学校女子（2年生）

順位	2008	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1位	千葉	福井	福井	茨城	茨城	福井	福井	福井	福井	福井
2位	福井	千葉	茨城	福井	福井	茨城	茨城	茨城	茨城	埼玉
3位	茨城	茨城	千葉	千葉	千葉	埼玉	埼玉	埼玉	埼玉	茨城
4位	埼玉	岩手	静岡	埼玉	埼玉	千葉	千葉	千葉	石川	新潟
5位	岩手	埼玉	埼玉	静岡	新潟	新潟	石川	石川	千葉	石川

○全国に比べ出現率は低いものの、小学校、中学校ともに、不登校児童・生徒数は増加傾向

小学校不登校児童数と出現率（国公立学校）

中学校不登校生徒数と出現率（国公立学校）



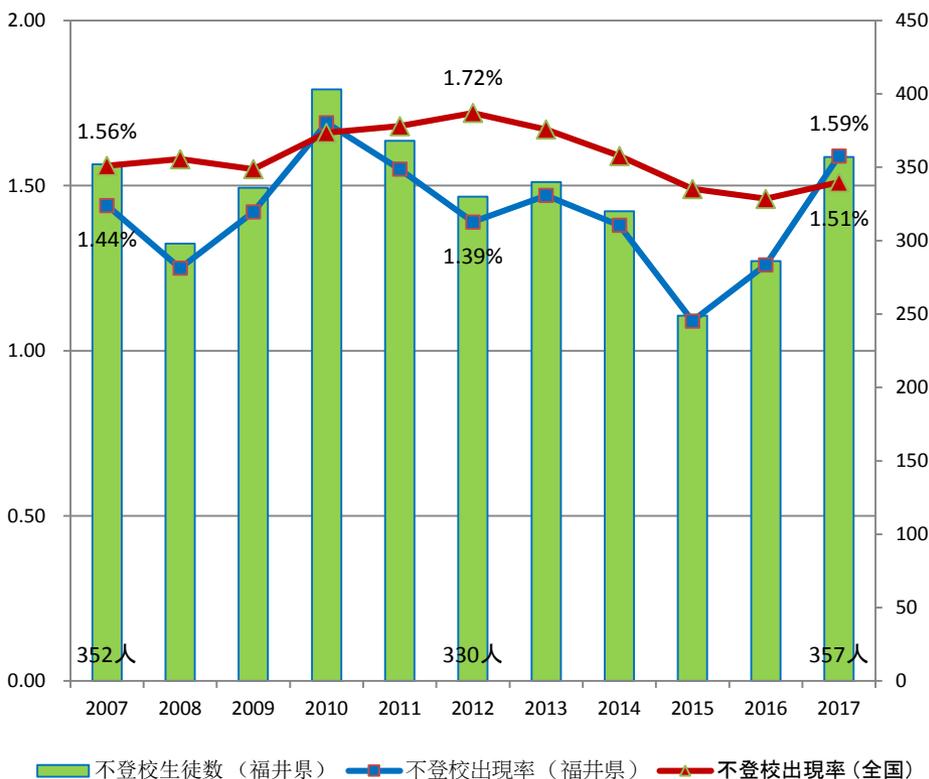
■ 不登校児童数（福井県） ■ 不登校出現率（福井県） ▲ 不登校出現率（全国）

■ 不登校生徒数（福井県） ■ 不登校出現率（福井県） ▲ 不登校出現率（全国）

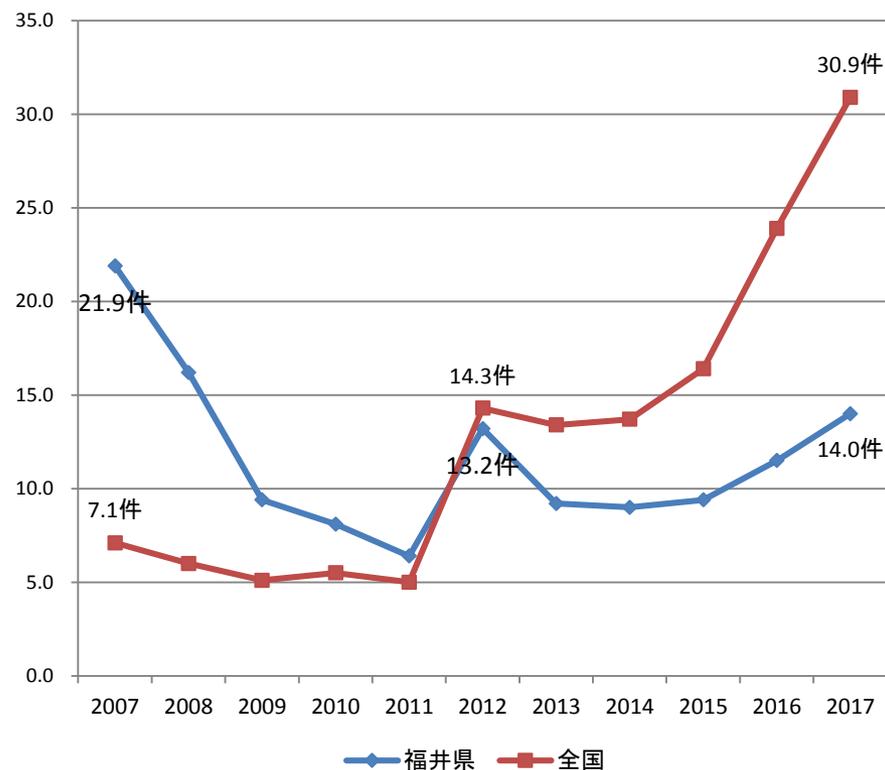
○高校の不登校生徒数は近年増加し、2017年度に出現率は全国平均を上回る

○いじめの認知件数も、全国と同様に増加傾向

高等学校不登校生徒数と出現率（国公立学校）



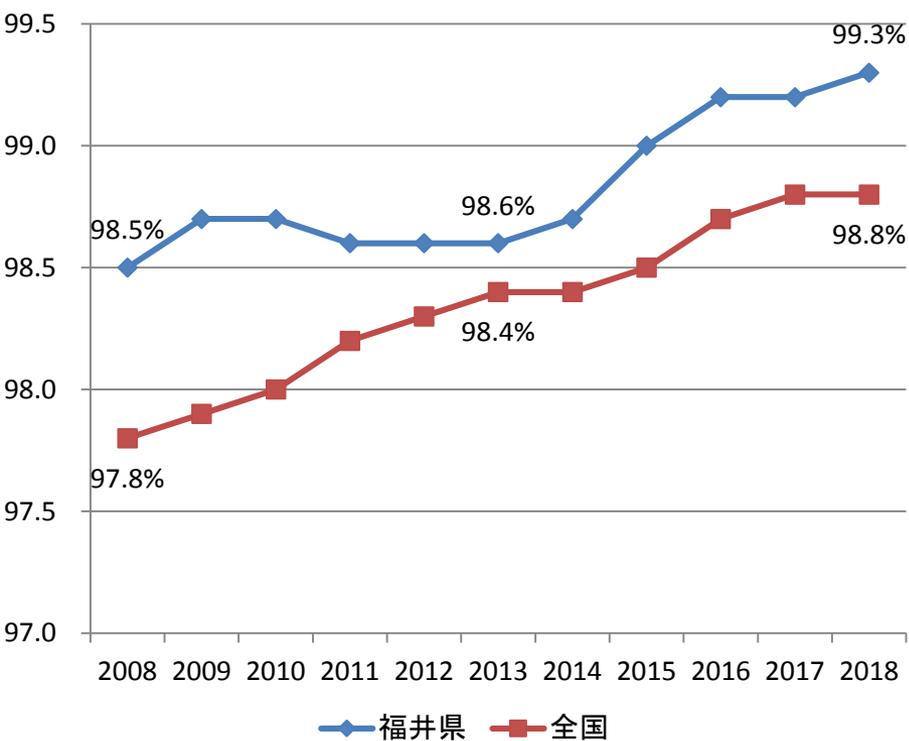
いじめの認知件数（千人当たり）（国公立学校）



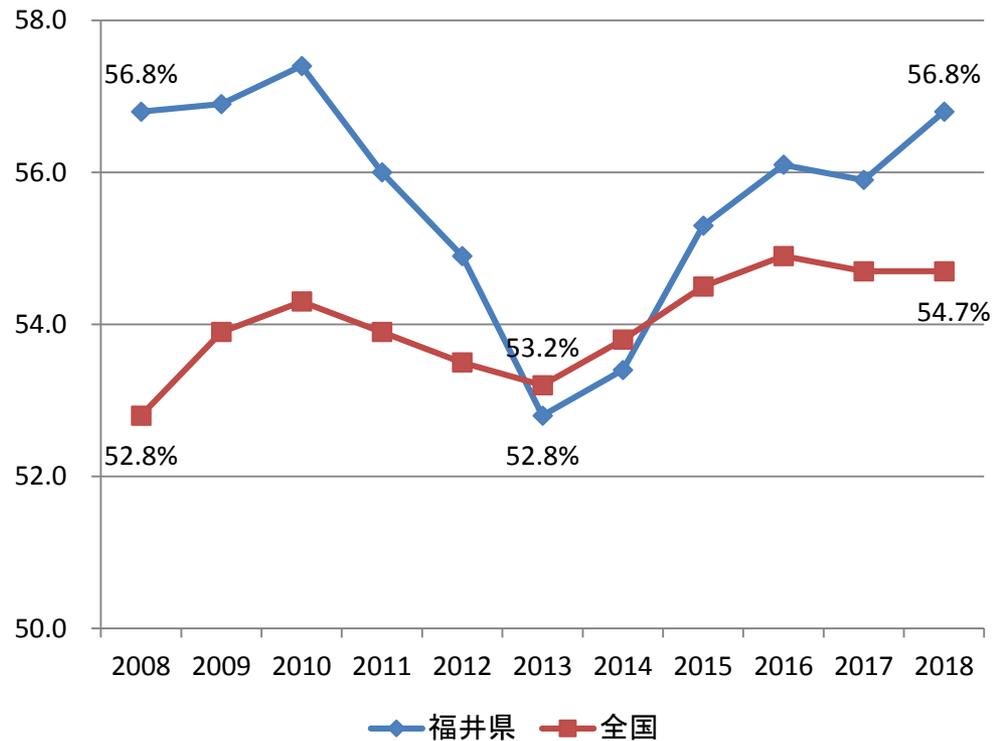
※小学校、中学校、高等学校、特別支援学校

○中学生の高等学校等進学率、高校生の大学等進学率は、ともに全国平均を上回っている

中学校卒業者の高等学校等進学率

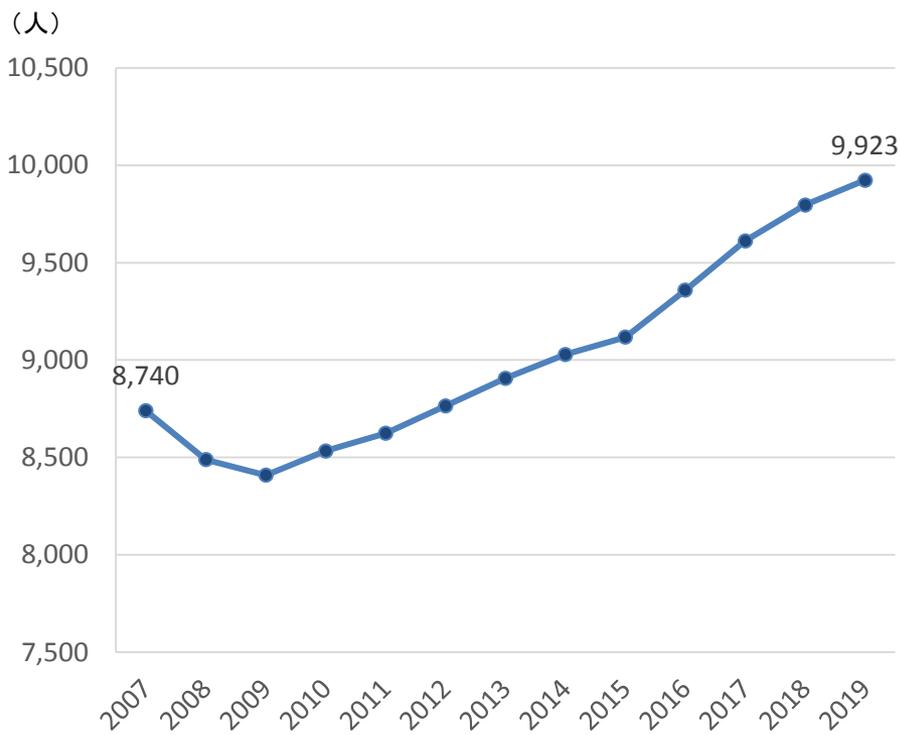


高等学校卒業者の大学等進学率



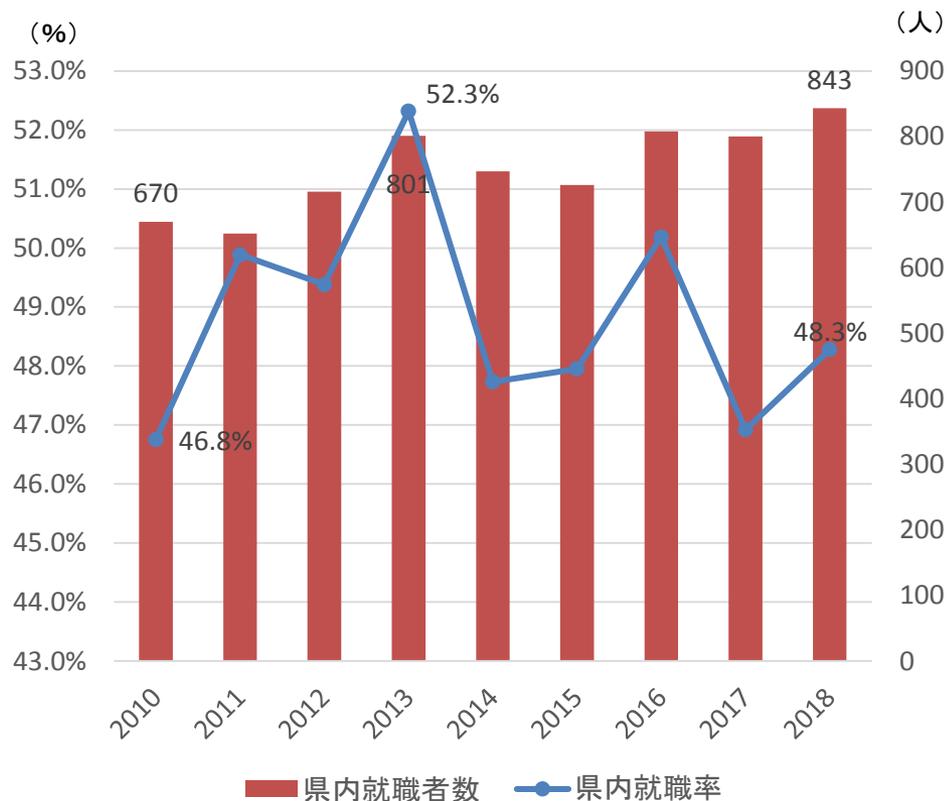
- 福井医療大学（2017）の開学や福井大学国際地域学部の開設（2016）など、社会環境や学生のニーズ変化に応じた学部・学科の見直しにより、県内大学生は増加傾向
- 県内大学生の地元就職率は、都市圏企業の採用活動の強化を受け伸び悩み

県内大学生数の推移



※各年5月現在
出典：福井県調べ

県内大学生の県内就職の状況

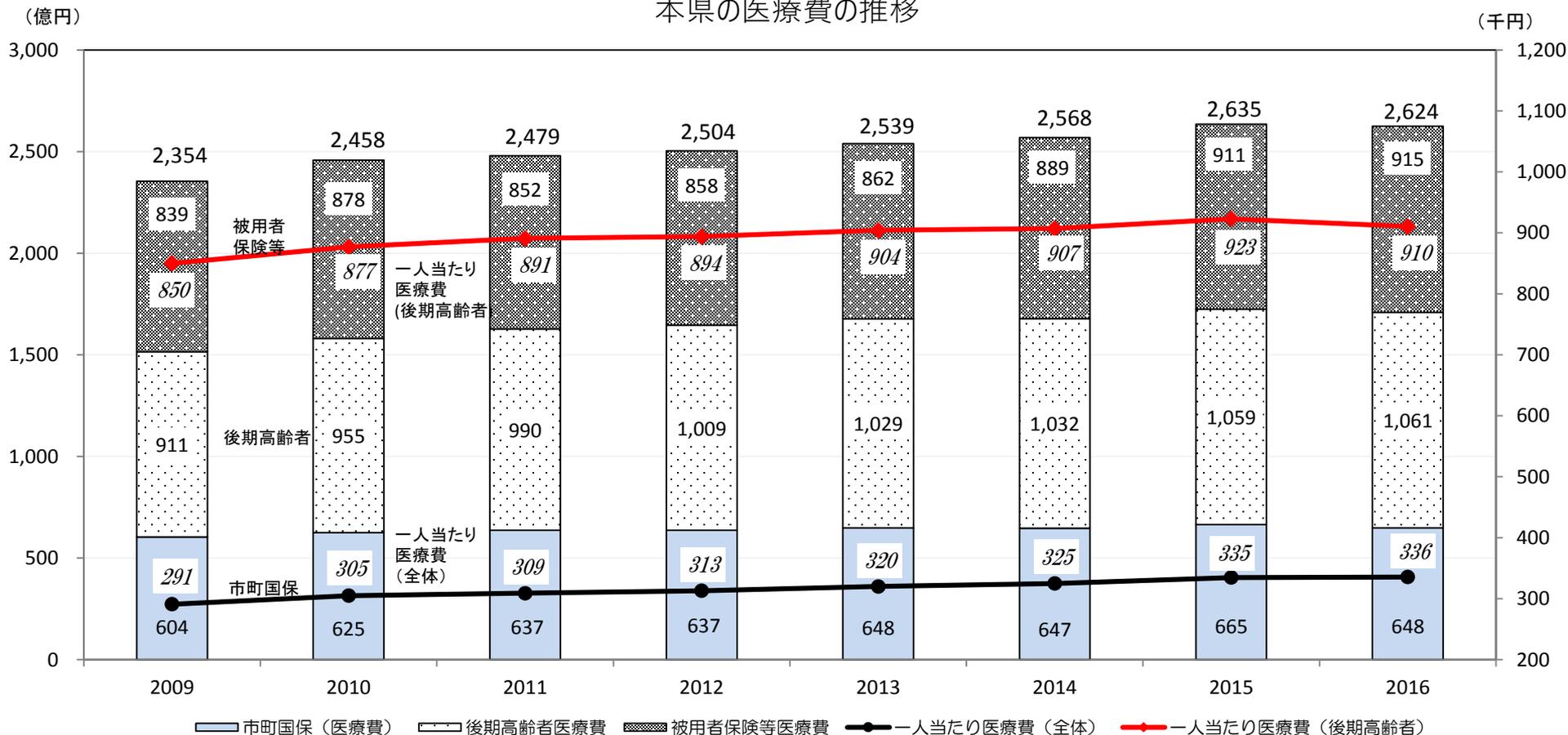


※各年度の3月卒業生の状況
出典：福井県調べ

○高齢化の進展により、医療費は増加傾向にある。2016年度は診療報酬の改定を受け減少

○75歳以上の後期高齢者の一人当たり医療費は、全体平均の2.7倍

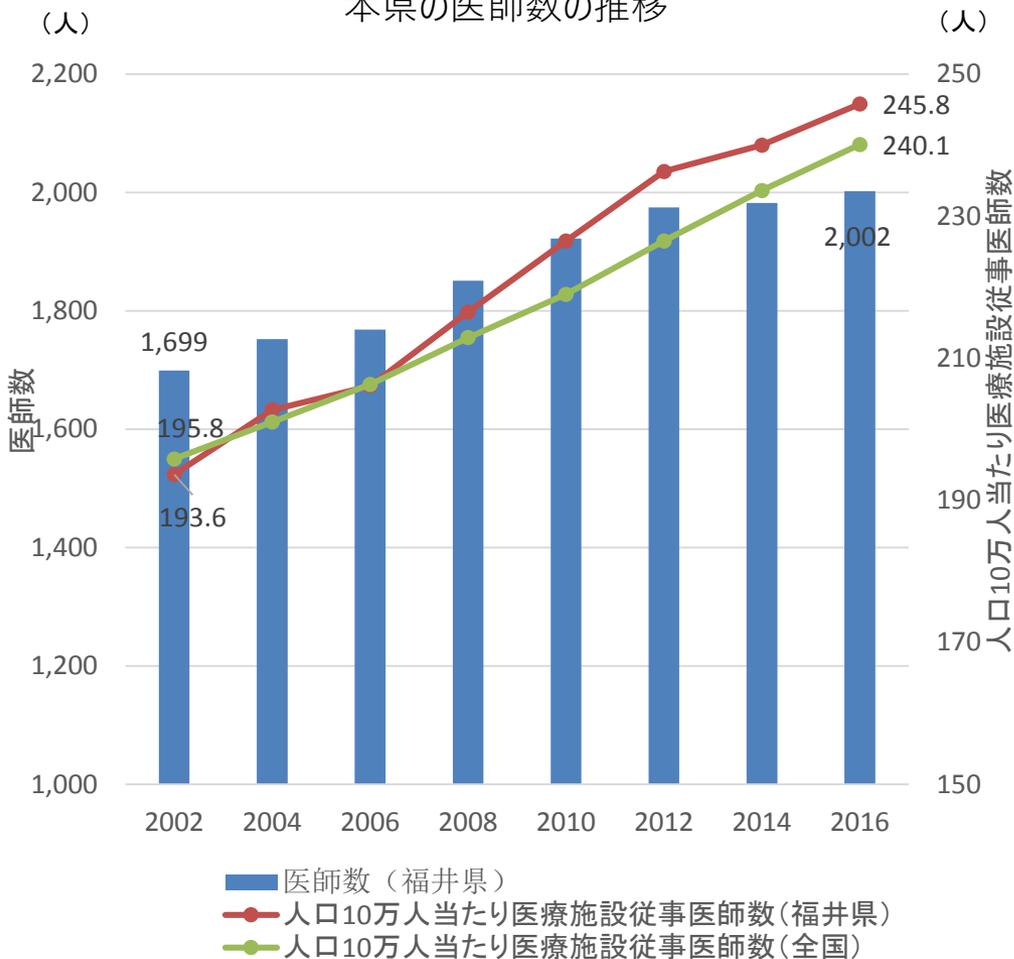
本県の医療費の推移



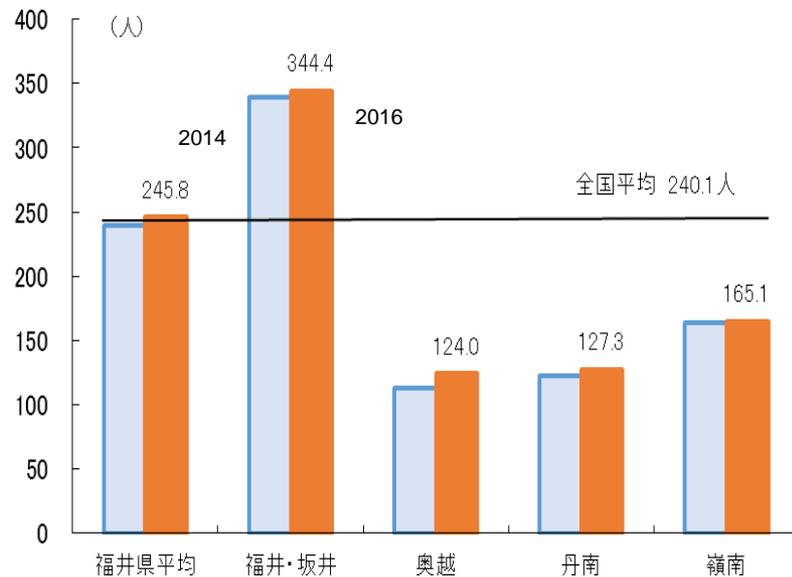
出典：厚生労働省「国民医療費」、「概算医療費」、「国民健康保険事業状況報告」、「後期高齢者医療事業年報」
総務省「国勢調査」、「人口推計」

- 県内の医師数は、年々増加しており、2016年末現在2,002人
- 本県の人口10万人当たりの医療施設従事医師数は全国を上回っているが、二次医療圏別では奥越、丹南、嶺南で全国平均を下回っている

本県の医師数の推移



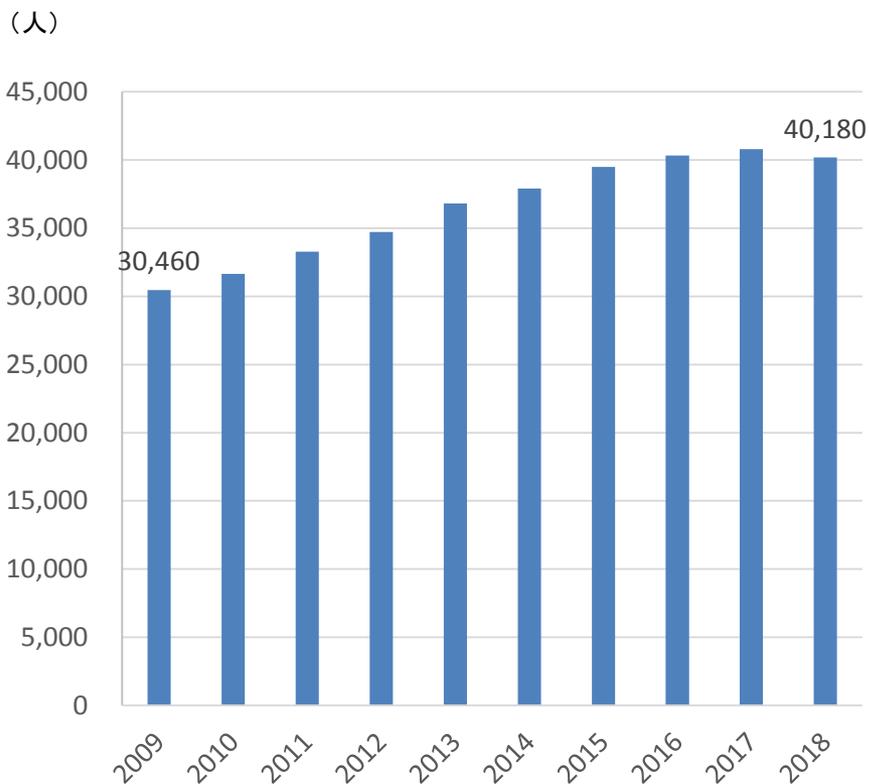
二次医療圏別の人口10万人当たり医療施設従事医師数



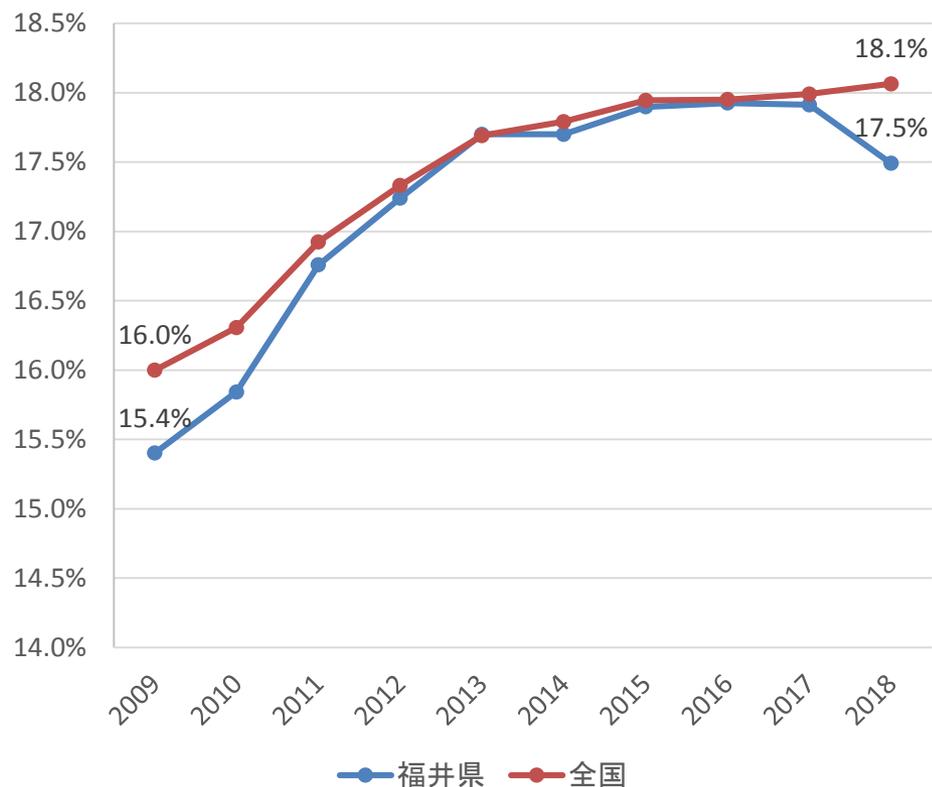
○本県の要介護認定者数は、増加傾向であり、2018年の要介護認定者は約4万人

○要介護認定率は、17.5%と全国平均の18.1%を下回る

要介護認定者数の推移 (第1号被保険者)

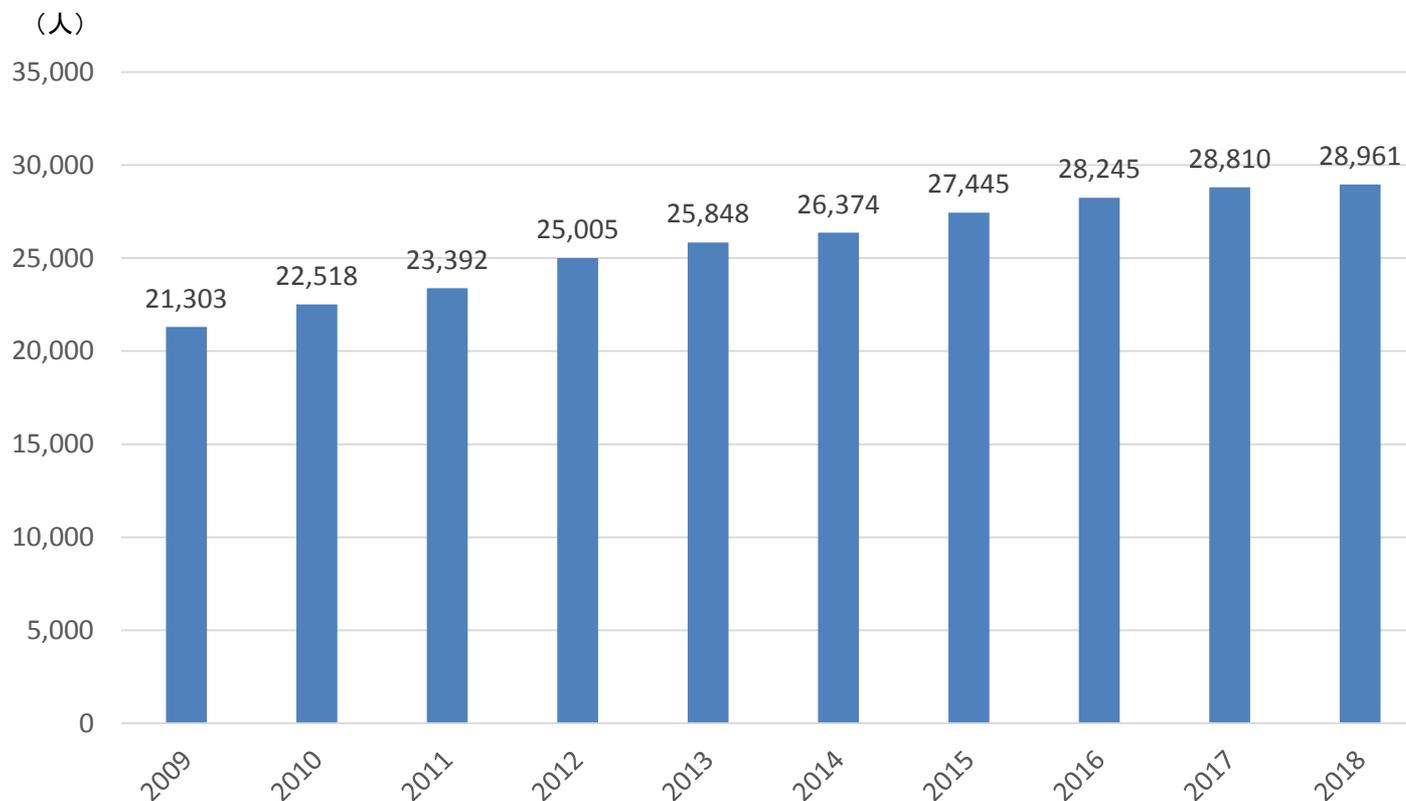


要介護認定率の推移 (第1号被保険者)



- 本県の認知症高齢者の数は増加が続いており、2018年の認知症高齢者数は約2.9万人
- 要介護認定者（約4万人）の約7割が認知症となっている

認知症高齢者の推計（日常生活自立度Ⅱ以上）

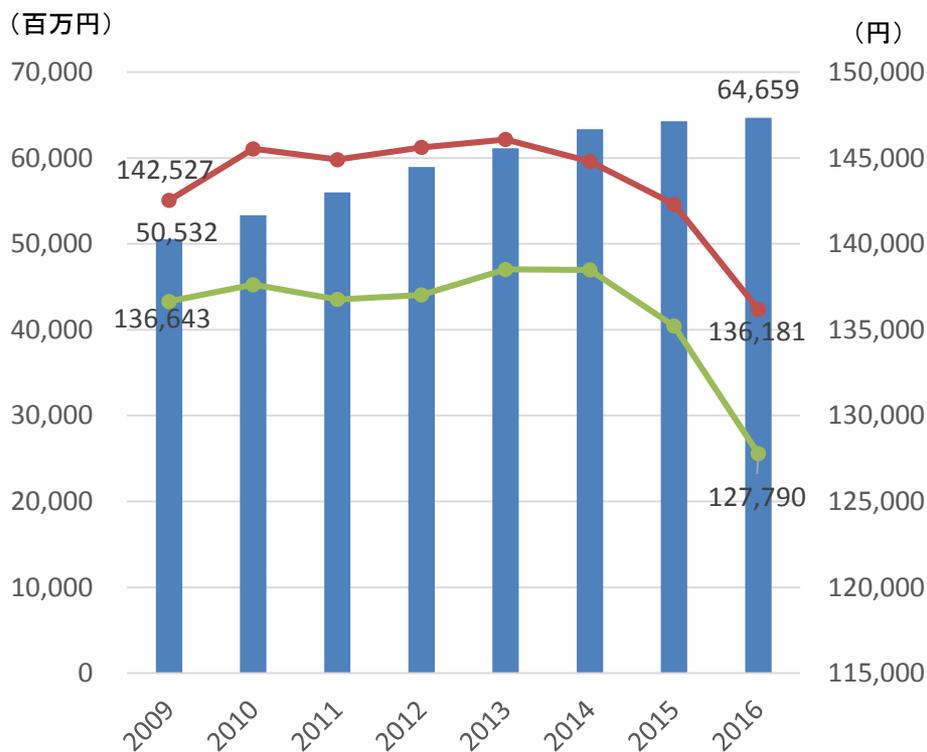


※市町の要介護認定者データによる推計

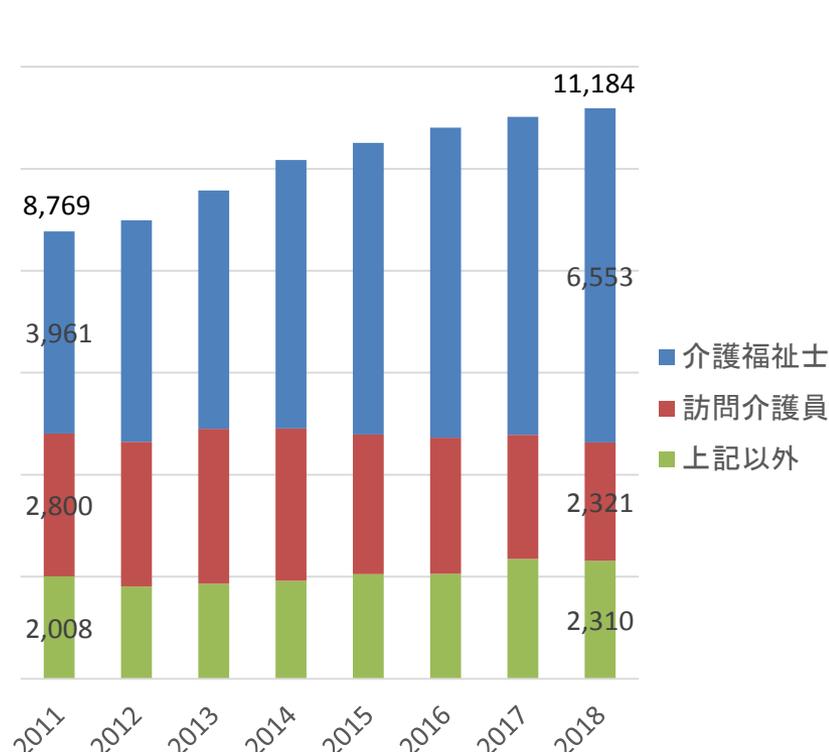
※日常生活自立度Ⅱとは、日常生活に支障をきたす症状・行動、意思疎通の困難さが多少みられるが、誰かが注意していれば自立できる状態

- 介護給付費は増加を続けているが、利用者一人当たりの介護給付費は近年減少傾向
- 介護職員数も年々増加。介護福祉士が増加している

介護給付費の推移



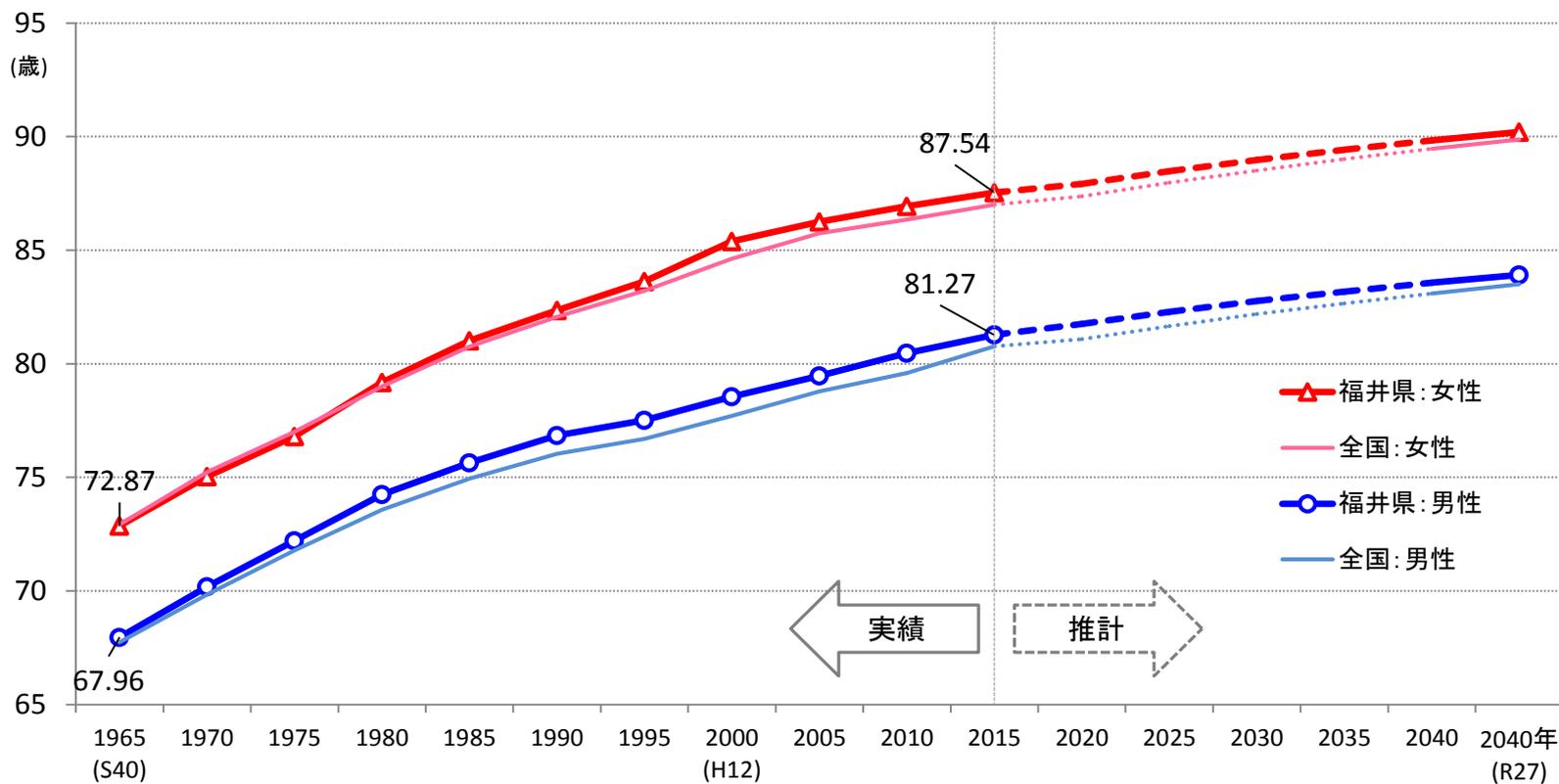
介護職員数の推移



- 介護給付費
- 利用者一人当たりの介護給付費(福井県)
- 利用者一人当たりの介護給付費(全国)

○本県男女の平均寿命は、概ね全国を上回りながら上昇を続けており、2015年時点で男性81.27歳（全国6位）、女性87.54歳（全国5位）

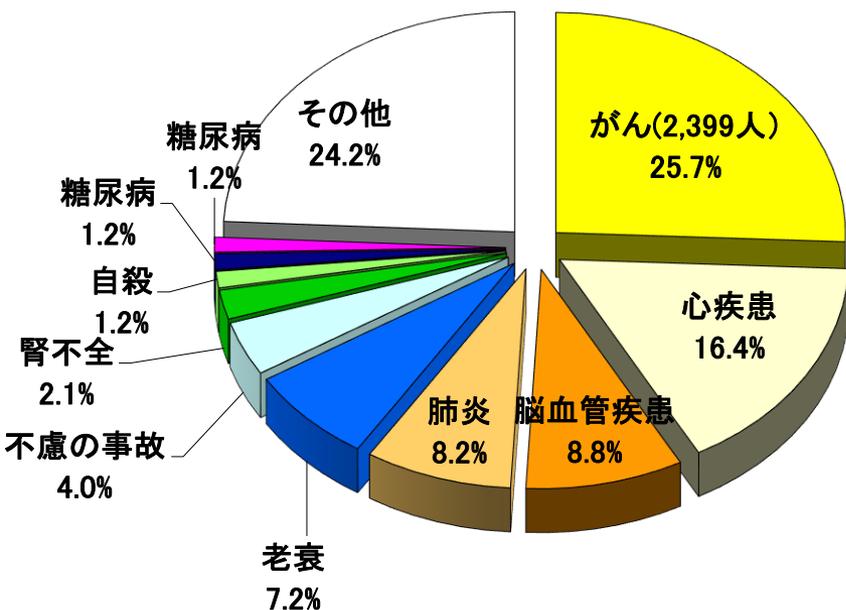
男女別平均寿命の推移と将来推計



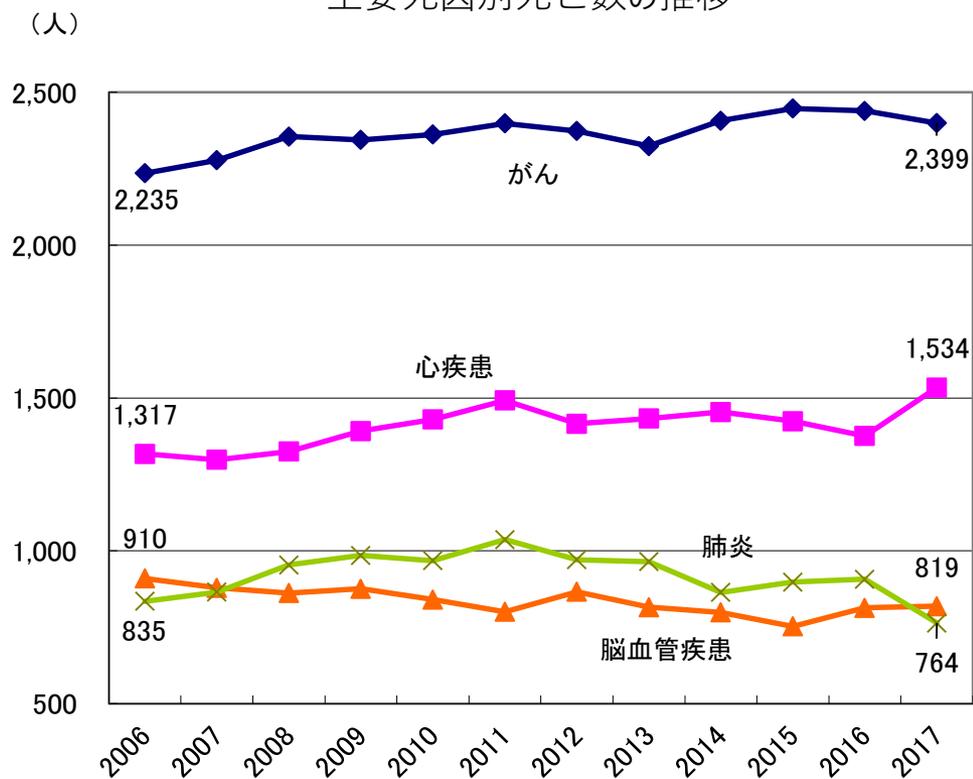
出典：（実績）厚生労働省「都道府県別簡易生命表」
 （推計）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018推計）」

○本県の死因別死亡数の割合を見ると、がん（約25.7%、2,399人）、心疾患（16.4%、1,534人）、脳血管疾患（8.8%、819人）の3死因で半数を占める

2017年主要死因別死亡数の割合



主要死因別死亡数の推移

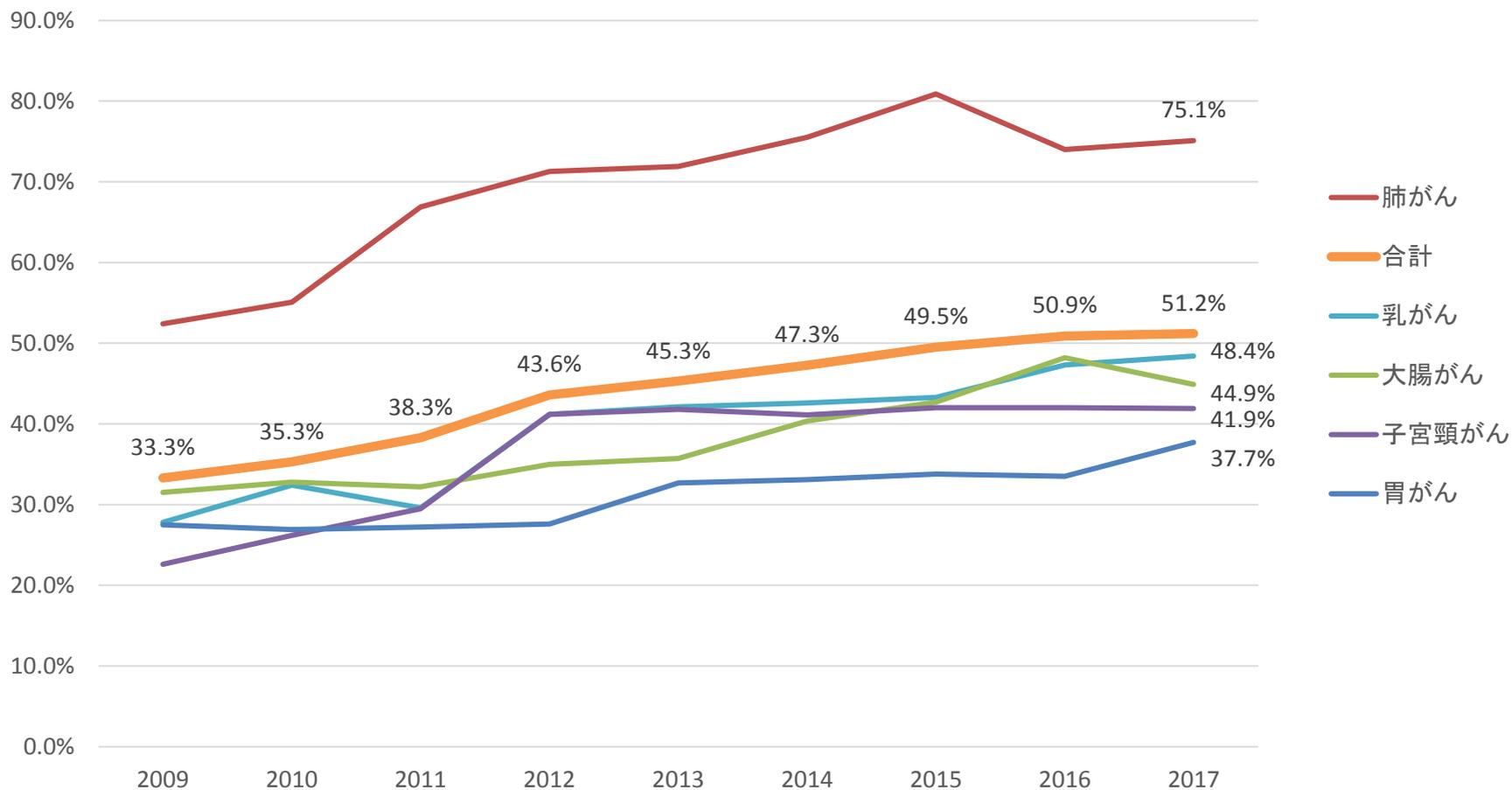


出典：人口動態統計

○本県のがん検診受診率は、年々上昇している

○部位別では、職場の健康診断で検査ができる肺がん検診の受診率が高い

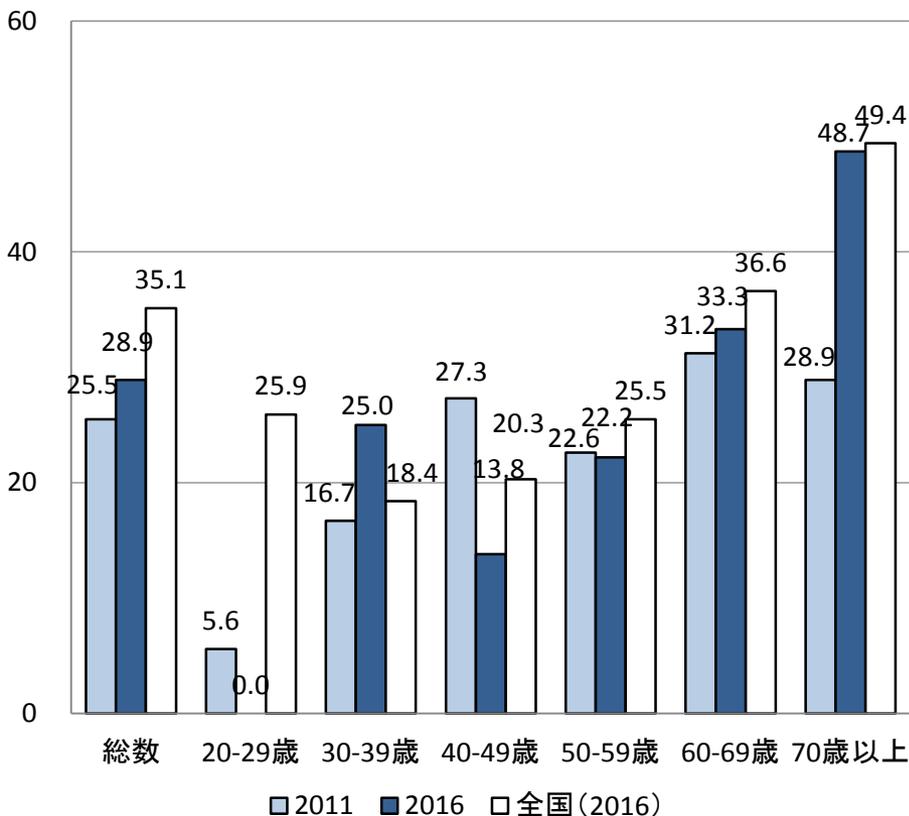
がん検診受診率の推移



○運動習慣のある者の割合は、男性・女性とも全国よりも低いが、5年前（2011）よりは増加している

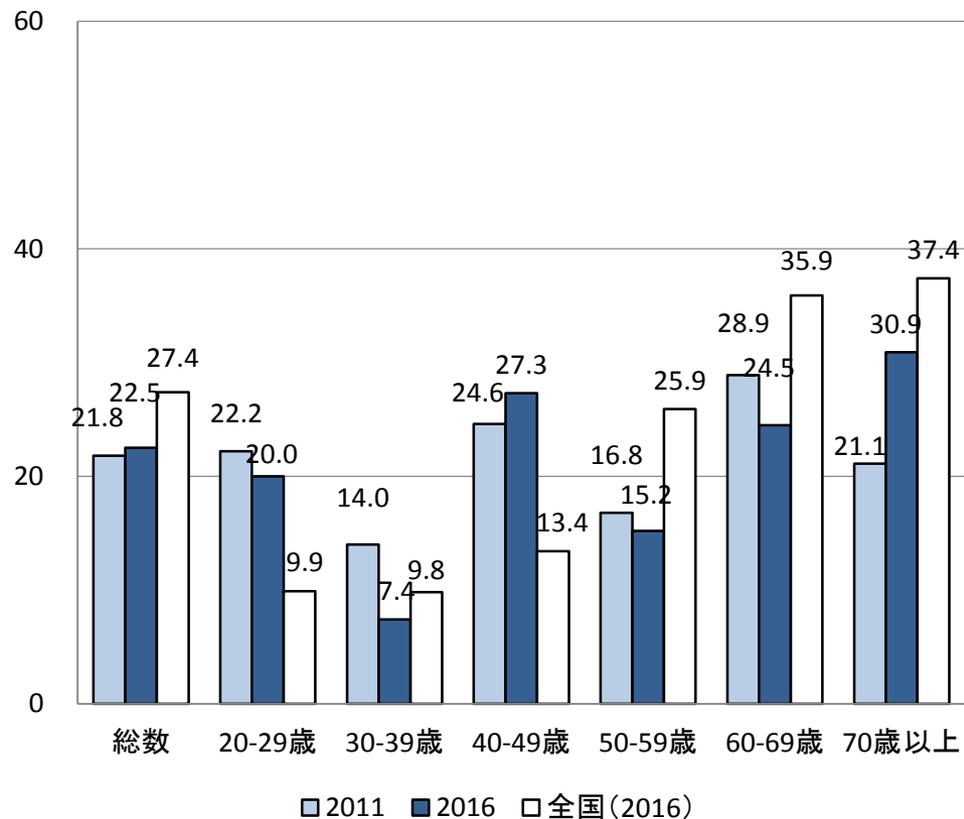
運動習慣のある者の割合 【男性】

(%)



運動習慣のある者の割合 【女性】

(%)

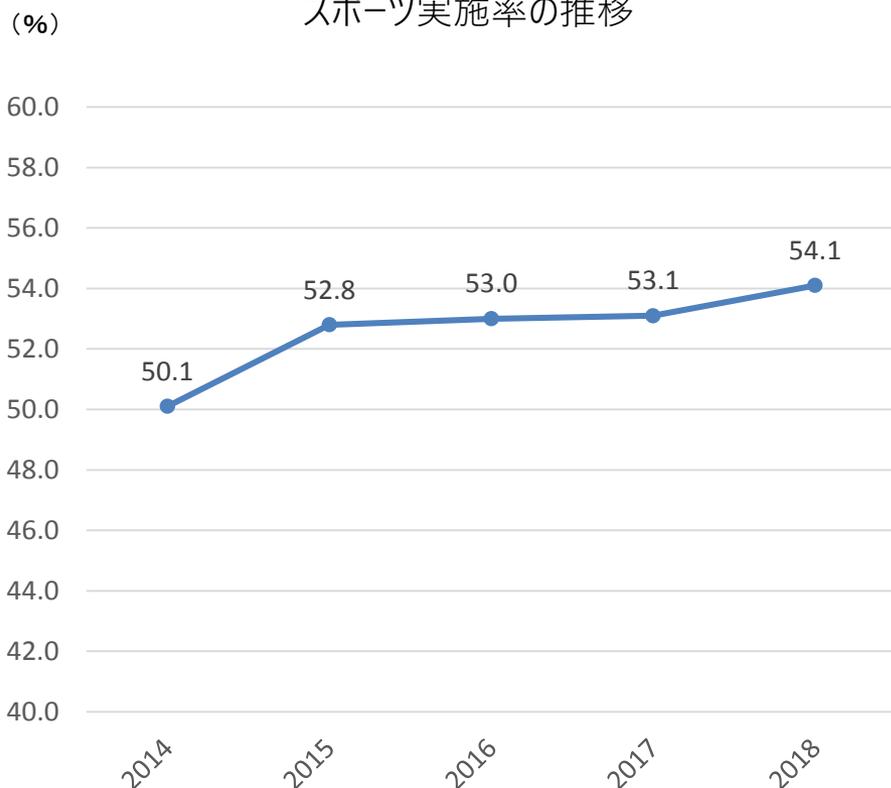


※運動習慣のある者：1日30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している者

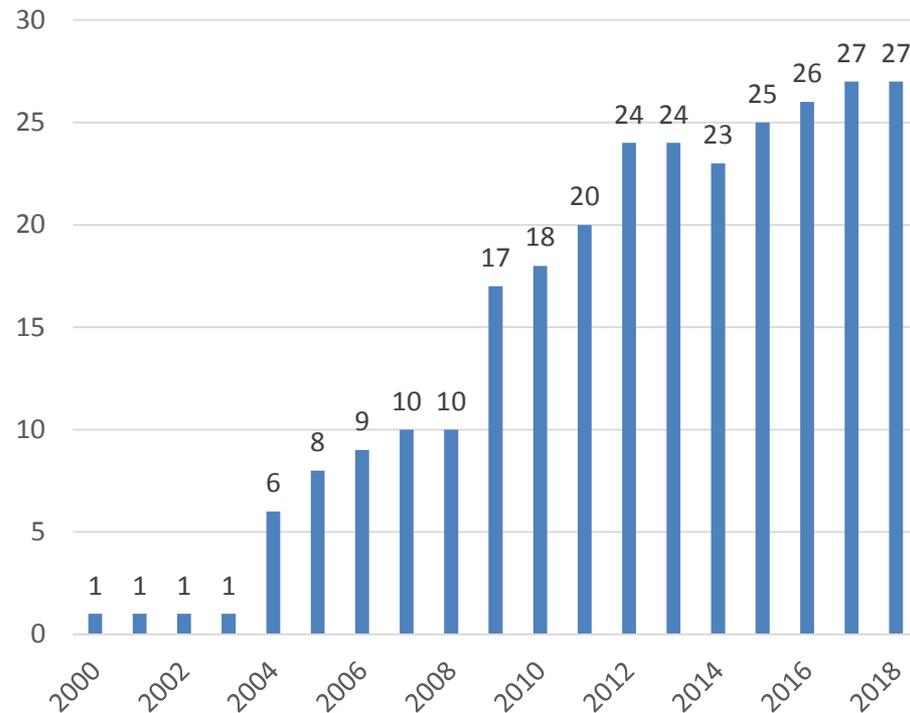
○スポーツ実施率は、少しずつ上昇を続けている

○総合型地域スポーツクラブ数は、増加を続けてきたが、近年は横ばい状態

スポーツ実施率の推移



総合型地域スポーツクラブ数



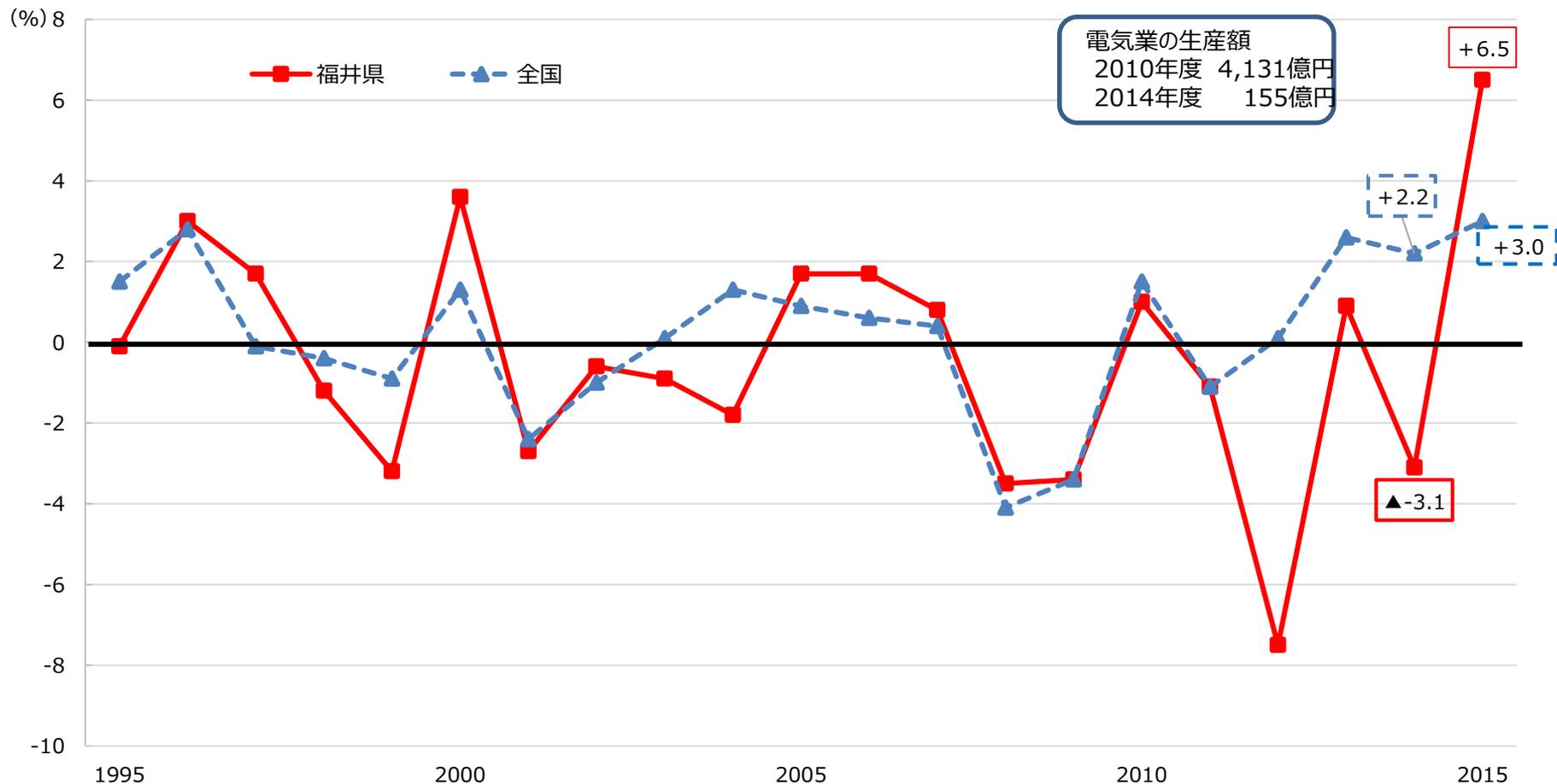
※スポーツ実施率
週に1回以上スポーツをする20歳以上の県民の割合

※総合型地域スポーツクラブ
地域の人たちが主体的に運営し、多種目、多世代、多目的などの特徴を持つスポーツクラブ

○2011年東日本大震災以降、県内原子力発電所が順次停止。2014年の国の経済成長率は+2.2%であったが、県は▲3.1%のマイナス成長（稼働原発ゼロ）

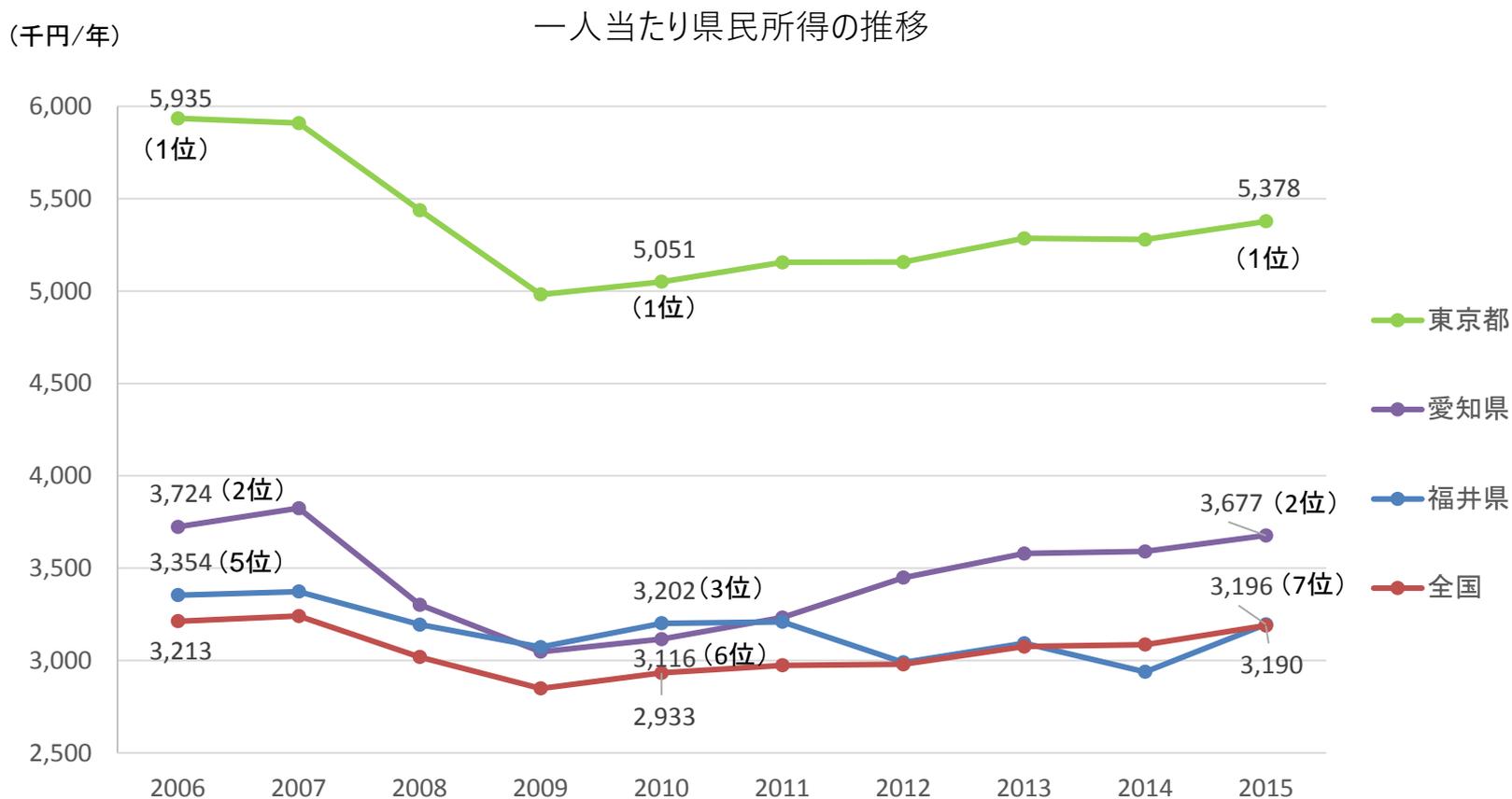
○2015年は3月の北陸新幹線金沢開業による効果などから、+6.5%と全国を上回る成長

【経済成長率の推移】



○本県の一人当たり県民所得は、全国上位に位置している

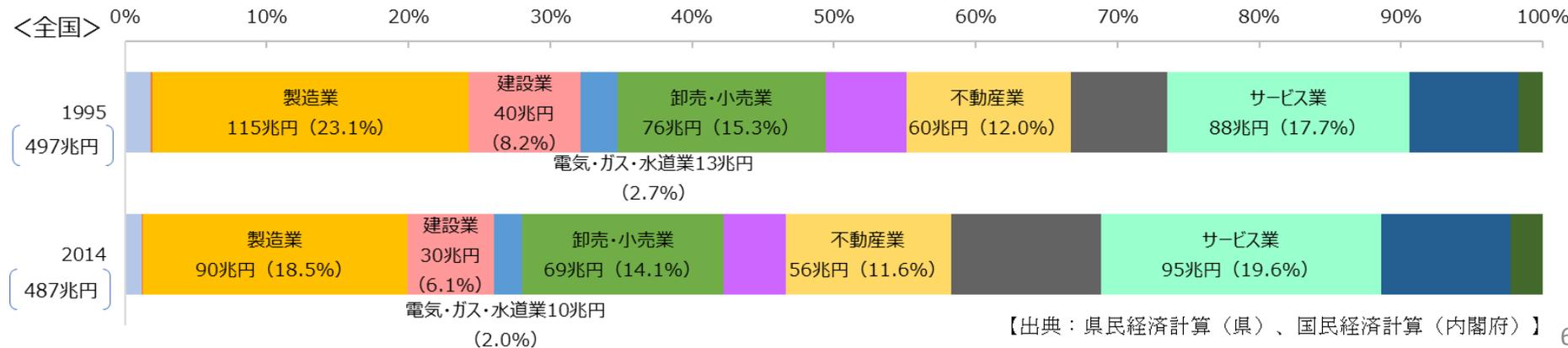
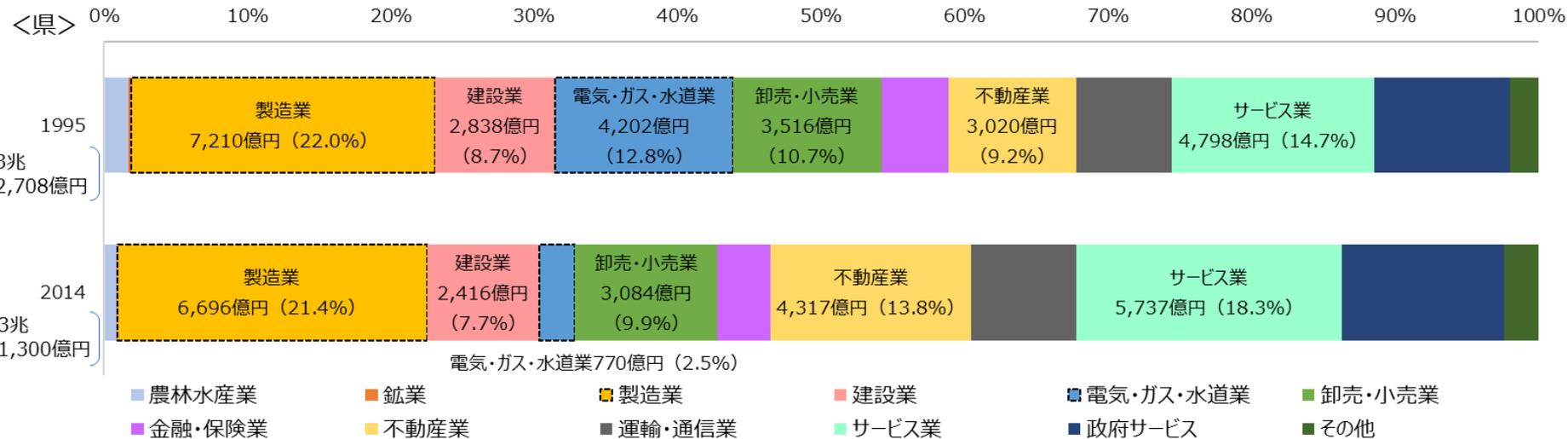
○一人当たりの県民所得は、全国1位の東京都が他の道府県を大きく上回っている



○2014年の県内総生産を1995年と比較すると、原子力発電所の停止により製造業や電気・ガス・水道業の割合が低下し、不動産業とサービス業の生産額・割合が増加

○国全体と比較すると、製造業や不動産業の割合が高い

【県内総生産（生産側：名目）】



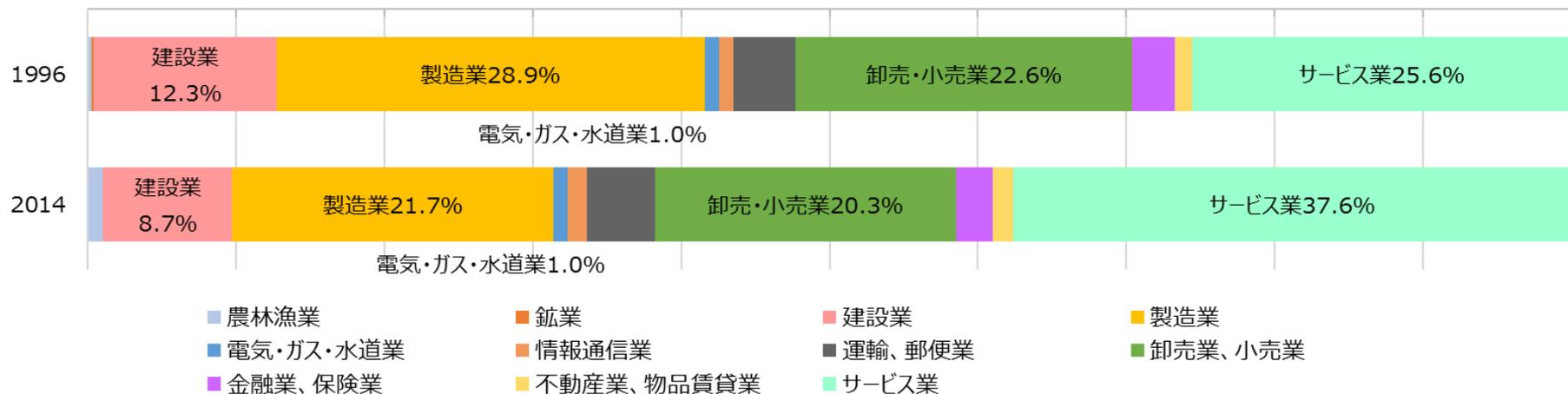
○2014年の従業者数を1996年と比較すると、製造業の割合が減少し、サービス業が大きく増加

○全国と比較すると、建設業や製造業の割合が高い

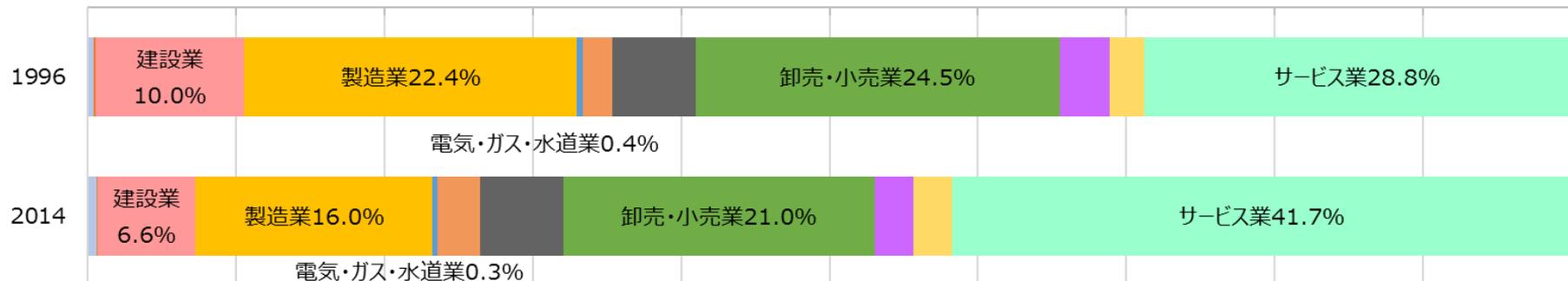
【従業者数 (業種別)】

(民営)

<県> 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

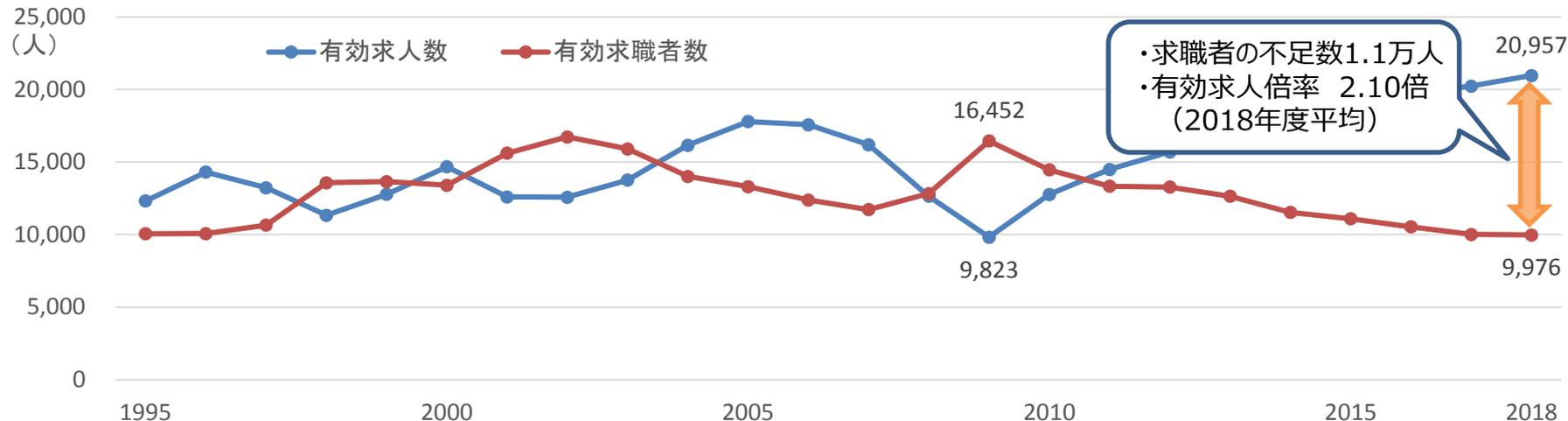


<全国> 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



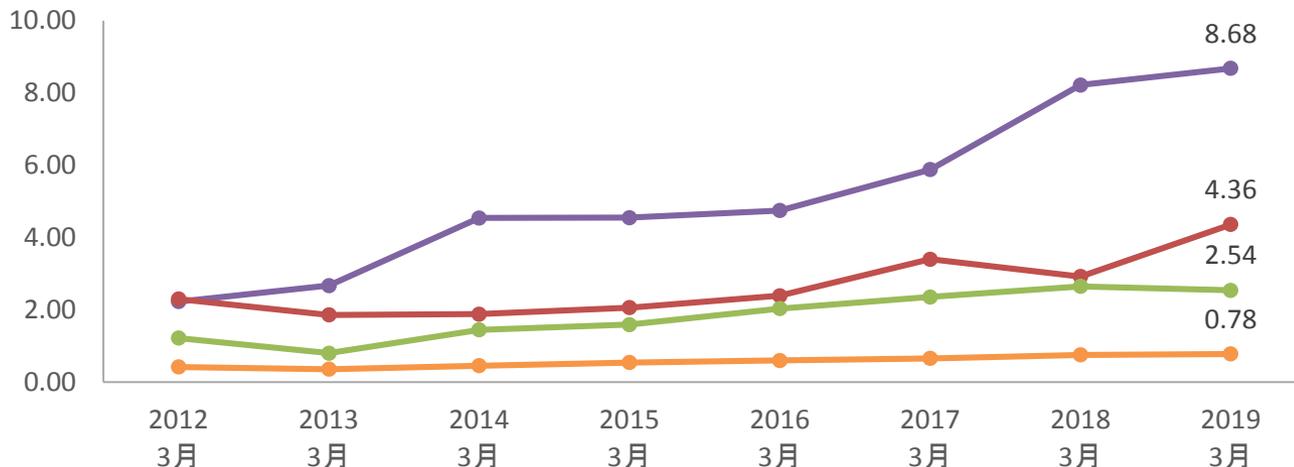
- 有効求人倍率は全国 1、2 位の水準で推移し、2018年度の求職者の不足数は約1.1万人
- 事務職の有効求人倍率が0.78倍であるのに対し、建設土木業8.68倍、介護・保健医療サービス業4.36倍など、職種・業種間で格差が生じている。

【求人・求職の動向（1月あたり平均者数）】



出典：雇用失業情勢（福井労働局）

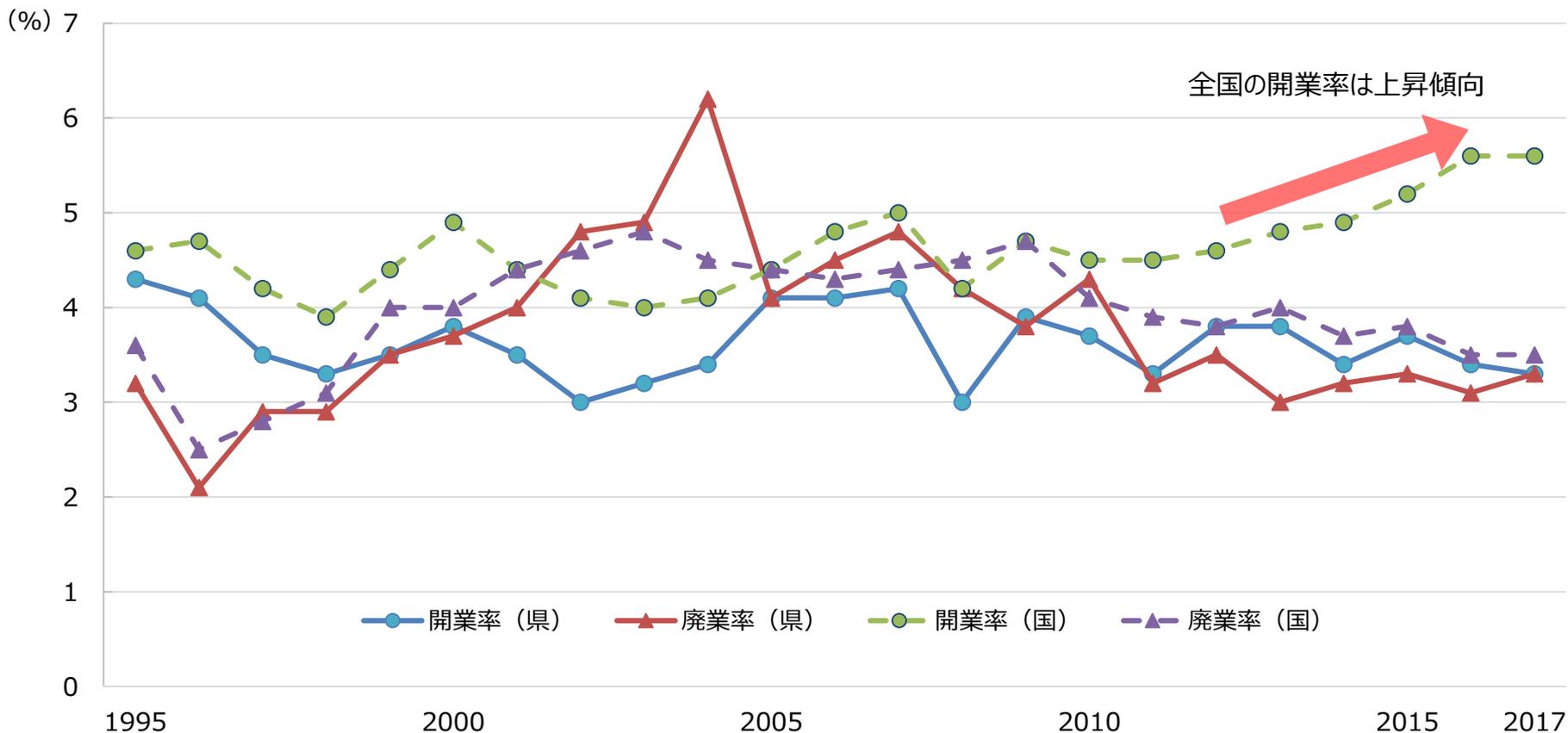
【職種別有効求人倍率】



出典：有効求人・求職者状況（福井労働局）から算出

- 開業率、廃業率はともに全国より低く、企業の新陳代謝は鈍い
- 近年、全国の開業率は上昇傾向であるが、福井県は伸び悩んでいる。

【開業率・廃業率の推移】

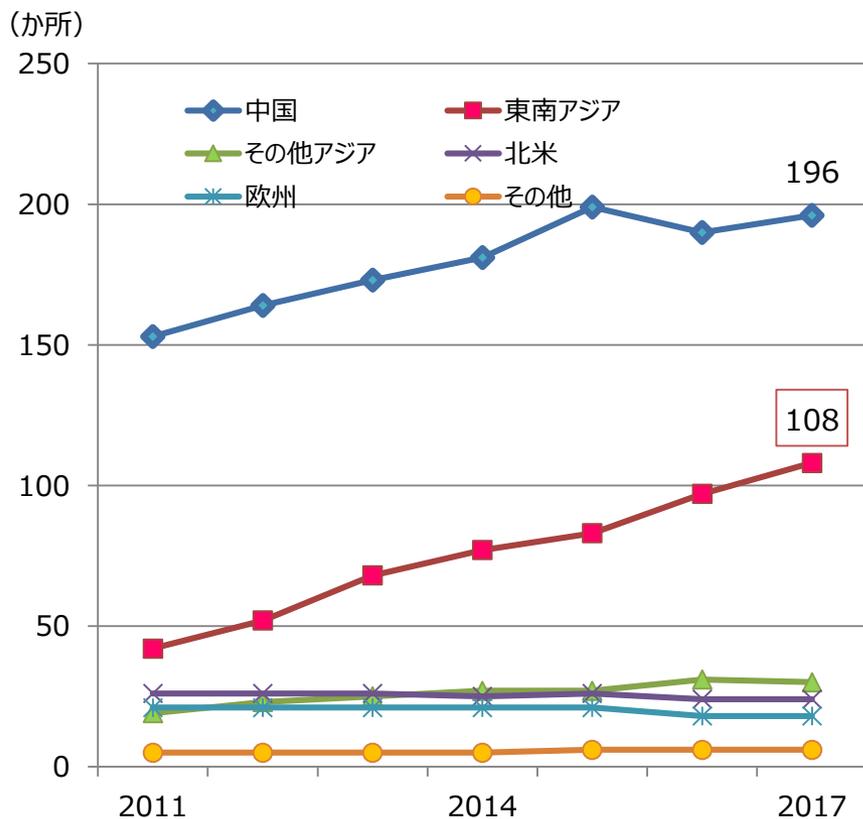


開業率…当該年度の雇用関係が新規に成立した事業所数／前年度末の雇用保険適用事業所数×100

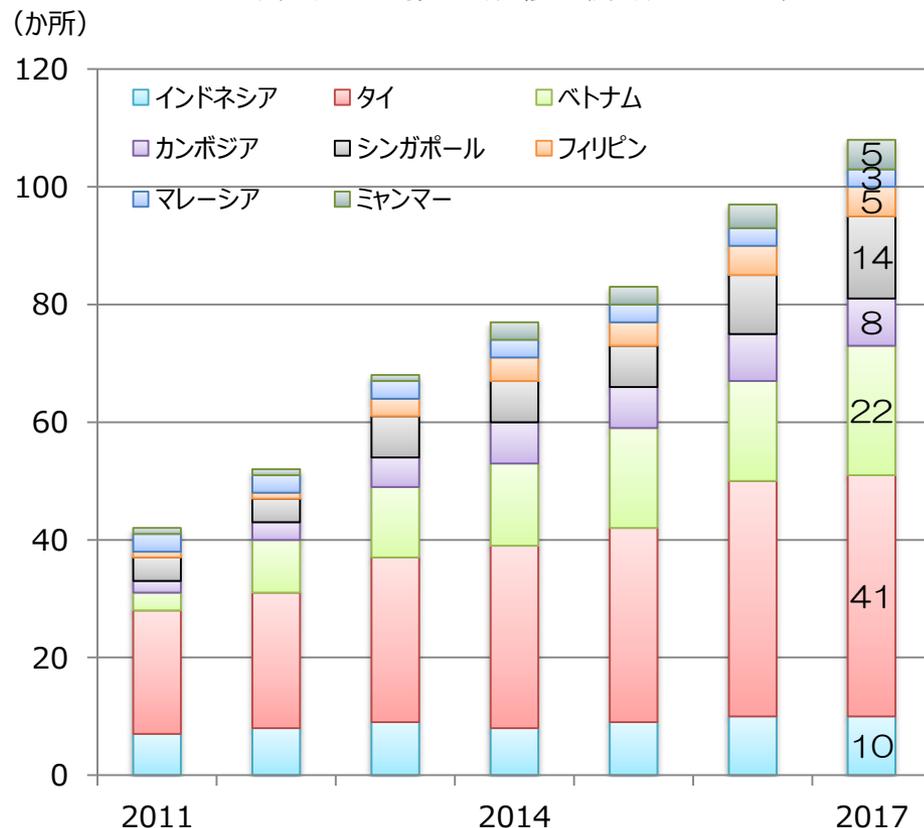
廃業率…当該年度に雇用関係が消滅した事業所数／前年度末の雇用保険適用事業所数×100

- 中国、東南アジアの海外拠点数は増加。特に、東南アジアの増加が近年顕著
- 東南アジアのなかでは、タイの拠点数が最も多い

海外拠点数の推移



海外拠点数の推移 (東南アジア)

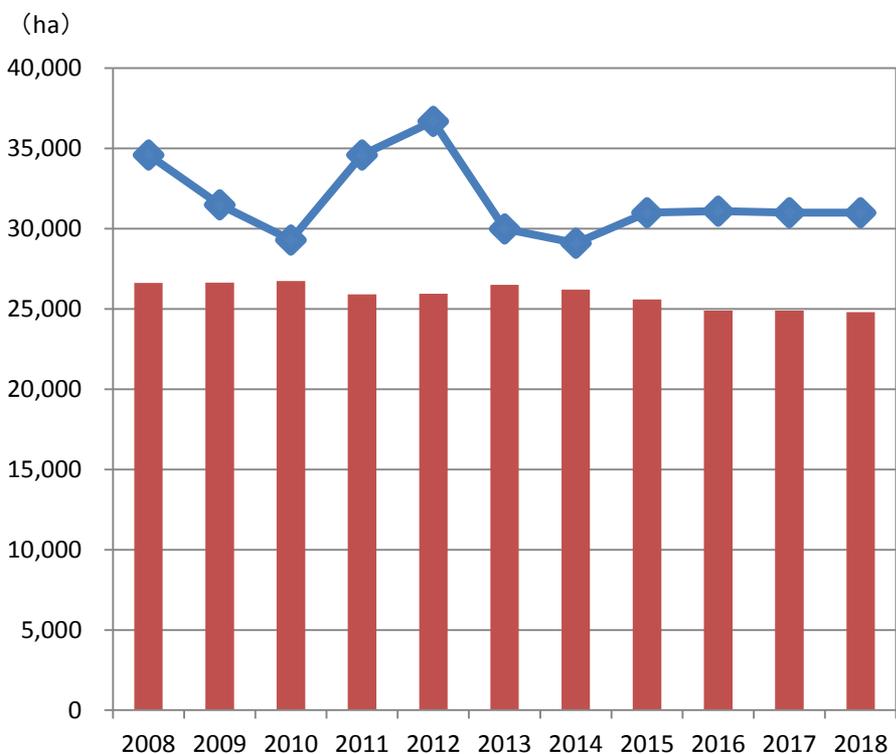


出典：県調査

○米については、消費減に伴い生産面積は、減少傾向にあるが、産出額は横ばい

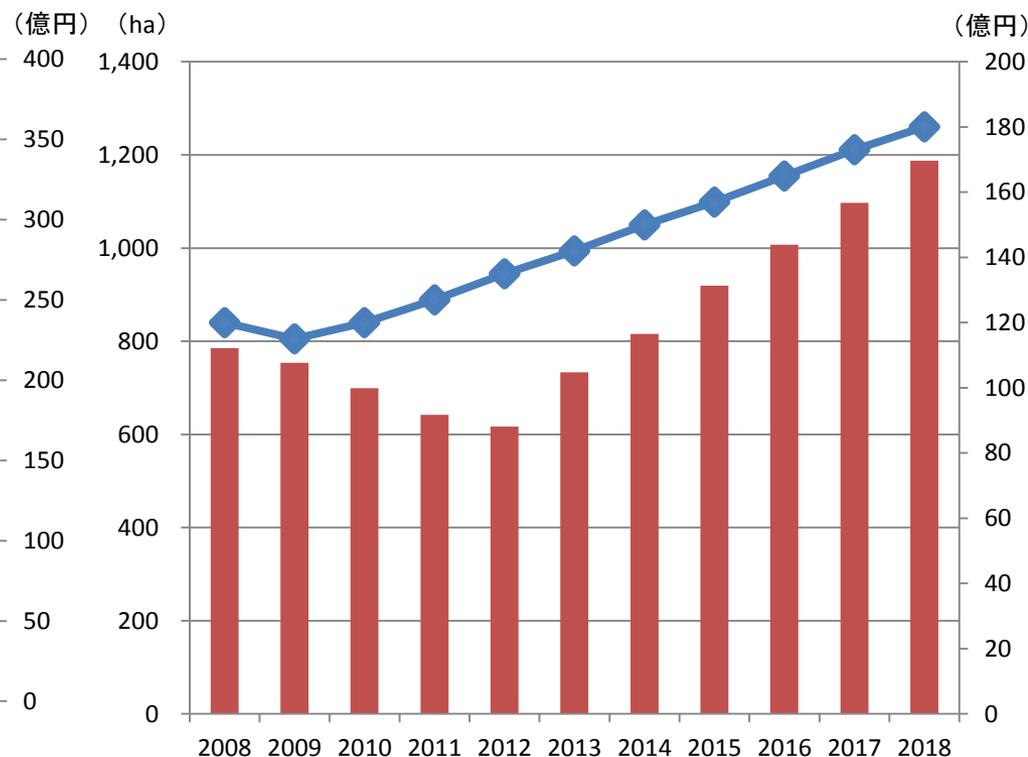
○園芸については、2012年度以降、産出額・生産面積が着実に増加

米の算出額・生産面積



■ 面積 ◆ 産出額

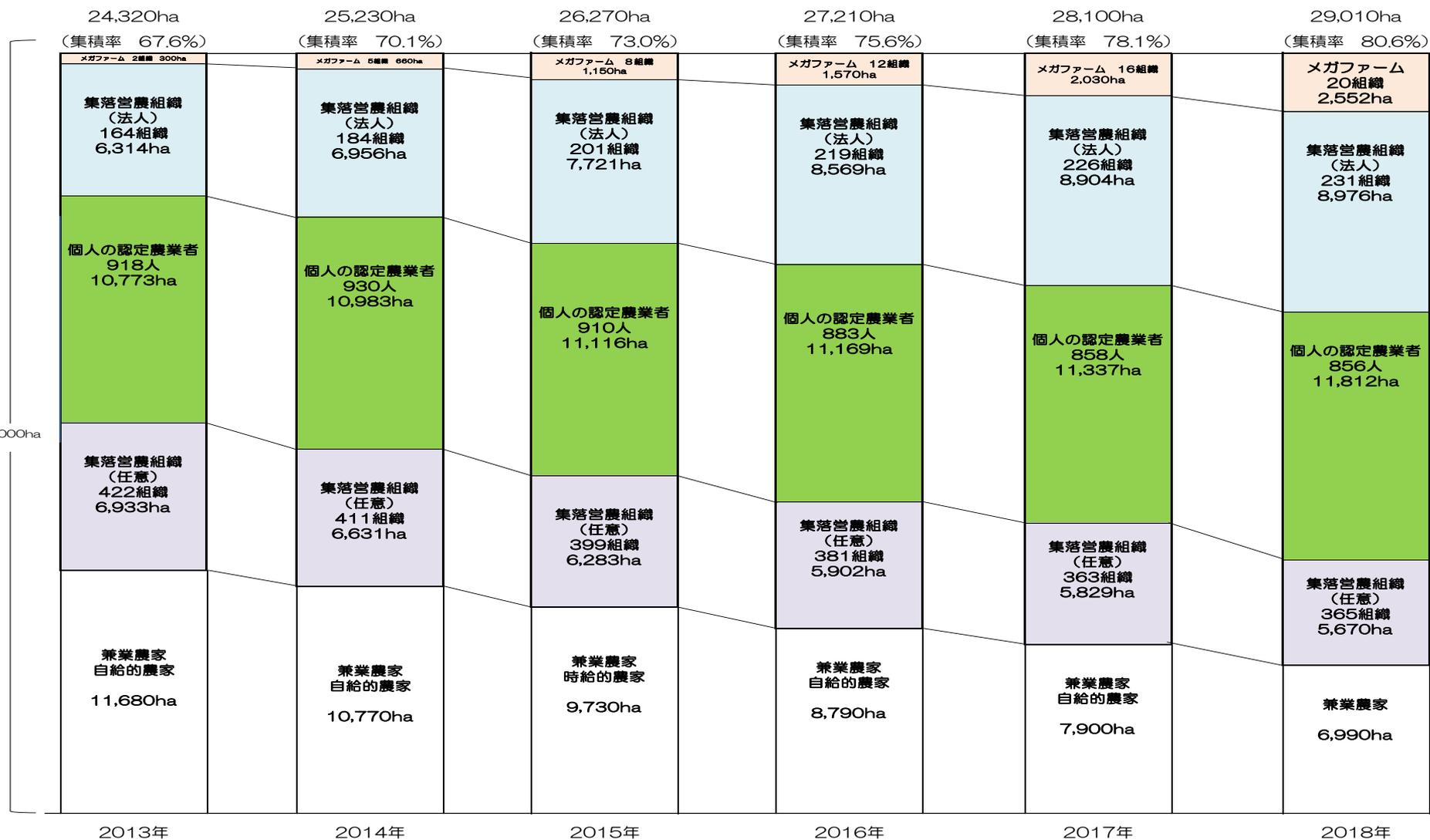
園芸の産出額・生産面積



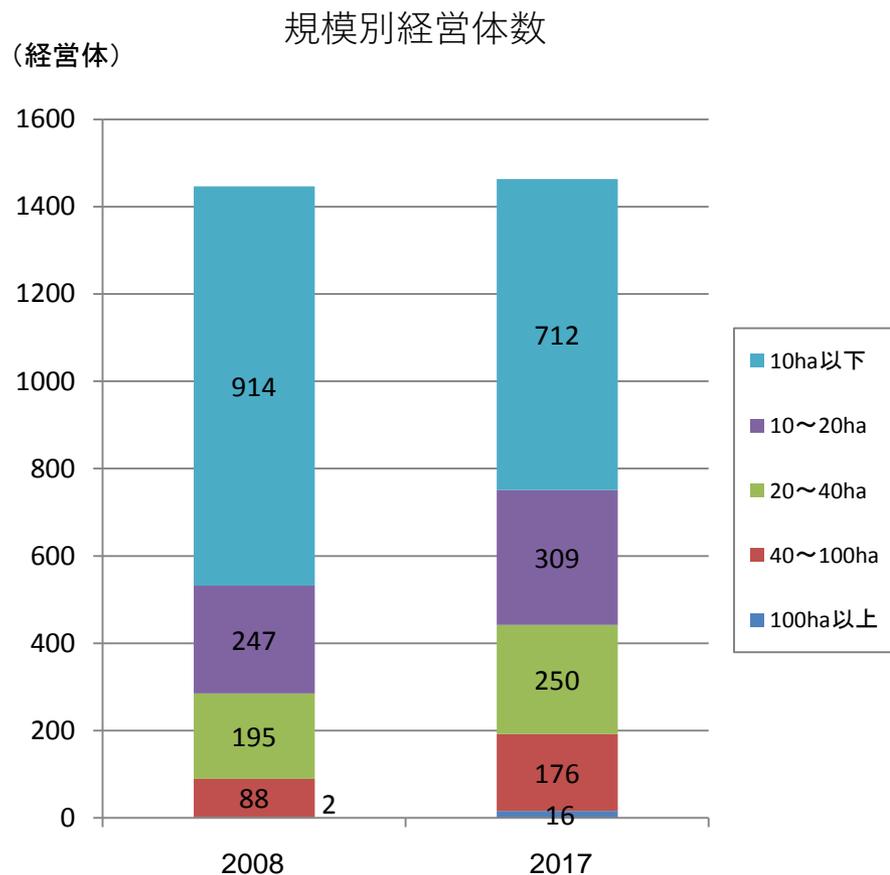
■ 面積 ◆ 産出額

○農地の8割は、認定農業者、集落営農組織に集積

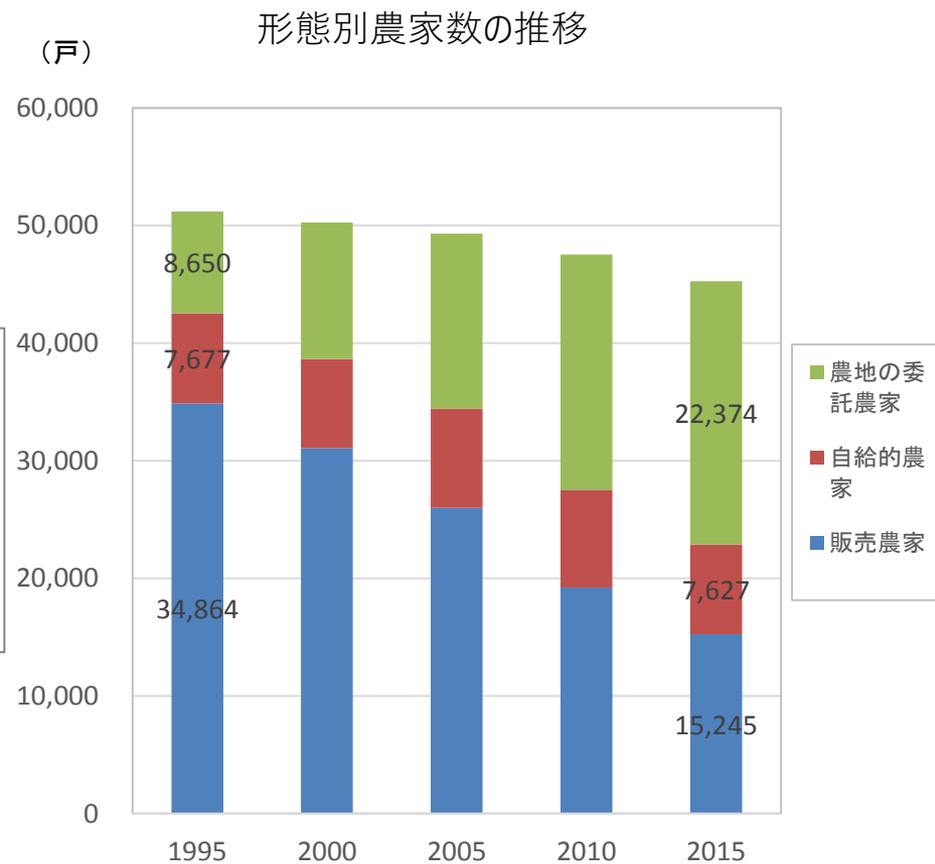
農地の集積



- 農地の集積により、経営規模が拡大
- 販売農家が減少し、農地を委託する農家が増加

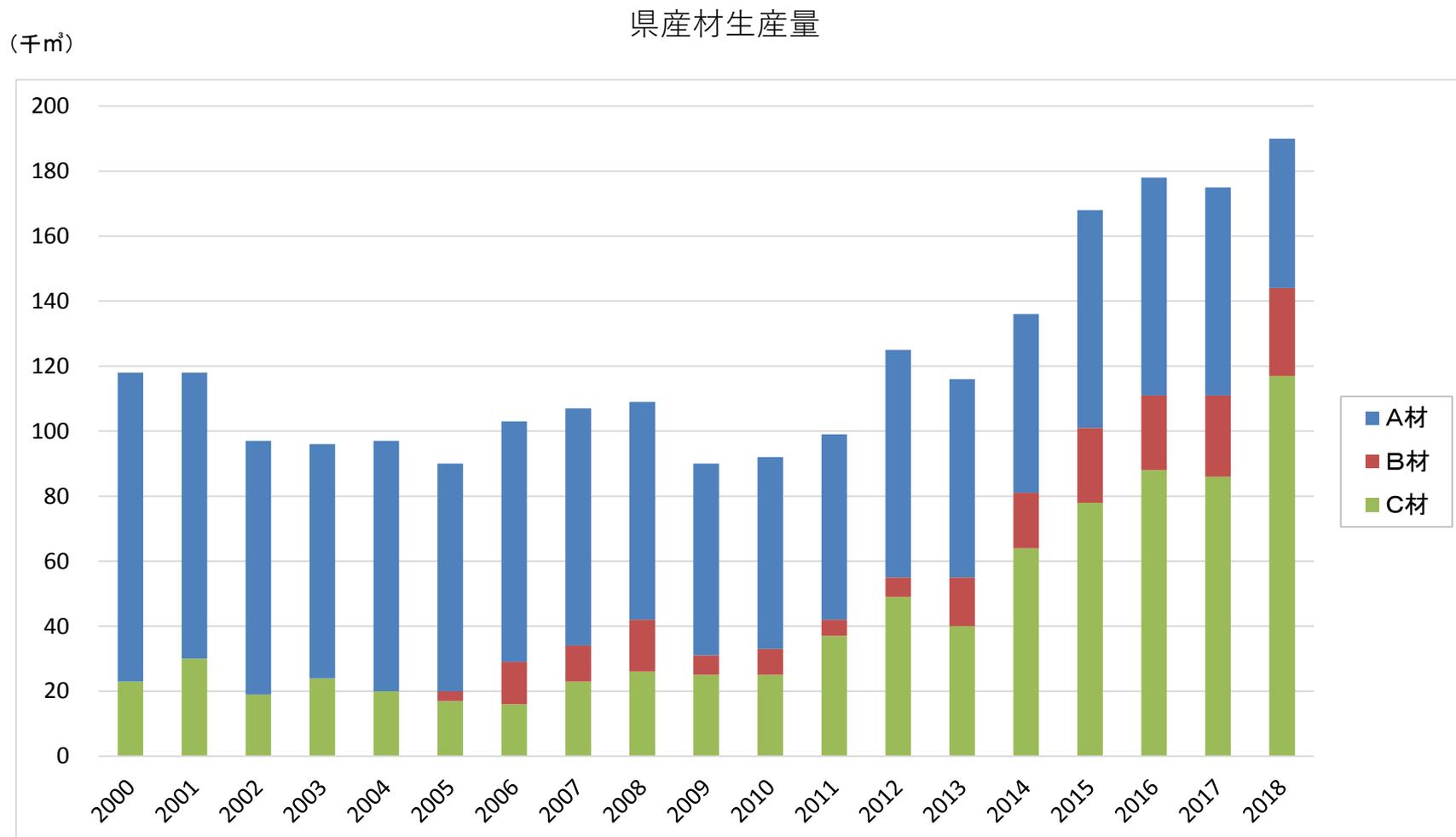


出典：福井県調べ



出典：農林業センサス

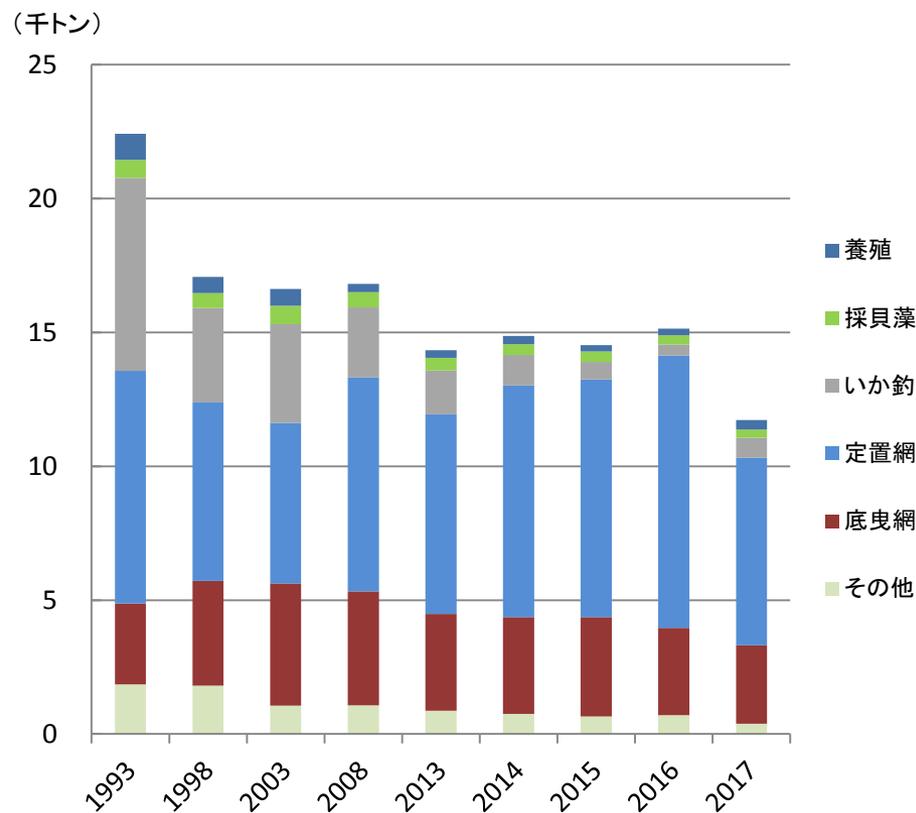
○バイオマス発電へ供給するC材の生産拡大などにより、県産材の生産量は近年増加傾向



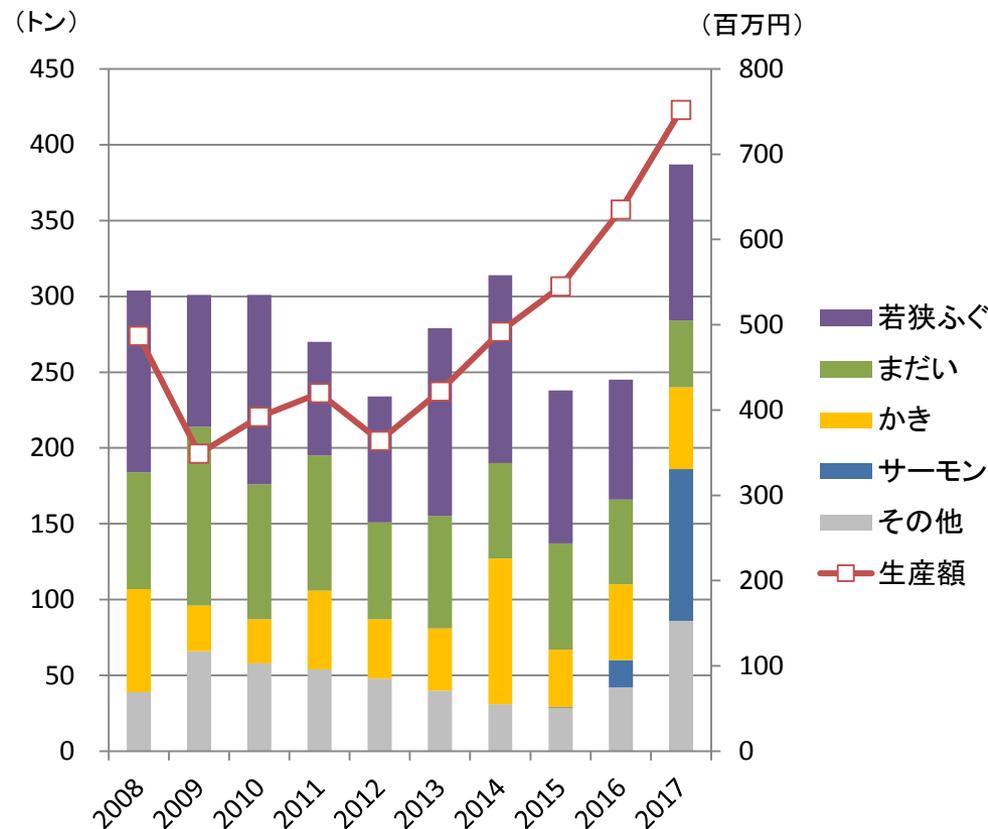
○漁業生産量（養殖を含む）は、減少傾向

○養殖生産額は、ふくいサーモンの販売開始などにより、近年上昇傾向

漁業種類別生産量の推移

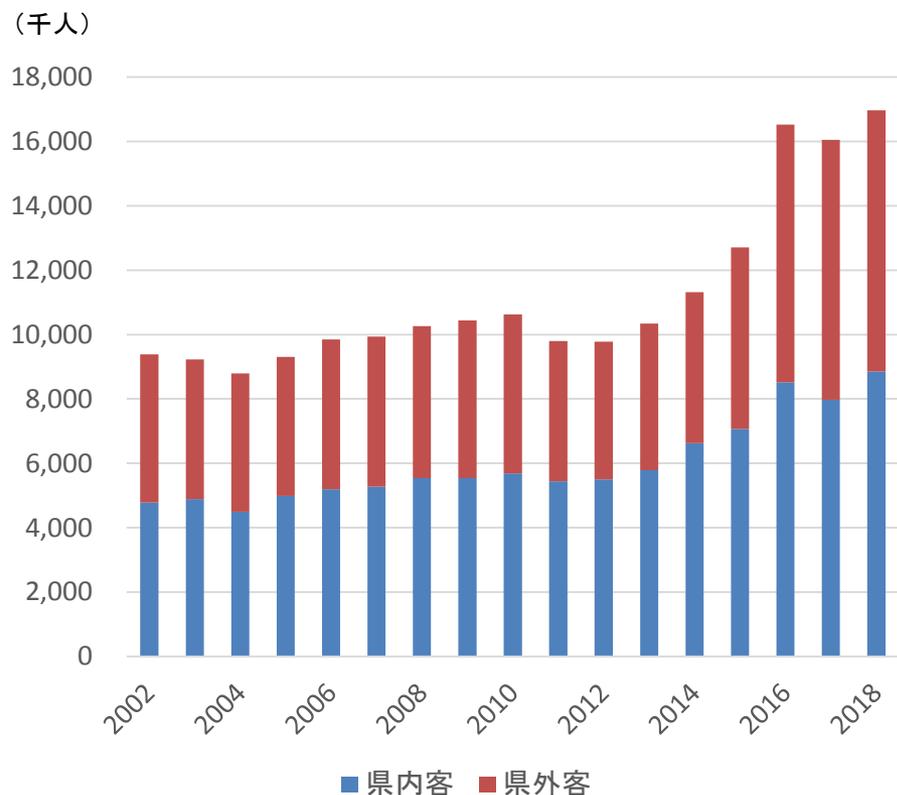


養殖生産量・生産額の推移



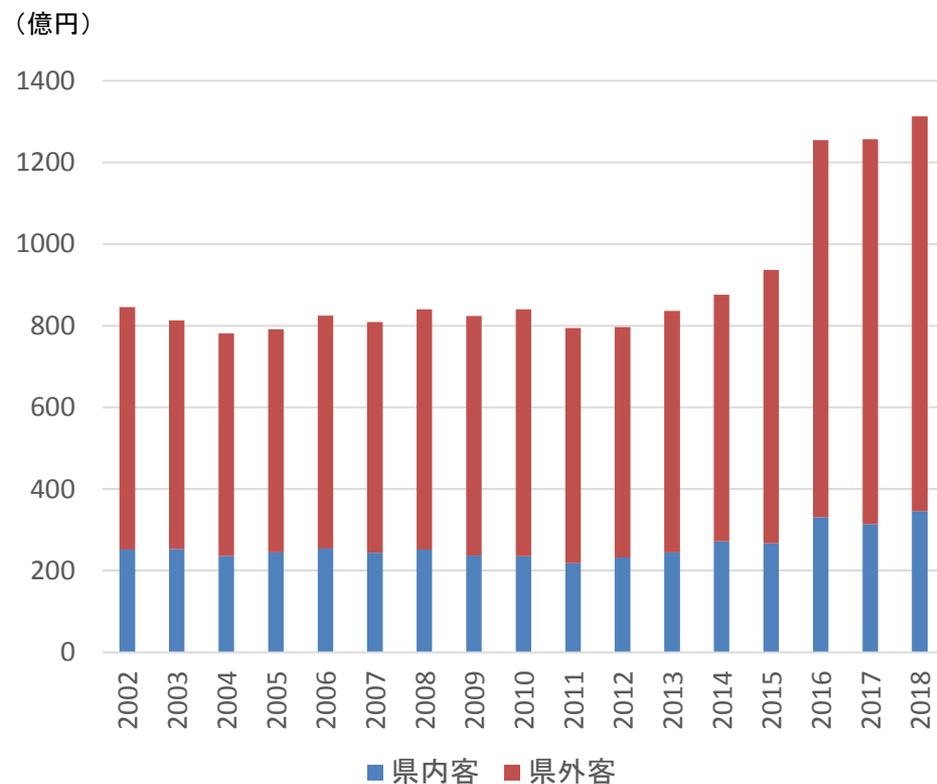
- 観光客入込数は、2015年の北陸新幹線金沢開業効果もあり、増加傾向
- 観光消費額は、東日本大震災による旅行自粛などを受けた2011年の翌年から増加が続いている

観光客入込数の推移



※2016年から集計に用いる係数を時点修正

観光消費額の推移

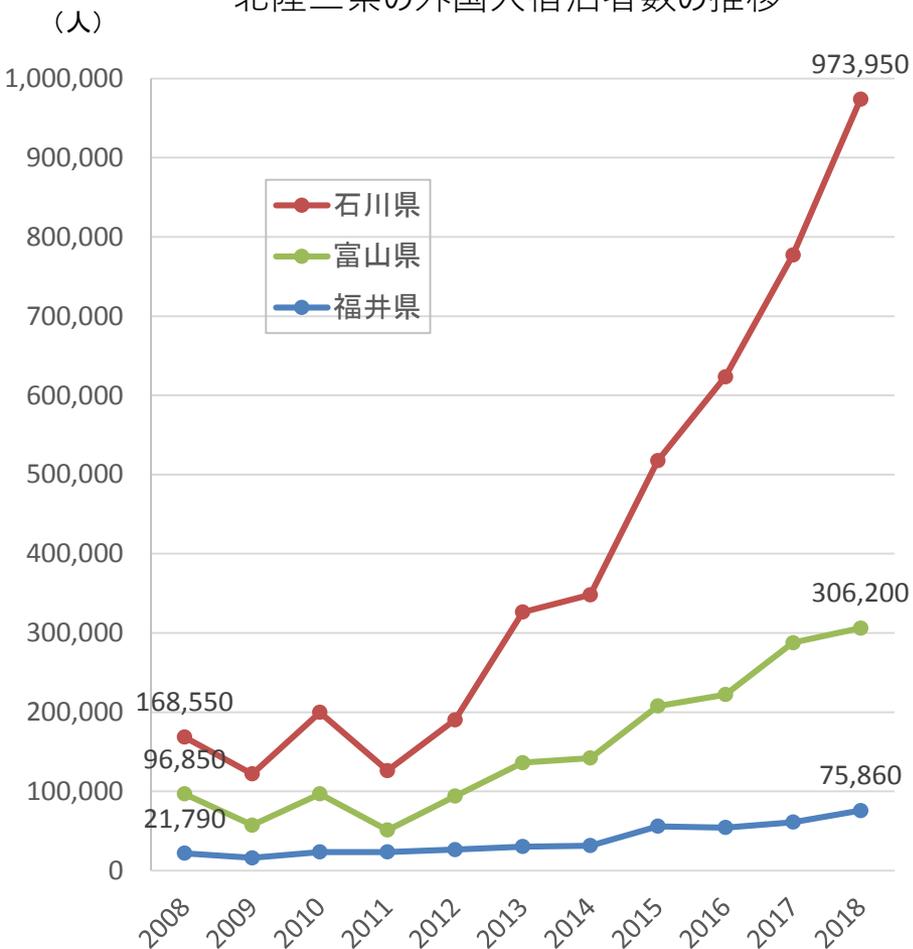


※2016年から集計に用いる係数を時点修正

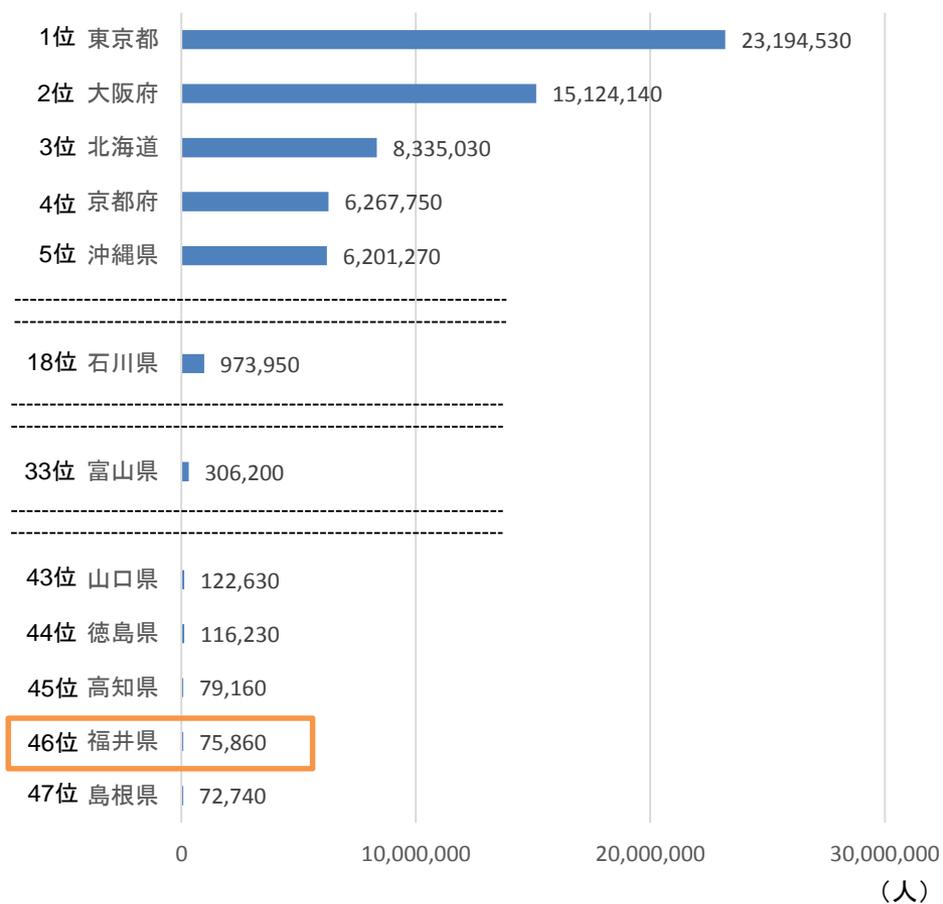
○本県の外国人宿泊者数は、着実に増加しているが、全国順位は46位と下位

○北陸三県では、石川県が10年前に比べ5.8倍と大きく増加（福井県：3.5倍 富山県：3.2倍）

北陸三県の外国人宿泊者数の推移

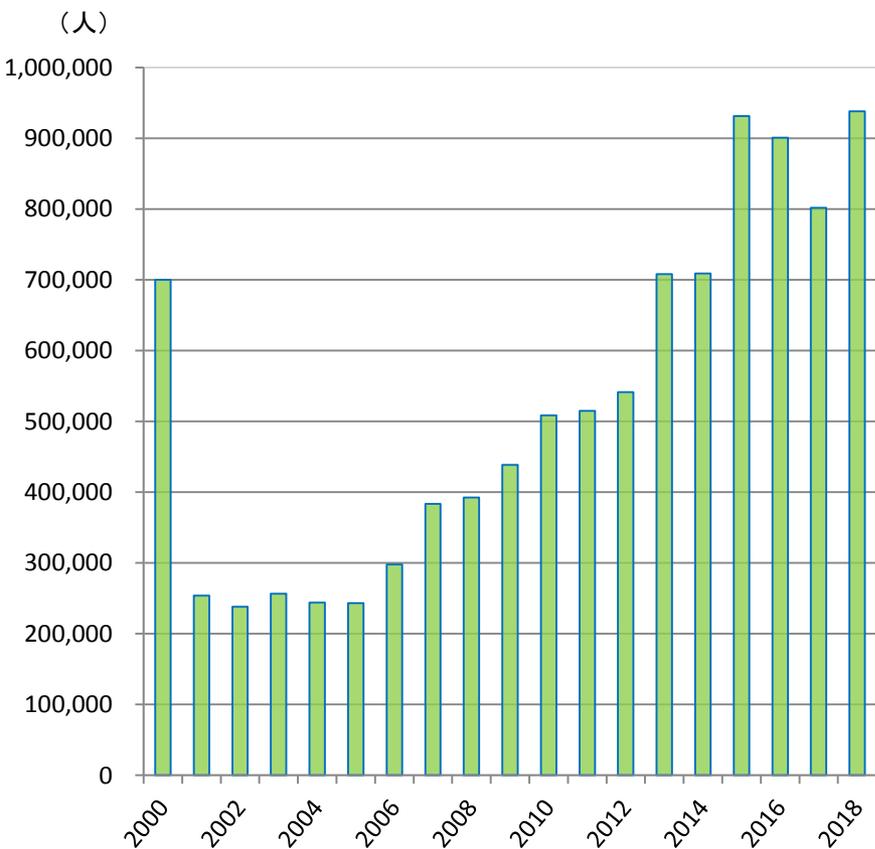


外国人宿泊者数の全国順位（2018）

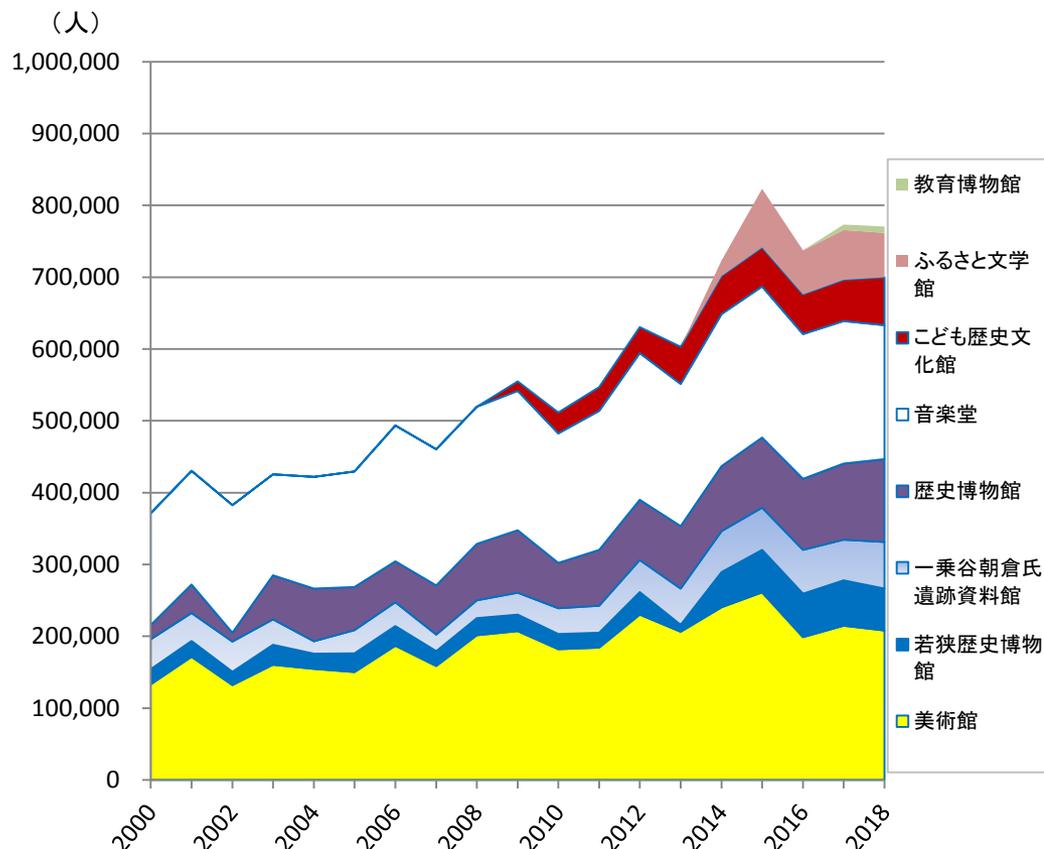


- 恐竜博物館入館者数は、2018年度には過去最高となる約94万人を記録
2019年3月には、開館以来の累計の入館者数が1,000万人を突破
- 恐竜博物館を除く、県立文化施設全体の入館者数は、2015年度が最大

恐竜博物館 入館者数

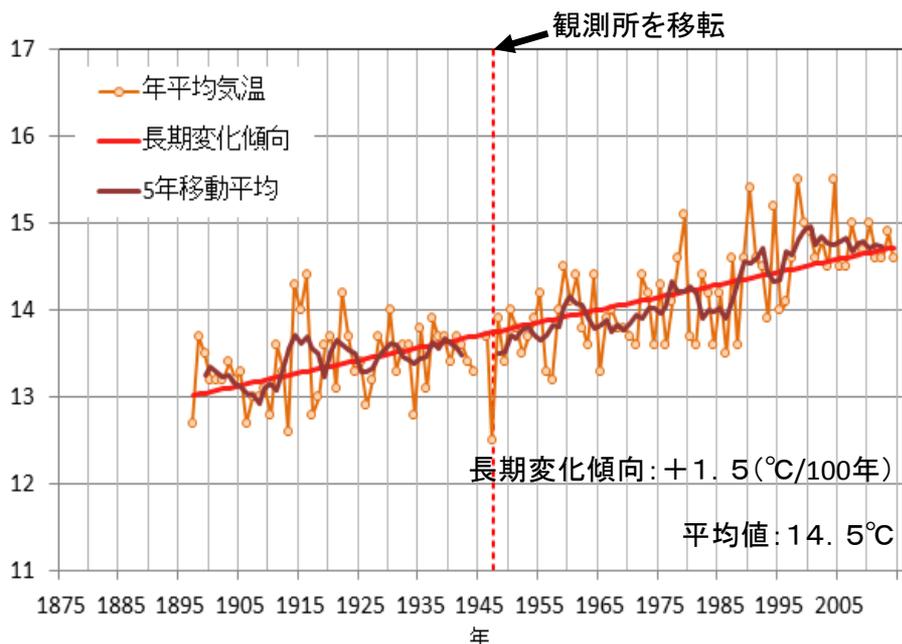


県立文化施設（恐竜博物館除く）入館者数



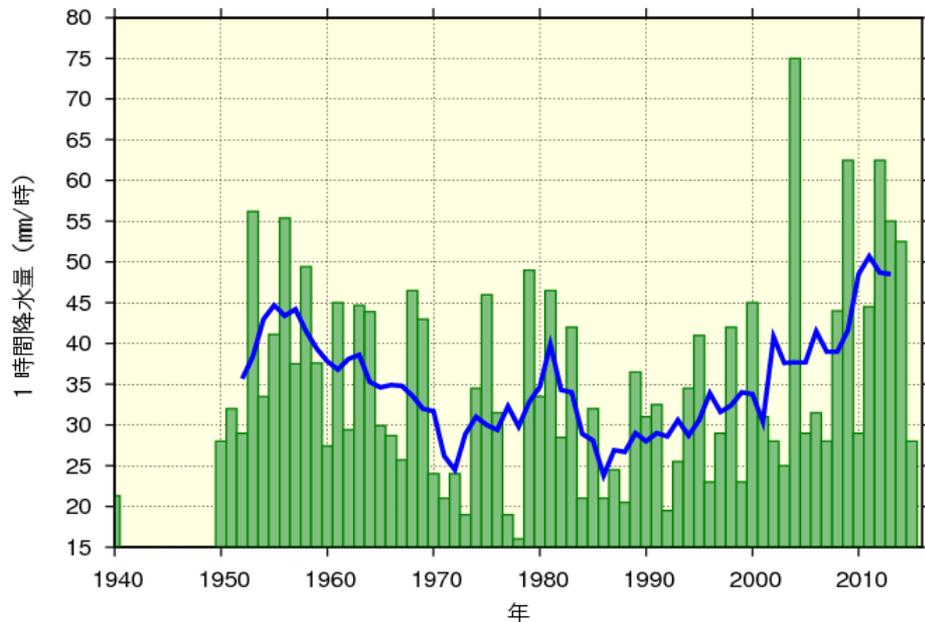
○本県の平均気温は、100年で約1.5℃上昇しており、短時間強雨についても増加傾向にある

福井地方気象台（福井市）の
平均気温の経年変化



提供：福井地方気象台

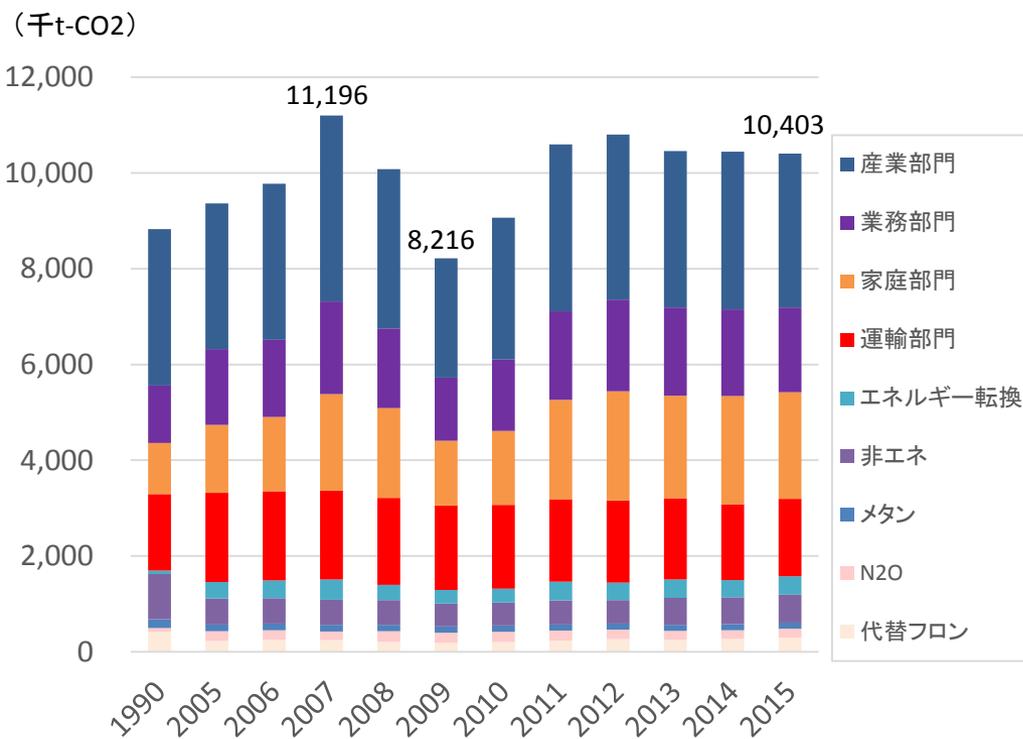
福井地方気象台（福井市）の
最大1時間雨量の変化



提供：福井地方気象台

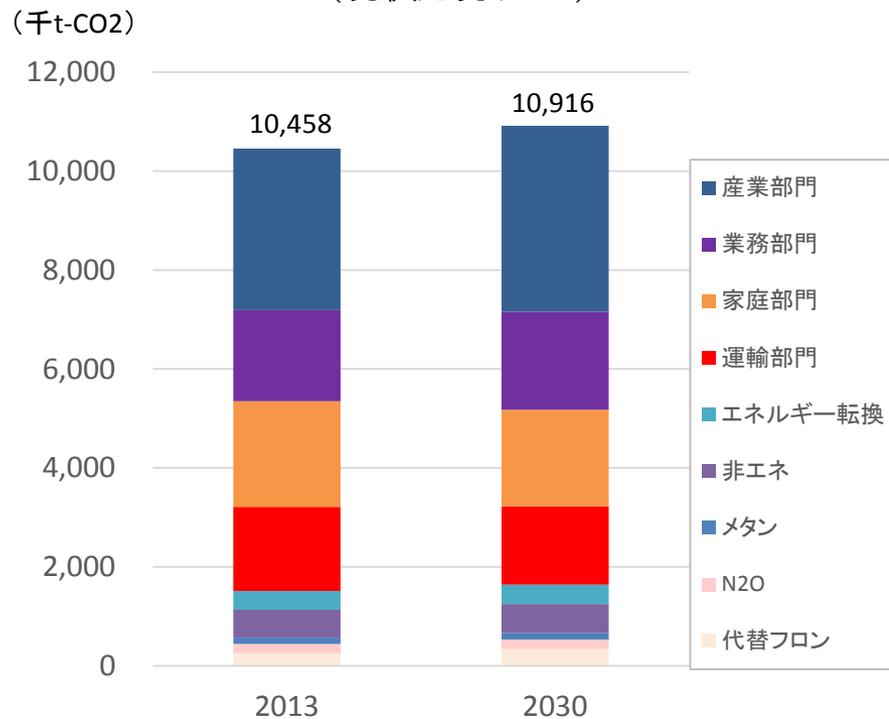
- 本県の温室効果ガス排出量は、2007年度をピークに減少傾向にあったが、2011年3月の東日本大震災の影響で火力発電所の稼働が増えたことから増加傾向に転じた
- 2030年度の排出量を推計すると、2013年度と比較し、約5%増加する見込み

本県の温室効果ガス排出量の推移



出典：福井県「環境白書」

本県の温室効果ガス排出量の将来推計 (現状趨勢ケース)



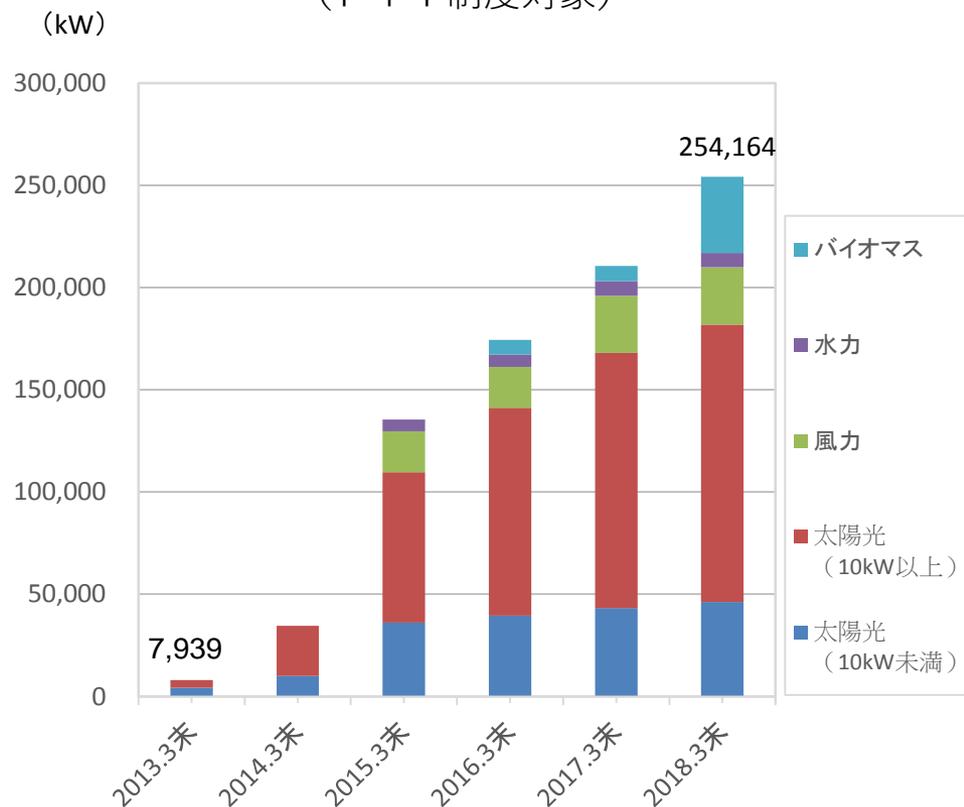
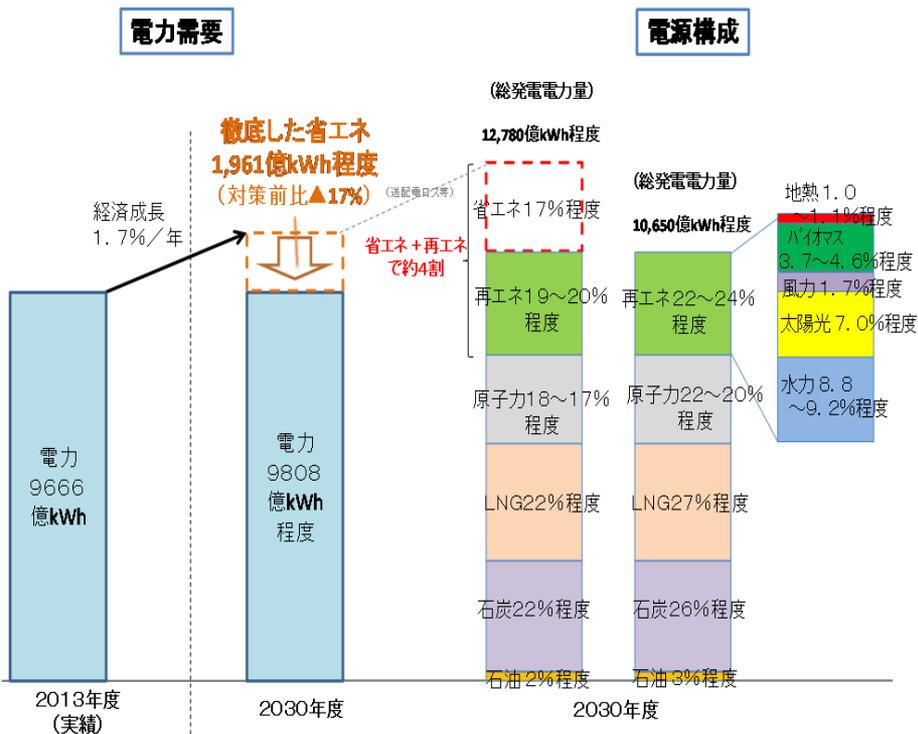
出典：福井県環境基本計画（平成30年3月）

○国が示した2030年度のエネルギーミックス（再エネ比率 22～24%）の達成には、再生可能エネルギーの導入拡大が不可欠

○本県における再生可能エネルギーは、FIT制度の開始に伴い大幅に増加

長期エネルギー需給見通し（国）

県内の再生可能エネルギーの導入量推移（FIT制度対象）

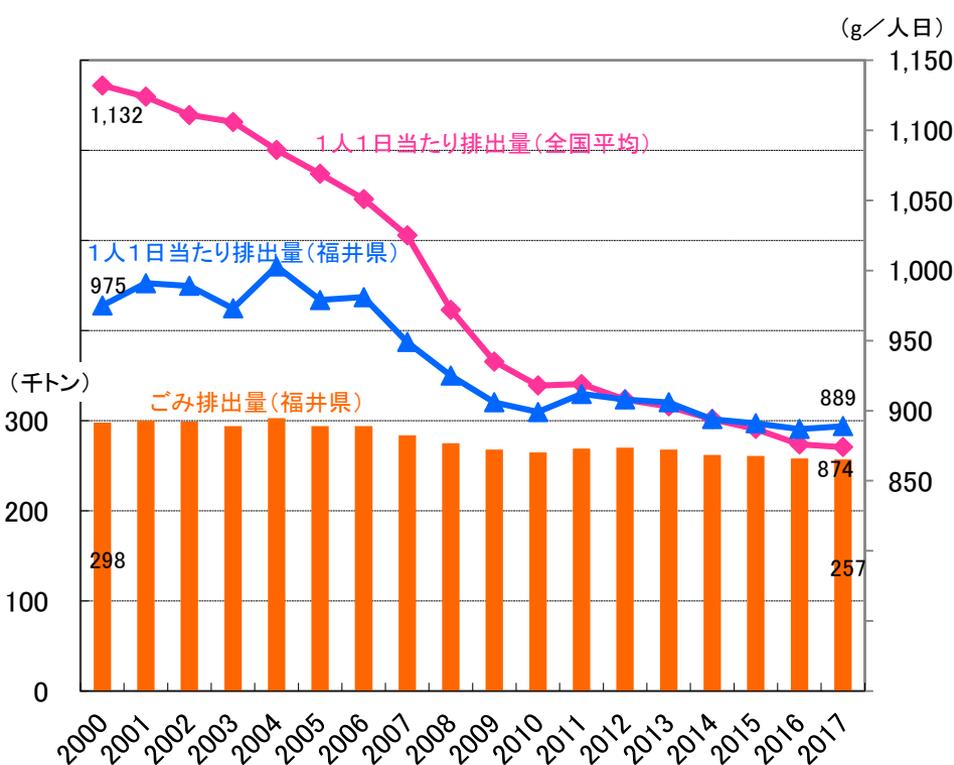


出典：経済産業省「長期エネルギー需給見通し」

出典：資源エネルギー庁公表データを基に福井県作成

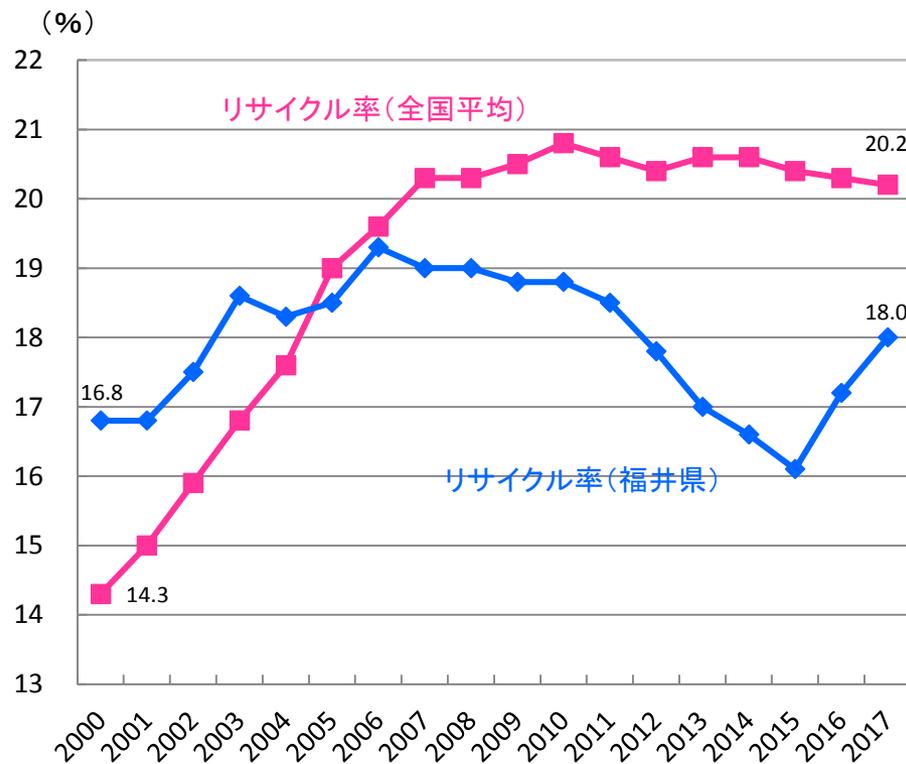
- 県民一人一日当たりのごみ排出量（一般廃棄物）は、2013年度から全国平均より多くなっている
- リサイクル率は、2016年度以降、増加傾向

一般廃棄物排出量の推移



出典：環境省一般廃棄物処理事業実態調査を用いた福井県独自集計

一般廃棄物リサイクル率の推移



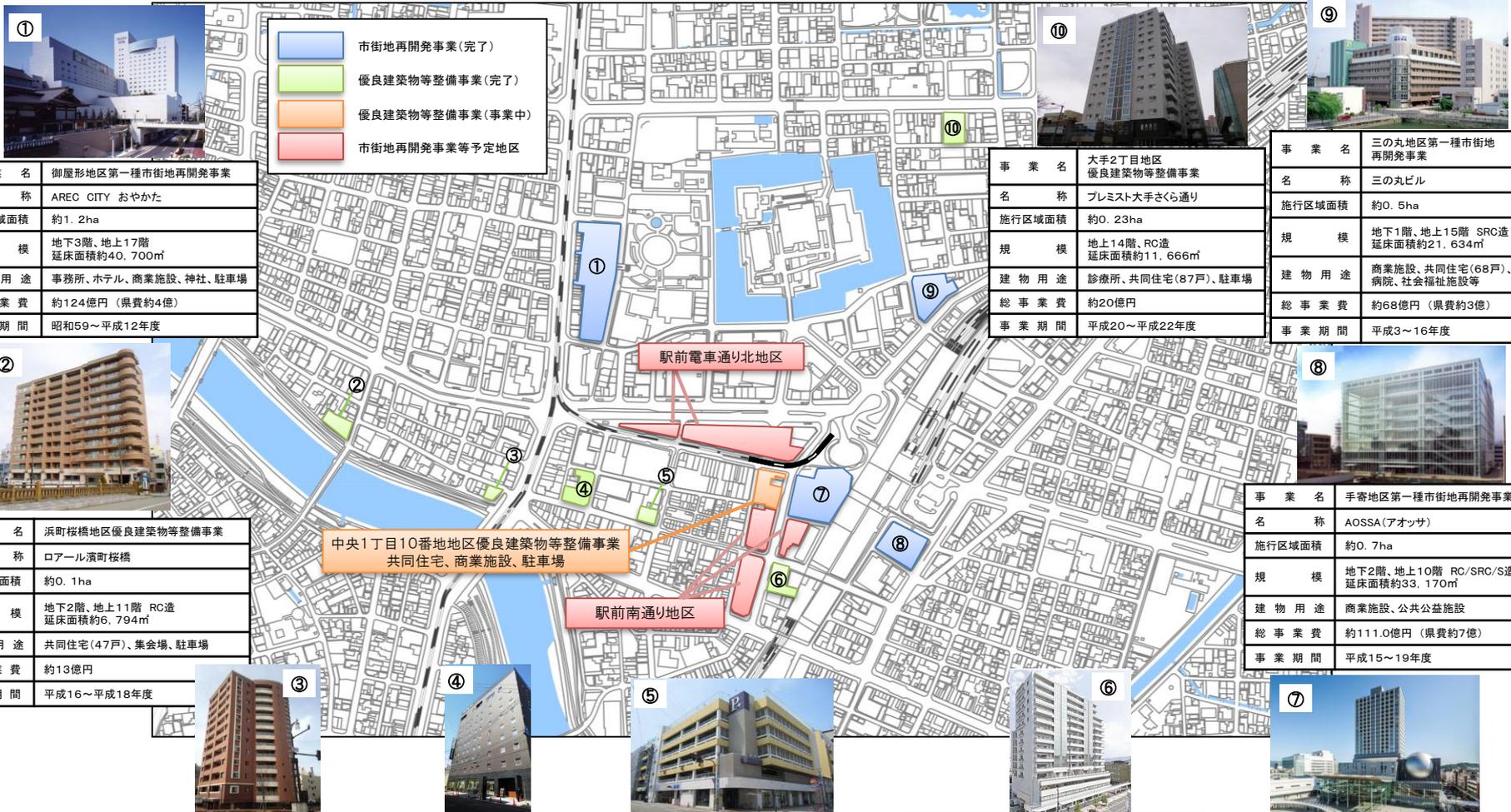
出典：環境省一般廃棄物処理事業実態調査

社会基盤

2 県土・行政 (1) 福井駅周辺の再開発

○アオッサ (2003~2007) やハピリン (2012~2016) などの大型再開発事業が順次完成

○さらに、北陸新幹線福井・敦賀開業を控え、駅前電車通り北地区などの再開発が進行中



事業名	御鷹形地区第一種市街地再開発事業
名称	AREC CITY およかた
施行区域面積	約1.2ha
規模	地下3階、地上17階 延床面積約40,700㎡
建物用途	事務所、ホテル、商業施設、神社、駐車場
総事業費	約124億円 (県費約4億)
事業期間	昭和59~平成12年度

市街地再開発事業(完了)
優良建築物等整備事業(完了)
優良建築物等整備事業(事業中)
市街地再開発事業等予定地区



事業名	大手2丁目地区優良建築物等整備事業
名称	プレミスト大手さくら通り
施行区域面積	約0.23ha
規模	地上14階、RC造 延床面積約11,666㎡
建物用途	診療所、共同住宅(87戸)、駐車場
総事業費	約20億円
事業期間	平成20~平成22年度



事業名	三の丸地区第一種市街地再開発事業
名称	三の丸ビル
施行区域面積	約0.5ha
規模	地下1階、地上15階 SRC造 延床面積約21,634㎡
建物用途	商業施設、共同住宅(68戸)、病院、社会福祉施設等
総事業費	約68億円 (県費約3億)
事業期間	平成3~16年度



事業名	浜町桜橋地区優良建築物等整備事業
名称	ロアール浜町桜橋
施行区域面積	約0.1ha
規模	地下2階、地上11階 RC造 延床面積約6,794㎡
建物用途	共同住宅(47戸)、集会場、駐車場
総事業費	約13億円
事業期間	平成16~平成18年度

中央1丁目10番地地区優良建築物等整備事業 共同住宅、商業施設、駐車場



事業名	手寄地区第一種市街地再開発事業
名称	AOSSA(アオッサ)
施行区域面積	約0.7ha
規模	地下2階、地上10階 RC/SRC/S造 延床面積約33,170㎡
建物用途	商業施設、公共公益施設
総事業費	約111.0億円 (県費約7億)
事業期間	平成15~19年度



事業名	中央3丁目地区優良建築物等整備事業
名称	幸橋グランドCHA
施行区域面積	約0.1ha
規模	地下2階、地上12階 RC造 延床面積約4,345㎡
建物用途	共同住宅(33戸)、駐車場、商業施設
総事業費	約11億円
事業期間	平成19~平成21年度

事業名	中央1丁目18番地地区優良建築物等整備事業
名称	ドゥーメイン
施行区域面積	約0.2ha
規模	地上9階 RC造 延床面積約5,864㎡
建物用途	ホテル(189室)、駐車場
総事業費	約20億円
事業期間	平成29~30年度

事業名	中央1丁目地区優良建築物等整備事業
名称	サカエパーキング「P+」
施行区域面積	約0.1ha
規模	地上5階、S造 延床面積約2,790㎡
建物用途	商業施設、駐車場(83台)
総事業費	約4.4億円
事業期間	平成17~平成18年度

事業名	中央1丁目(駅前南通り)地区優良建築物等整備事業
名称	エアリス
施行区域面積	約0.2ha
規模	地上14階 SRC造 一部RC造 延床面積約10,470㎡
建物用途	商業施設、共同住宅(75戸)、駐車場
総事業費	約19億円
事業期間	平成19~21年度

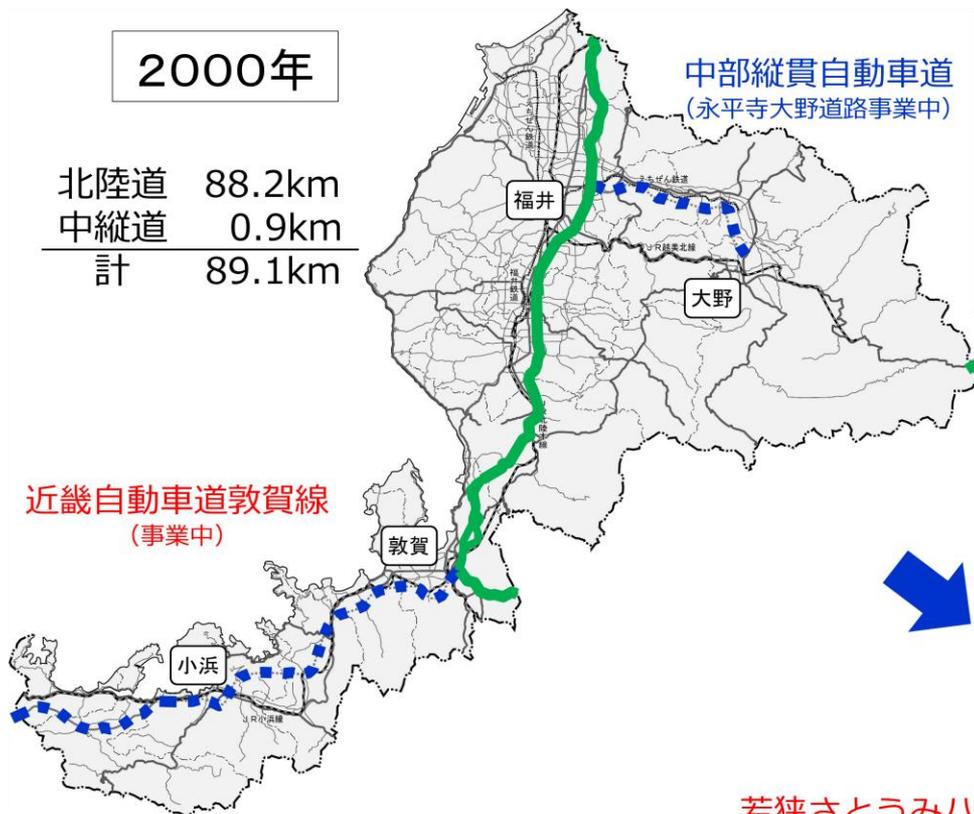
事業名	福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業
名称	Happing(ハピリン)
施行区域面積	約0.7ha
規模	地下2階、地上21階 RC/SRC/S造 延床面積約35,121㎡※屋根付き広場含む
建物用途	商業施設、公共公益施設、共同住宅(88戸)、駐車場
総事業費	約111.5億円 (県費約9億) ※屋根付き広場除く
事業期間	平成24~28年度

○若狭さとうみハイウェイ、中部縦貫自動車道の整備により、県内が一本の高速道路で接続

2000年

北陸道	88.2km
中縦道	0.9km
計	89.1km

中部縦貫自動車道
(永平寺大野道路事業中)



近畿自動車道敦賀線
(事業中)

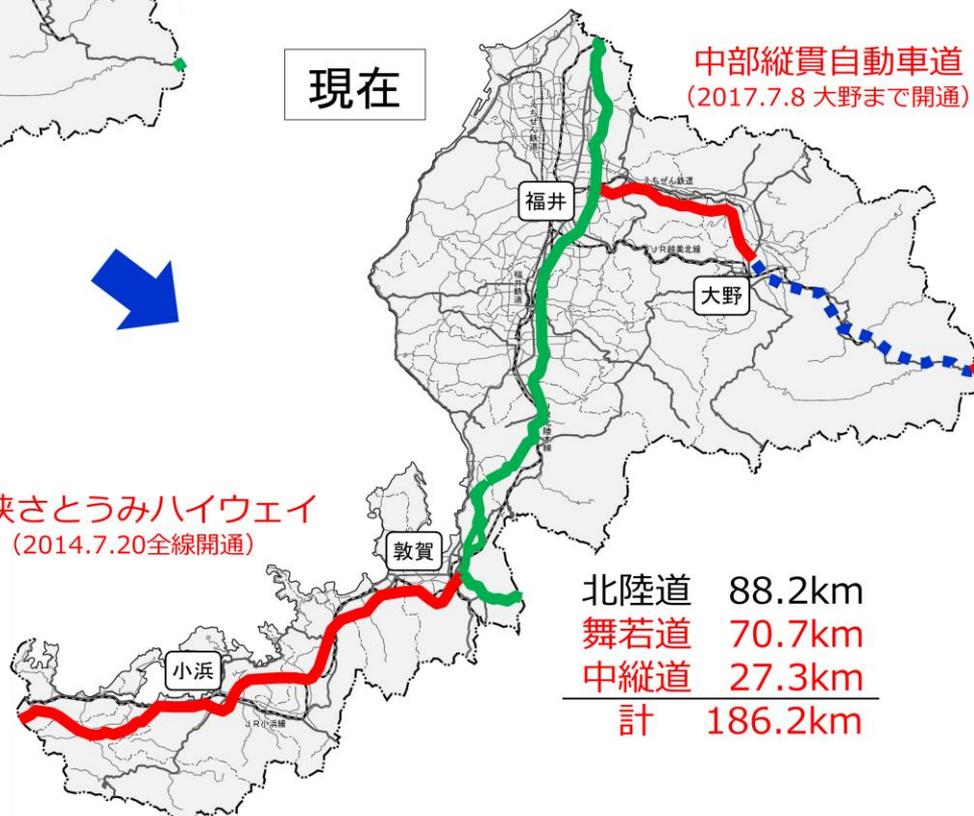


恐竜博物館 (2000年7月開館)

現在

中部縦貫自動車道
(2017.7.8 大野まで開通)

若狭さとうみハイウェイ
(2014.7.20全線開通)



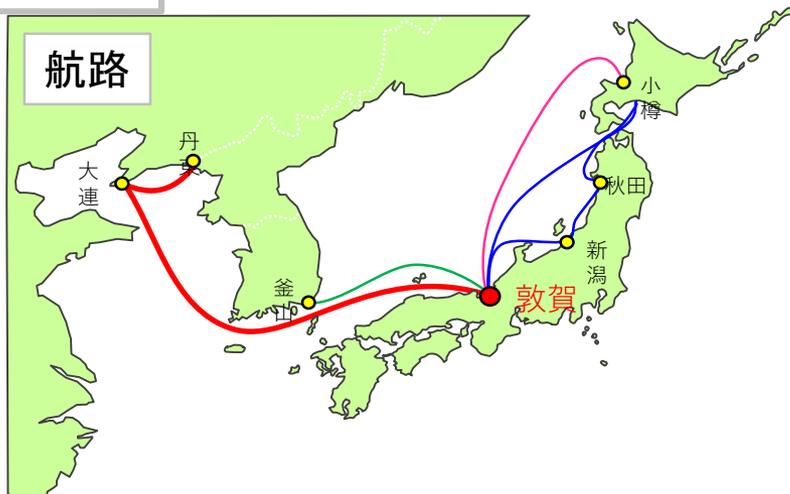
北陸道	88.2km
舞若道	70.7km
中縦道	27.3km
計	186.2km



年縞博物館 (2018年9月オープン)

- 岸壁整備、ふ頭用地の造成により、R O R O 船の航路や貨物の取扱量が増加
- 今年4月から新たに敦賀港～博多航路が就航

1999年



2019年



フェリー	～小樽	週7便
	～新潟～秋田～小樽	週1便
コンテナ船	韓国(釜山)	週2便
	中国(丹東、大連)	週1便

フェリー	～苫小牧東	週7便
	～新潟～秋田～苫小牧東	週1便
コンテナ船	韓国(釜山)	週2便
	韓国・中国航路	週1便
RORO船	～苫小牧西	週6便
	～博多(2019.4～)	週6便
	韓国航路	週2便

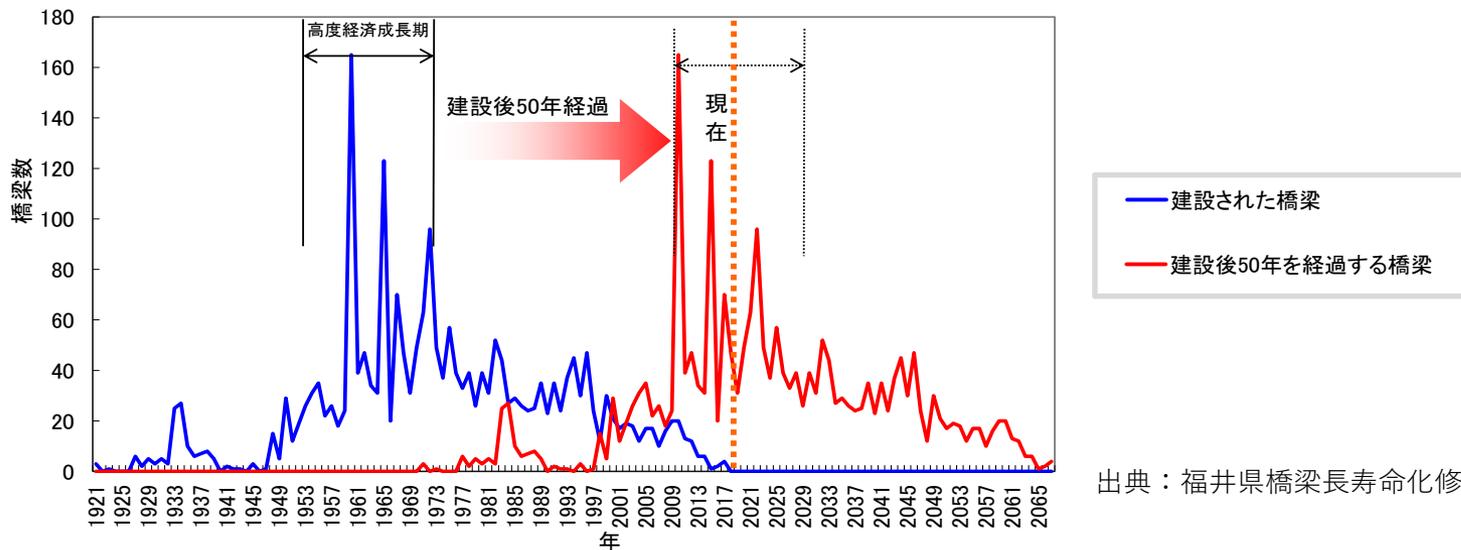
海上出入貨物

外国貿易	内国貿易	合計
1,716千トン	8,375千トン	10,091千トン

外国貿易	内国貿易	合計
3,790千トン	12,171千トン	15,961千トン

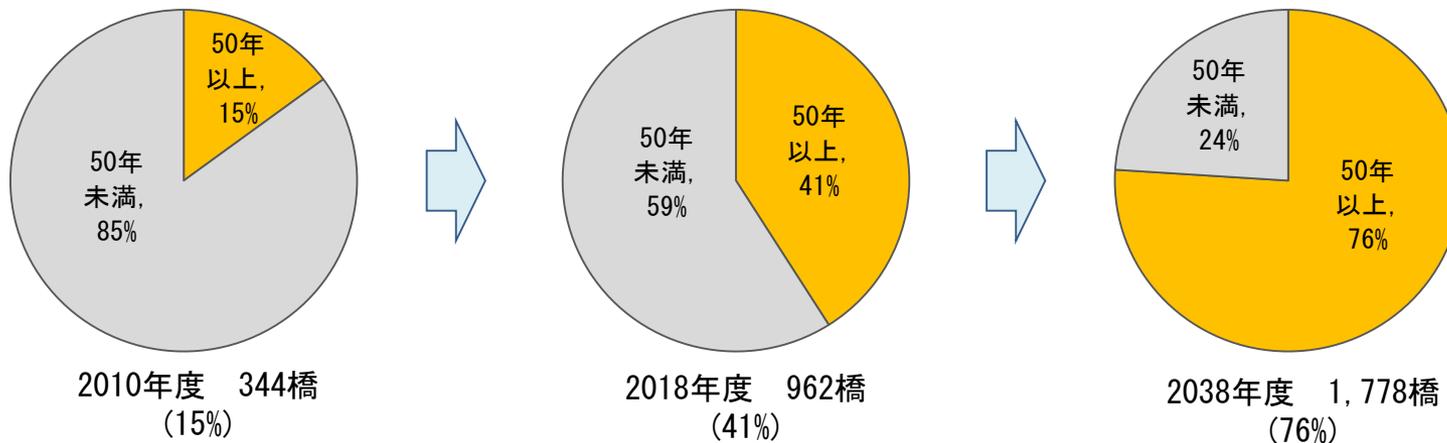
- 高度経済成長期に集中的に整備されたインフラが老朽化
- 2040年頃には、約8割の橋梁が、建設後50年を超える

新設橋梁と老朽化橋梁数の推移



出典：福井県橋梁長寿命化修繕計画

老朽化橋梁の割合の推移

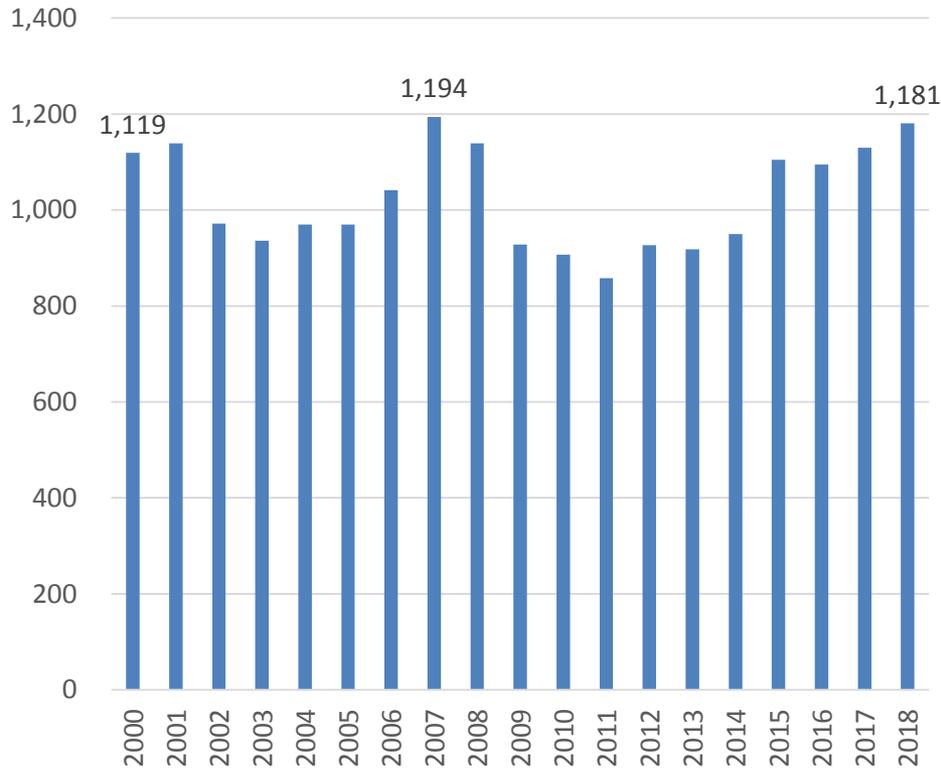


○県税収入は、2008年のリーマンショックにより減少したが、近年増加傾向

○県債残高は、歳入確保、歳出合理化を推進し、着実に減少

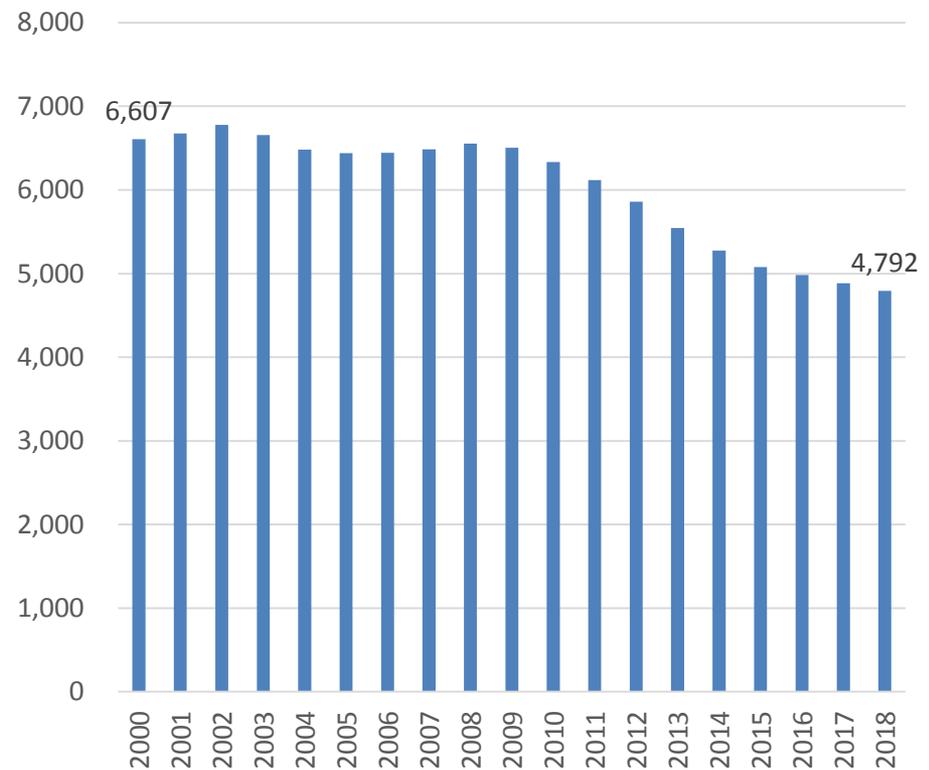
県税収入の推移

(億円)



県債残高の推移

(億円)

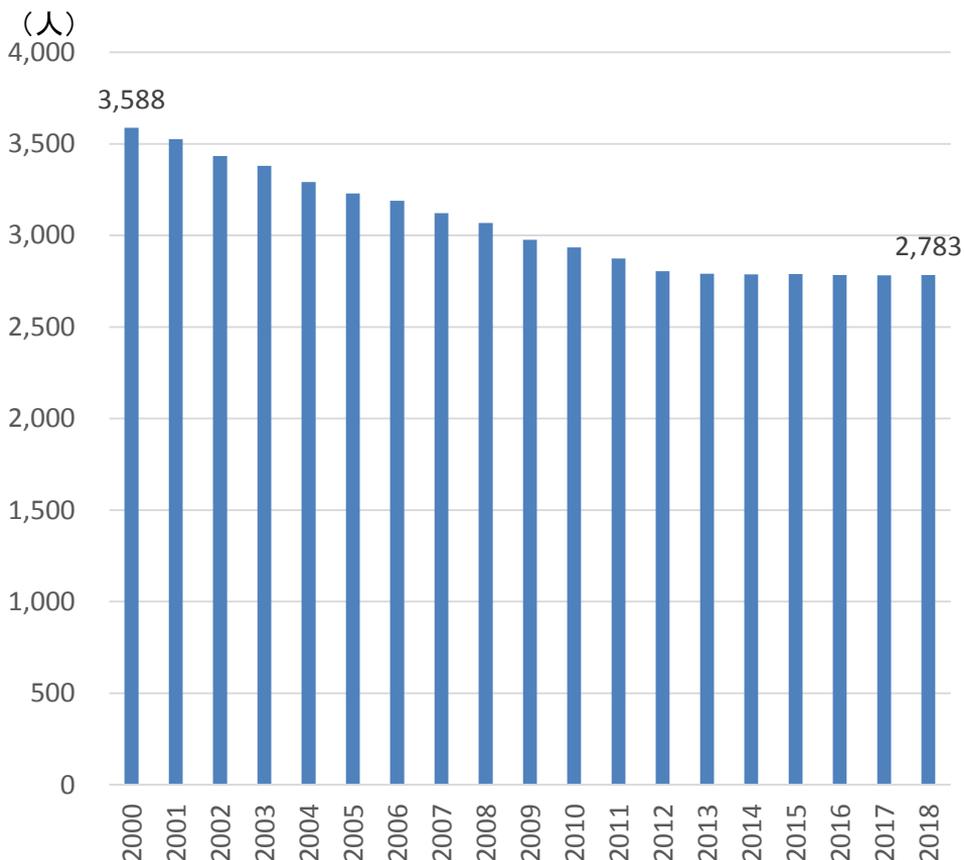


※臨時財政対策債除く

○県職員（一般行政部門）は、2000年から2018年にかけて805人減少（▲22%）

福井県職員数の推移（一般行政部門）

部門別職員数（2018年）



		（人）	
普通 会 計	福祉関係を除く一般行政	議 会	25
		総務・企画	526
		税 務	101
		労 働	46
		農林水産	650
		商 工	169
		土 木	630
		小 計	2,147
	福祉関係	民 生	256
		衛 生	380
		小 計	636
	一般行政計	2,783	
	教 育	7,605	
	警 察	2,074	
	普通会計計	12,462	
公 営 企 業 等 会 計		病 院	1,062
		水 道	10
		下 水 道	4
		そ の 他	33
		公営企業等会計計	1,109
総 合 計			13,571